佐賀県文化財調査報告書第108集

佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書　10

1992年3月

佐賀県教育委員会

佐賀県農業基盤整備事業に係る
文化財調査報告書　10

１９９２年３月

佐 賀 県 教 育 委 員 会

はじめに

この報告書は、佐賀県農業基盤整備事業の実施に先立ち、埋蔵文化財の確認調査を行なった結果についてまとめたものです。

県教育委員会では、文化財の保護と農業生産基盤の整備事業との調整を図るため、事業実施に先立って確認調査を行い、その結果に基づいて文化財の保護行政を進めております。

平成２年度につきましても関係各位のご協力のもとに、事業計画予定地内における埋蔵文化財の存否について確認調査を行ったところ、縄文時代から近世に至る多くの遺跡の存在が確認されました。この調査結果を踏まえ、県及び関係市町村の農林担当部局との間で文化財の保護と農業基盤整備事業との調和について協議し、関係各位の御努力によって多くの遺跡を後世に伝えるとともに発掘調査による記録保存が可能となりました。

また、同時掲載しております発掘調査(本調査)の記述については、平成元年度に実施した確認調査によってその所在を確認した遺跡のうち、基盤整備の設計変更等による文化財の保護措置を尽くした結果、最終的に平成２年度において発掘調査に至ったものの概要報告であり、その調査成果の一端を紹介するものです。

調査にあたって、文化庁・県農林部・関係市町村の教育委員会・土地改良担当課並びに地元の皆様から深い御理解とご協力を賜り、お陰をもちまして埋蔵文化財の保護について所期の使命を果たすことができました。関係各位に対し、心からお礼申し上げます。

平成４年３月31日

佐賀県教育委員会

教育長　堤　　清　行

例　　言

1．本書は国庫補助を受け、平成２年度及び翌３年度に施工計画の佐賀県農業基盤整備事業に先行して、平成２年度に実施した確認調査並びに本調査の成果をまとめたものである。

2．確認調査は関係市町村教育委員会の協力を得て、佐賀県教育委員会が実施した。

3．遺構の実測及び写真撮影は各調査員が行った。

4．遺物の整理・実測・製図・報告書作成作業は佐賀県教育委員会文化財課で行った。

図面・写真のレイアウト、トレース

上瀧光子・三好文子・光石逸子・江島美恵子・山口美佐子

5．本書の執筆は下記の分担で行った。また、執筆に当たっては各調査担当者より提出された「確認調査結果報告書」並びに「発掘調査実績報告書」を参考にした。なお各調査担当者には必要に応じてご教示を戴いた。

Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ ……松尾　吉高

Ⅳ-1、2……石橋　新次	Ⅳ-3、4……久山　高史	Ⅳ-5 …山田　正・田中　正弘
Ⅳ ……6 ……太田　睦	Ⅳ-7……原田　大介	Ⅳ-8、9……鶴田　浩二
Ⅳ-10 ……久保　伸洋	Ⅳ-11～13 ……八尋　実	Ⅳ-14 ……堤　安信
Ⅳ-15、17……前田　達男	Ⅳ-16、18、19 …西田　巌	Ⅳ-20～22 ……木島　慎治
Ⅳ-23～25 ……福田　義彦	Ⅳ-26 ……牟田　裕二	Ⅳ-27 ……平嶋　文博
Ⅳ-28 ……加田　隆志	Ⅳ-29～31 ……渡部　俊哉	Ⅳ-32 ……立石　泰久
Ⅳ-33～36 ……田島　龍太	Ⅳ-37 ……藤井　浩司	Ⅳ-38 ……宮武　正登

6．本書の編集は松尾吉高が担当したが平成元年度報告書を修正、加筆して実施した。

凡　　例

1．用いた方位は地図が座標北、遺構図は磁北である。

2．挿図中の記号で、■は遺構・遺物包含層が検出された試掘溝

□は遺構・遺物包含層が検出されなかった試掘溝を示す。

目　　次

Ⅰ．調査に至る経過 …… 1

1．平成２年度農業基盤整備事業に伴う文化財確認調査…… 1

（1）設計協議…… 1

（2）文化財確認調査…… 1

（3）農業基盤整備事業と文化財保護に係る協議…… 2

Ⅱ．調査組織 …… 9

Ⅲ．平成２年度文化財確認調査の内容 ……11

《佐賀東部地区における調査》 ……11

（1）鳥栖市……12

（2）中原町……17

（3）上峰町……17

（4）神埼町……19

《佐賀西部地区における調査》 ……22

（5）佐賀市……23

（6）多久市……32

（7）川副町……33

《佐賀南部地区における調査》 ……37

（8）鹿島市……38

（9）白石町……38

(10) 太良町……41

(11) 有明町……41

《佐賀北部地区における調査》 ……43

(12) 伊万里市……44

(13) 西有田町……44

(14) 相知町……44

《佐賀上場地区における調査》 ……46

(15) 唐津市……47

(16) 浜玉町……47

(17) 鎮西町……49
(18) 玄海町……49
(19) 肥前町……49
《筑後川下流用水事業(佐賀東部導水路)に係る調査》……50
(20) 上峰町……50
(21) 諸富町……50
(22) 千代田町……50
IV. 平成2年度発掘調査の概要……51
《佐賀東部地区における調査》……52
(1) 原古賀遺跡(鳥栖市)……52
(2) 養父遺跡(鳥栖市)……54
(3) 本村遺跡(鳥栖市)……56
(4) 西田遺跡(鳥栖市)……58
(5) 鈴町遺跡(基山町)……60
(6) 原古賀遺跡群(拾徳遺跡・高柳三本松遺跡)(中原町)……62
(7) 八藤遺跡(上峰町)……64
(8) 堤六本谷遺跡(上峰町)……66
(9) 堤土塁(上峰町)……68
(10) 上石動遺跡(東脊振村)……70
(11) 井手遺跡(神埼町)……72
(12) 迎田遺跡I・II区(神埼町)……74
(13) 迎田遺跡III・IV区(神埼町)……76
(14) 貴別当神社遺跡(千代田町)……78
《佐賀西部地区における調査》……80
(15) 篠木野遺跡(佐賀市)……80
(16) 原ノ町遺跡(佐賀市)……82
(17) 村徳永遺跡(佐賀市)……84
(18) 東高田遺跡(佐賀市)……86
(19) 櫟木遺跡(佐賀市)……88
(20) 南宿遺跡(佐賀市)……90
(21) 北宿遺跡(佐賀市)……92
(22) 久富遺跡(佐賀市)……94

(23) 阿高遺跡（佐賀市）……96
(24) 寺裏遺跡（佐賀市）……98
(25) 梅屋敷遺跡（佐賀市）……100
(26) 瓦町遺跡（佐賀市）……102
(27) 四反田遺跡（多久市）……104
《佐賀南部地区における調査》……106
(28) 則重遺跡・正願寺遺跡（鹿島市）……106
(29) 船野遺跡（白石町）……108
(30) 多田遺跡（白石町）……110
(31) 鳥ノ巣遺跡（白石町）……112
(32) 糸岐川南遺跡（太良町）……114
《佐賀上場地区における認査》……116
(33) 竹木場前田遺跡（唐津市）……116
(34) 菅牟田遺跡（唐津市）……118
(35) 山田団六Ⅰ・Ⅱ遺跡（唐津市）……120
(36) 湊松本遺跡（唐津市）……122
(37) 新木場東遺跡（肥前町）……124
《筑後川下流用水事業に係る調査》……126
(38) 原の町遺跡（千代田町）……126

V. 総　括……128

挿図目次

図 1 平成2年度農業基盤整備事業に伴う文化財調査地区位置図……3～4
図 2 佐賀東部地区周辺地形図……11
図 3 鳥栖市：鳥栖北部地区(山浦地区)試掘溝設定図……13
図 4 鳥栖市：鳥栖北部地区(養父地区)試掘溝設定図……14
図 5 中原町：中原北部地区(綾部地区)試掘溝設定図……15
図 6 中原町：中原北部地区(高柳地区)試掘溝設定図……16
図 7 上峰町：上峰北部地区試掘溝設定図……18
図 8 神埼町：神埼工区(城原工区)試掘溝設定図……20
図 9 佐賀西部地区周辺地形図……22

図 10　佐賀市：久保泉東部地区試掘溝設定図 ……24
図 11　佐賀市：久保泉西部地区試掘溝設定図（1） ……25
図 12　佐賀市：久保泉西部地区試掘溝設定図（2） ……26
図 13　佐賀市：金立南部地区試掘溝設定図 ……28
図 14　佐賀市：金立北部地区試掘溝設定図 ……29
図 15　佐賀市：北川副地区試掘溝設定図 ……30
図 16　佐賀市：兵庫南部地区試掘溝設定図 ……31
図 17　多久市：多久東部地区(高木川内地区)試掘溝設定図 ……34
図 18　川副町：川副中部地区(早津江地区)試掘溝設定図 ……35
図 19　川副町：川副中部地区(鰐江地区)試掘溝設定図 ……36
図 20　佐賀南部地区周辺地形図 ……37
図 21　白石町：白石第三地区試掘溝設定図 ……39
図 22　白石町：白石第四地区試掘溝設定図 ……40
図 23　佐賀北部地区周辺地形図……43
図 24　佐賀上場地区周辺地形図 ……46
図 25　唐津市：上場II期地区(湊I区)試掘溝設定図 ……48
図 26　原古賀遺跡周辺地形図 ……52
図 27　(1)原古賀遺跡遺構集中部(西から)　(2)SX01祭祀土壙上層(西から)
(3)SX01祭祀土壙下層(西から)　(4)SK02土壙(南から) ……53
図 28　養父遺跡周辺地形図 ……54
図 29　(1)養父遺跡I区全景(西から)　(2)I区SH03住居跡(西から)(3)II区全景(北西から)
(4)II区全景(東から)　(5)II区SH02住居跡(西から)　(6)SH04住居跡(南から) ……55
図 30　本村遺跡周辺地形図 ……56
図 31　(1)本村遺跡I区全景(東から)　(2)I区池状遺構(西から)　(3)II区全景(南から)
(4)II区中世土壙(東から)　(5)III区近世埋甕遺構(南から)
(6)III区中世掘立柱建物跡(北から) ……57
図 32　西田遺跡周辺地形図 ……58
図 33　(1)西田遺跡I区集石群検出状況(西から)　(2)I区集石遺構検出状況(南から) ……59
図 34　(1)西田遺跡I区集石群検出状況(西から)　(2)I区SX45・SX46集石炉(南から)
(3)I区SX47集石土壙(南から)　(4)I区SX32集石土壙(東から)
(5)I区SX65集石炉(北から)　(6)I区SX58・SX59集石炉検出状況(西から)
(7)I区SX59集石炉(北から)……60
図 35　(1)西田遺跡I区SX53集石土壙墓(北から)　(2)I区SK49土壙(東から)

(3)Ⅰ区押型文土器出土状況(北から)　(4)Ⅱ区船元式土器出土状況(北から)
(5)Ⅲ区帯状配石検出状況(北から)　(6)Ⅲ区帯状配石検出状況(西から)
(7)Ⅲ区帯状配石内集石土壙(北から)……61
図 36　鈴町遺跡周辺地形図……62
図 37　(1)鈴町遺跡全景　(2)6号壷棺墓(西から)　(3)2号土壙(南から)……63
図 38　原古賀遺跡群周辺地形図…64
図 39　(1)高柳三本桜遺跡Ⅰ・Ⅱ全景　(2)Ⅰ区全景　(3)Ⅲ・Ⅳ区全景　(4)Ⅴ区全景
(5)Ⅵ区全景　(6)Ⅵ区掘立柱建物跡……65
図 40　八藤遺跡周辺地形図……66
図 41　(1)八藤遺跡Ⅳ区全景(北西から)　(2)縄文時代土壙(西から)
(3)縄文時代土壙(南から)　(4)縄文時化遺物包含層調査風景
(5)弥生時代竪穴式住居(南から)　(6)弥生時代円形土壙(北から)
(7)奈良時代溝状遺構・土壙・柱穴群(南東から)
(8)奈良時代周溝を伴う掘立柱建物跡(南東から)……67
図 42　堤六本谷遺跡周辺地形図……68
図 43　堤六本谷遺跡調査区位置図……69
図 44　堤六本谷遺跡Ⅰ区全景　(2)Ⅱ区全景　(3)Ⅲ・Ⅴ区遺構集中部……69
図 45　堤土塁周辺地形図……70
図 46　堤土塁地形測量図……71
図 47　(1)堤土塁と溝状遺構(東北東から)　(2)堤土塁調査区全景(東から)
(3)溝状遺構北側溝(東北側東から)……72
図 48　上石動遺跡周辺地形図……72
図 49　(1)上石動遺跡横穴式石室(上から)　(2)横穴式石室(南から)
(3)土壙墓(南から)　(4)掘立柱建物跡……73
図 50　井出遺跡周辺地形図……74
図 51　(1)井出遺跡調査区全景　(2)掘立柱建物跡全景　(3)木製品出土状況……75
図 52　迎田遺跡Ⅰ・Ⅱ周辺地形図……76
図 53　(1)迎田遺跡Ⅰ区調査区全景　(2)Ⅱ区調査区全景　(3)Ⅰ区竪穴住居跡検出状況(東から)……77
図 54　迎田遺跡Ⅲ・Ⅳ周辺地形図……78
図 55　(1)迎田Ⅲ区設査区全景　(2)迎田Ⅳ区調査区全景　(3)官道土層堆積状況……79
図 56　貴別当神社遺跡周辺地形図……80
図 57　(1)貴別当神社遺跡Ⅱ区全景(南から)　(2)SK019貯蔵穴
(3)SK019貯蔵穴梯子出土状況　(4)SE012井戸跡　(5)SE030井戸跡……81

図 58　篠木野遺跡周辺地形図 ……82
図 59　(1)左が篠木野遺跡、右が村徳永遺跡K地点(南から)
(2)篠木野遺跡(北から)　(3)SE109井戸跡 ……83
図 60　原ノ町遺跡周辺地形図 ……84
図 61　(1)原ノ町遺跡SK101土壙(南から)　(2)SK110土壙(北西から)
(3)SK121掘立柱建物跡(東から)　(4)SH130竪穴住居跡(南から)
(5)調査区全景(西から) ……85
図 62　村徳永遺跡周辺地形図 ……86
図 63　(1)村徳永遺跡K1区東側　(2)K1区円形竪穴住居跡　(3)K1区西側
(4)KII区土器溜　(5)KII区方形竪穴住居跡　(6)作業風景 ……87
図 64　東高田遺跡周辺地形図 ……88
図 65　(1)東高田遺跡I区竪穴住居跡　(2)I区SB109・SB111・SB112掘立柱建物跡
(3)III区SH353竪穴住居跡　(4)II区SH242・SH261・SH265・SH266竪穴住居跡
(5)I区全景 ……89
図 66　櫟木遺跡周辺地形図 ……90
図 67　(1)櫟木遺跡SB105掘立柱建物遺跡(西から)　(2)SX103不明遺構(東から)
(3)SX104不明遺構(東から)　(4)調査区全景(南から) ……91
図 68　南宿遺跡周辺地形図 ……92
図 69　(1)南宿遺跡4区全景(西から)　(2)SB417掘立柱建物跡・SB420周溝状遺構(北から)
(3)SE402井戸跡遺物出土状況(東から)　(4)SE407井戸跡遺物出土状況
(5)SA409・SA410柵列全景・SD405溝跡(北から) ……93
図 70　北宿遺跡周辺地形図 ……94
図 71　(1)北宿遺跡調査区全景(南から)　(2)SE101井戸跡全景(南から)
(3)SB102掘立柱建物跡全景(南から) ……95
図 72　久富遺跡周辺地形図 ……96
図 73　(1)久富遺跡I区SD101溝跡(南から)　(2)II区SH102竪穴住居跡　(3)I区全景
(4)III区SK301土壙遺物出土状況(北から)　(5)I区SE104井戸跡遺物出土状況 ……97
図 74　阿高遺跡周辺地形図 ……98
図 75　(1)阿高遺跡遺構検出状況　(2)SK059土壙　(3)SK088土壙　(4)SK098土壙
(5)調査区全景 ……99
図 76　寺裏遺跡周辺地形図……100
図 77　(1)寺裏遺跡遺構検出状況　(2)SK018土壙　(3)SK002土壙　(4)SK007土壙
(5)調査区全景……101

図 78　梅屋敷遺跡周辺地形図……102
図 79　(1)梅屋敷遺跡調査区全景　(2)SB018掘立柱建物跡　(3)土壙検出状況
(4)土壙検出状況……103
図 80　瓦町遺跡周辺地形図……104
図 81　(1)瓦町遺跡貯蔵穴検出状況　(2)木器検出状況　(3)木製高杯検出状況
(4)II区全景　(5)I区全景……105
図 82　四反田遺跡周辺地形図……106
図 83　(1)四反田遺跡遠景(西から)　(2)B区遠景(西から)　(3)A区遠景(西から)
(4)A区SB110竪穴住居跡　(5)B区竪穴住居跡　(6)B区SB008竪穴住居跡出土鏡 ……107
図 84　則重遺跡・正願地遺跡周辺地形図 ……108
図 85　(1)則重遺跡調査区全景(北から)　(2)則重遺跡SH01・SH02・SH03住居跡(北から)
(3)則重遺跡SH05住居跡(東から)　(4)則重遺跡SH203住居跡(南から)
(5)正願地遺跡A・B・C調査区全景(北から)　(6)正願地遺跡D調査区全景(東から)
図 86　船野遺跡周辺地形図……109
図 87　(1)船野遺跡A地区高城内壕跡　(2)C地区全景　(3)SD009出土杓子状木製品 ……110
図 88　多田遺跡周辺地形図……111
図 89　(1)多田遺跡I区全景　(2)SK275土壙　(3)SK274土器出土状況　(4)SK246土壙……112
図 90　鳥ノ巣遺跡周辺地形図……113
図 91　(1)鳥ノ巣遺跡全景　(2)SD001南端付近　(3)SK030土壙　(4)SK031土壙 ……114
図 92　糸岐川南遺跡周辺地形図……115
図 93　(1)糸岐川南遺跡I区全景(北から)　(2)II区全景(西南から)　(3)IV区全景(西から)…116
図 94　竹木場前田遺跡周辺地形図……117
図 95　道遺構関連遺物……118
図 96　出土遺物実測図……118
図 97　(1)竹木場前田遺跡遠景(北東から)　(2)調査区全景(東から)　(3)調査区全景(北西から)
(4)遺物出土状況(ユニット)　(5)遺構検出状況(炉跡)　(6)遺構検出状況(石槍)……119
図 98　菅牟田西山遺跡周辺地形図……120
図 99　出土遺物実測図……120
図100　(1)菅牟田西山遺跡遠景(南東から)　(2)遺跡近景(南西から)　(3)調査区状況(北西隅から)
(4)調査状況(F-16区周辺)　(5)土層状況(D-6区南壁)　(6)遺物出土状況(G-18区周辺)
(7)遺物出土状況(掻器4) ……121
図101　山田団六I・II遺跡周辺地形図 ……122
図102　出土遺物実測図……122

図103　(1)山田団六Ⅰ遺跡遠景(南東から)　(2)Ⅱ遺跡遠景(北西から)
(3)Ⅰ調査区A・B-37、48区(南から)　(4)Ⅰ調査区A・B-25、26区(南から)
(5)Ⅰ調査区A・B-13、24区(南から)(6)Ⅰ調査区A・B-1、12区(南から)
(7)Ⅱ調査区全景、遺物出土状況(北から)　(8)遺物出土状況(北西から)……123
図104　湊松本遺跡周辺地形図……124
図105　縄文時代の遺物実測図……124
図106　中世の出土遺物実測図……125
図107　(1)湊松本遺跡(北西から)　(2)土壙墓人骨出土状況(縄文後期)
(3)調査区全景(北西から)　(4)検出遺構(SE301井戸)
(5)遺物出土状況(下駄)　(6)遺物出土状況(漆器椀)……125
図108　新木場東遺跡周辺地形図……126
図109　(1)新木場東遺跡遠景(北から)　(2)遺跡全景(東から)　(3)SK014土壙(南から)
(4)遺物出土状況(東から)　(5)剥片尖頭器出土状況　(6)彫器出土状況……127
図110　原の町西遺跡周辺地形図……128
図111　(1)原の町西遺跡Ⅰ区遠景(西から)　(2)調査風景　(3)遺物出土状況　(国産磁器鉢)
(4)調査区全景　(5)井戸内遺物出土状況(国産陶器、灯明皿)　(6)溝跡(北から)……129

表　目　次

表　1　農業基盤整備事業施工予定地区内文化財確認調査一覧表
(平成2年度実施)　……5～6
表　2　農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査一覧表
(平成2年度実施)　……7～8

Ⅰ．調査に至る経過

1．平成３年度施行予定の農業基盤整備事業計画に伴う文化財確認調査

（1）農業基盤整備事業施行計画に係る協議

本県においては、県農林部所管及び市町村所管の農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の保護については、県農林部と県教育委員会との間で確認した『農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の保護に関する確認事項』（昭和53年締結、昭和59年改正）に基づき、協議調整を行っている。

平成３年度農業基盤整備事業施行計画については、平成元年９月下旬に農地整備課・農業振興課・建設鉱害課から施行予定地の図面を添え、文化課に協議があった。

この施行計画に係る埋蔵文化財確認調査の対象面積は合計788.4haに達した。地区別で見ると、佐賀東部地区（鳥栖市・中原町・上峰町・神埼町）160.7ha、佐賀西部地区（佐賀市・多久市・川副町）471ha、佐賀南部地区（鹿島市・白石町・有明町・太良町）65.3ha、佐賀北部地区（伊万里市・西有田町・相知町・浜玉町）6.4ha、佐賀上場地区（唐津市・鎮西町・玄海町・肥前町）85haである。関係する農業基盤整備事業として、県営圃場整備事業・千拓地等農地整備事業・県営土地改良総合整備事業・団体営圃場整備事業・団体営土地改良総合整備事業をはじめ、農業構造改善事業・山村振興農林漁業対策事業・農業整備事業・農地等鉱害復旧事業・民有林林道開設事業など多岐にわたっている。

また九州農政局所管の、国営上場水利事業に伴う文化財の取り扱いに関する協議（唐津市・鎮西町・肥前町）、水資源開発公団所管の筑後川下流用水事業に伴う文化財協議（上峰町・諸富町・千代田町）もなされた。

（2）文化財確認調査

協議を受けた事業計画地区（工区）の設計図に関して、まず工区内に周知の文化財が所在しているかどうかを遺跡地図等によって確認するとともに、関係市町村の文化財担当専門職員から埋蔵文化財に関する情報の収集を行うほか、遺跡が立地し得る自然条件にあるかどうかといった点も含めて、事前の検討作業を行った。

そして、各事業計画地区について、関係市町村教育委員会の文化財担当職員とともに現地踏査を実施して検討を重ね、その資料を基に確認調査が必要な地区・地点（表１）を決定した。

確認調査の実施にあたり、関係市町村の教育委員会・土地改良担当課、及び県農林部の関係諸課・各農林事務所との『平成３年度農業基盤整備事業に係る文化財の保護に関する協議会』（第１回）を、県教育委員会の主催により上場地区については10月22日、下場地区については10月26日にそれぞれ開催した。協議会においては全体協議の後、市町村毎に関係者による個別協議の場を設け、事業計画の概要説明、現地踏査等の検討結果の報告、確認調査の円滑な実施等に当たっての打ち合わせを行った。

文化財確認調査は、上場地方及び西松浦郡等の稲刈りが早く終了する市町村では10月下旬から開始し、その他の市町村でも麦の種蒔き時期との関係で、11月中旬までには実施した。確認調査には、原則として２ｍ×２ｍの試掘溝(トレンチ)を20ｍ間隔に碁盤目状に設定し、埋蔵文化財の有無、性格、分布範囲等を調査する方法を採用した。

（３）農業基盤整備事業と文化財保護に係る協護

調査によって事業計画地（工区）内で確認された遺跡は、佐賀東部地区358,100㎡、佐賀西部地区208,090㎡、佐賀南部地区4,000㎡、佐賀北部地区０㎡、佐賀上場地区580㎡の合計570,770㎡である。

この確認調査の結果のもとに、関係市町村教育委員会が主体となって個別協議を実施し、基盤整備工事が遺跡に影響を及ぼす地点については、水路位置の変更・盛土による田高面の嵩上げ・圃場の区画変更等の設計変更を中心に、技術的・経済的に可能な保存方法を検討し、事業計画と文化財保護に関する調整を図った。この間、農林側には数度にわたる設計変更に関して積極的に対処していただいた。

このような個別協議を経て、12月19日に第２回目の『農業基盤整備事業に係る文化財の保護に関する協議会』を開催し、平成３年度の事業計画と文化財保護との最終的な調整を行った。

この結果、遺跡の存在が確認された地区の大部分については盛土工法等の採用による遺跡の現状保存が可能となり、一方工法上の保護措置が困難な117,439㎡については平成３年度に発掘調査を実施して記録保存を行うことになった。

また平成２年度に関係各市町村教育委員会が実施した発掘調査（表２）は、平成元年度に確認調査を実施し、農業基盤整備事業担当部局との協議を経た結果、記録保存で対応することになったものの一覧である。

地区名	確認調査地区		発掘調査遺跡	
佐賀東部地区	1 鳥栖北部	(鳥栖市)	① 原古賀遺跡	(鳥栖市)
	2 鳥栖西部	(〃)	② 養父遺跡	(〃)
	3 中原北部	(中原町)	③ 本村遺跡	(〃)
	4 中原南部	(〃)	④ 西田遺跡	(〃)
	5 上峰北部	(上峰町)	⑤ 鈴町遺跡	(基山町)
	6 神埼	(神埼町)	⑥ 原古賀遺跡群	(中原町)
			⑦ 八藤遺跡	(上峰町)
			⑧ 堤六本谷遺跡	(〃)
			⑨ 堤土塁	(〃)
			⑩ 上石動遺跡	(東脊振村)
			⑪ 井手遺跡	(神埼町)
			⑫ 迎田遺跡 I・II	(〃)
			⑬ 迎田遺跡III・IV	(〃)
			⑭ 貴別当神社遺跡	(千代田町)
佐賀西部地区	7 久保泉東部	(佐賀市)	⑮ 篠木野遺跡	(佐賀市)
	8 久保泉西部	(〃)	⑯ 原ノ町遺跡	(〃)
	9 金立南部	(〃)	⑰ 村徳永遺跡	(〃)
	10 金立北部	(〃)	⑱ 東高田遺跡	(〃)
	11 北川副	(〃)	⑲ 樋木遺跡	(〃)
	12 巨勢	(〃)	⑳ 南宿遺跡	(〃)
	13 兵庫南部	(〃)	㉑ 北宿遺跡	(〃)
	14 城西第一	(〃)	㉒ 久富遺跡	(〃)
	15 城西第二	(〃)	㉓ 阿高遺跡	(〃)
	16 高木川内	(多久市)	㉔ 寺裏遺跡	(〃)
	17 川副中部	(川副町)	㉕ 梅屋敷遺跡	(〃)
	18 川副北部	(〃)	㉖ 瓦町遺跡	(〃)
			㉗ 四反田遺跡	(多久市)
佐賀南部地区	19 鹿島西部	(鹿島市)	㉘ 則重遺跡・正願地遺跡	(鹿島市)
	20 白石西第三	(白石町)	㉙ 船野遺跡	(白石町)
	21 白石西第四	(〃)	㉚ 多田遺跡	(〃)
	22 江岡	(太良町)	㉛ 鳥ノ巣遺跡	(〃)
	23 片峰	(〃)	㉜ 糸岐川南遺跡	(太良町)
	24 中路	(〃)		
	25 糸岐川南（農道）	(〃)		
	26 当木線（林道）	(〃)		
	27 深浦～横山（林道）	(有明町)		
佐賀北部地区	28 中里	(伊万里市)		
	29 大陣岳（農道）	(〃)		
	30 大野岳（農道）	(〃)		
	31 切楠3期（農道）	(西有田町)		
	32 岸岳２期（農道）	(相知町)		
佐賀上場地区	33 上場II期（湊）	(唐津市)	㉝ 竹木場前田遺跡	(唐津市)
	34 上場IV期（梨川内）	(〃)	㉞ 菅牟田西山	(〃)
	35 大岩（農道）	(浜玉町)	㉟ 山田団六 I・II遺跡	(〃)
	36 上場地区（赤玉毛）	(鎮西町)	㊱ 湊松本遺跡	(〃)
	37 上場地区（麦原）	(〃)	㊲ 新木場東遺跡	(肥前町)
	38 上場IV期（長倉）	(玄海町)		
	39 上場III期（中浦）	(肥前町)		
筑後川下流用水事業	40 上峰	(上峰町)	㊳ 原の町西遺跡	(千代田町)
	41 諸富為重	(諸富町)		
	42 千代田原の町	(千代田町)		

図 1　平成２年度　農業基盤整備事業に伴う文化財調査地区位置図

表１　農業基盤整備事業施行予定地区内文化財確認調査一覧表（平成２年度実施）

地区	市町村名	工事地区名	所在地	確認調査対象面積(ha)	調査結果	担当	備考
佐賀東部地区	鳥栖市	鳥栖北部（山浦）	鳥栖市山浦町字五本谷、大町前、道庵	9.1	古墳時代の集落跡	石橋	五本谷遺跡、山浦古墳群
		鳥栖北部（養父）	鳥栖市養父町字古蓮輪、塩塚・牛原町字前田、平野、平町	18.5	弥生時代～平安時代の集落跡	石橋	養父遺跡、牛原前田遺跡、牛原原田遺跡、平町遺跡
		鳥栖西部	鳥栖市立石町	4.3	遺跡は確認されなかった		立石遺跡、野副遺跡
	中原町	中原北部（綾部）	三養基郡中原町大字原古賀字拾徳、松谷、六本谷	17.5	弥生～古墳時代の集落跡	太田	松谷遺跡、拾徳遺跡、岩崎遺跡
		中原北部（高柳）	三養基郡中原町大字原古賀字一本桜、白虎谷、杉谷	9.2	古墳時代の墳墓	太田	大塚古墳群、一本谷古墳群
		中原南部	三養基郡中原町大字原古賀字一本松、三本松、水道	6.0	遺跡は確認されなかった	太田	
	上峰町	上峰北部	三養基郡上峰町大字堤字迎原	16.0	縄文～古墳時代の集落跡	松尾・原田	八藤遺跡、堤土塁
	神埼町	神埼（祇園原）	神埼郡神埼町大字尾崎	0	奈良時代の官道跡	松尾	野畠遺跡、森ノ木遺跡、塚原遺跡、小林遺跡、祇園原遺跡
		神埼（城原）	神埼郡神埼町大字城原	13.0	古墳時代の墳墓・中世の城跡	八尋	城原三本谷北遺跡、城原三本谷南遺跡、城原二本谷西遺跡
佐賀西部地区	佐賀市	久保泉東部	佐賀市久保泉町大字川久保字狐隈、宿野、川満外	29.3	弥生～中世の集落跡	前田	牟田々遺跡、熊本山遺跡、東高田遺跡、樫木遺跡
		久保泉西部	佐賀市久保泉町大字上和泉字村徳永、大字川久保外	42.8	弥生～中世の集落跡	前田	琵琶原遺跡、草場遺跡、籠木野遺跡
		金立南部	佐賀市金立町大字千布	26.0	弥生時代の集落跡	木島	千布二本黒木遺跡
		金立北部	佐賀市金立町大字金立	19.0	弥生～中世の集落跡	木島	大野原遺跡
		北川副	佐賀市北川副町大字光法	36.0	中世～近世の集落跡	福田	観音遺跡
		巨勢	佐賀市巨勢町大字高尾	35.0	遺跡は確認されなかった	福田	
		兵庫南部	佐賀市兵庫町大字瓦町字牟田寄、巨勢町大字修理田字東島	26.0	弥生時代の集落跡	福田	牟田寄遺跡
		城西第一	佐賀市西与賀町大字屋外、本庄町大字高太郎	31.0	遺跡は確認されなかった	徳富	
		城西第二	佐賀市本庄町大字鹿ノ子、大字正里	49.0	遺跡は確認されなかった	徳富	
	多久市	高木川内	多久市北多久町大字小侍字高木川内	5.5	中世の集落跡	平島	高木川内遺跡
	川副町	川副中部	佐賀郡川副町大字西古賀	65.7	中世～近世の集落跡	天本	鰐江遺跡
		川副北部	佐賀郡川副町大字福富字東古賀、大字南里字坂井	40.0	遺跡は確認されなかった	樋口	東古賀遺跡
佐賀南部地区	鹿島市	鹿島西部	鹿島市大字山浦、大字本城	65.7	遺跡は確認されなかった	加田	城平遺跡、大平遺跡
	白石町	白石西第三	杵島郡白石町大字遠ノ江字一本松籠	9.0	近世の墳墓	渡部	
		白石西第四	杵島郡白石町大字馬洗字馬洗	18.0	弥生～奈良時代の集落跡	渡部	妻山遺跡
	太良町	江同	藤津郡太良町大字多良字江同	1.4	遺跡は確認されなかった	樋口	
		片峰	藤津郡太良町大字多良字片峰	5.1	遺跡は確認されなかった	樋口	
		中路	藤津郡太良町大字多良字中路	2.3	遺跡は確認されなかった	樋口	
		糸岐川南（農道）	藤津郡太良町大字糸岐字川南	(0.3)	遺跡は確認されなかった	樋口	
		当木線（林道）	藤津郡太良町大字糸岐字当木	(2.3)	遺跡は確認されなかった	樋口	
佐賀北部地区	有明町	深浦－横山（林道）	杵島郡有明町大字深浦	(12.6)	遺跡は確認されなかった	徳富	長浜古墳群、深浦横山遺跡
	伊万里市	中里	伊万里市二里町大字作井手	29.4	遺跡は確認されなかった	船井	吉野遺跡、早川遺跡、平原遺跡、野瀬原遺跡
		大陣岳（農道）	伊万里市松浦町大字堤川字井手ノ原	(0.3)	遺跡は確認されなかった	盛	井手ノ原遺跡
		大野岳（農道）	伊万里市黒川町大字長尾	(0.7)	遺跡は確認されなかった	船井	
	西有田町	切楠３期（農道）	西松浦郡西有田町大字山谷字鎌ノ首	(1.4)	遺跡は確認されなかった	宮崎	鎌ノ首遺跡
	相知町	岸岳２期（野道）	東松浦郡相知町大字佐里字岸岳	(1.4)	遺跡は確認されなかった	樋口	
佐賀上場地区	唐津市	上場Ⅱ期（湊）	唐津市大字湊字松本	0.8	弥生～中世の集落跡	田島	湊松本遺跡
		上場Ⅳ期（梨川内）	唐津市大字梨川内字村口、佐志山、下毛山、戸五郎外	9.0	遺跡は確認されなかった	田島	
	浜玉町	大岩（農道）	東松浦郡浜玉町大字横田下字小仏谷	(0.5)	遺跡は確認されなかった	徳富	草場古墳群
	鎮西町	上場地区（赤玉毛）	東松浦郡鎮西町大字名護屋字赤玉毛	(18.0)	遺跡は確認されなかった	明瀬	
		上場地区（麦原）	東松浦郡鎮西町大字名護屋字宮口、古館、神田	(18.0)	遺跡は確認されなかった	明瀬	長東正家陣跡
	玄海町	上場Ⅳ期（長倉）	東松浦郡玄海町大字長倉字鬼塚	14.0	遺跡は確認されなかった	有光	
	肥前町	上場Ⅲ期（中浦）	東松浦郡肥前町大字中浦字八ノ久保、池ノ山	2.5	遺跡は確認されなかった	藤井	
筑後川下流用水	上峰町	上峰	三養基郡上峰町大字坊所、前牟田	(0.3)	遺跡は確認されなかった	宮武	坊所三本松遺跡
	諸富町	諸富為重	佐賀郡諸富町大字為重	(0.3)	遺跡は確認されなかった	宮武	
	千代田町	千代田原の町	神埼郡千代田町大字境原	(0.02)	中世～近世の集落跡	宮武	原の町遺跡

表２　農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査一覧表（平成２年度実施）

地区	市町村名	工事地区名	遺跡の所在地	調査面積(㎡)	調査主体者	調査担当者	遺跡の内容	略号
佐賀東部地区	鳥栖市	原古賀遺跡	鳥栖市原古賀町字大楠	270	鳥栖市	久山	中世の集落跡	FHU
		養父遺跡	鳥栖市養父町	1,200	鳥栖市	石橋	弥生～古墳時代の集落跡及び奈良時代の集落跡	FYY
		本村遺跡	鳥栖市山浦町字本村	950	鳥栖市	久山	中世の寺院跡及び近世の墳墓群	FYH
		西田遺跡	鳥栖市山浦町字西田	5,790	鳥栖市	藤瀬・久山	縄文時代の集石遺構及び土壙群、古墳時代の墳墓	FYN
	基山町	鈴町遺跡	三養基郡基山町大字園部字鈴町	3,200	基山町	山田・田中	弥生時代の墳墓群、中世集落跡	
	中原町	原古賀遺跡群	三養基郡中原町大字原古賀字拾徳、三本桜	4,500	中原町	太田	縄文時代の包含層、弥生時代、奈良時代、中世の集落跡	JTK、TSZ
	上峰町	八藤遺跡	三養基郡上峰町大字堤字迎原	10,650	上峰町	原田	縄文～奈良時代の集落跡	YTO
		堤六本谷遺跡	三養基郡上峰町大字堤字六本谷	8,000	上峰町	鶴田	弥生時代・奈良時代・近世の集落跡	TTR
		堤土塁	三養基郡上峰町大字堤字迎原	3,350	上峰町	鶴田	縄文時代・弥生時代の集落跡、古代の土塁	TTM
	東脊振村	上石動遺跡	神埼郡東脊振村大字石動字四本杉、五本杉、一本松	8,000	東脊振村	久保	縄文時代の包含層、古墳時代の墳墓群、中近世の集落跡	KIN
	神埼町	井手遺跡	神埼郡神埼町大字尾崎字井手	250	神埼町	八尋	弥生・中世の集落跡	IDE
		迎田遺跡（I・II区）	神埼郡神埼町大字尾崎字迎田	3,750	神埼町	八尋	弥生～中世の集落跡	MKD
		迎田遺跡（III・IV区）	神埼郡神埼町大字尾崎字迎田	1,200	神埼町	八尋	古代官道跡	MKD
	千代田町	貴別当神社遺跡	神埼郡千代田町大字下西字二本松	500	千代田町	堤	縄文～弥生時代の集落跡	KBT
佐賀西部地区	佐賀市	篠木野遺跡	佐賀市久保泉町大字上和泉字篠木野	527	佐賀市	前田	近世の集落跡	SGN
		原ノ町遺跡	佐賀市久保泉町大字上和泉字原ノ町	2,957	佐賀市	西田	弥生～中世の集落跡	HAM
		村徳永遺跡（K地区）	佐賀市久保泉町大字上和泉字村徳永	4,439	佐賀市	前田	縄文時代～中世の集落跡	MTN
		東高田遺跡	佐賀市久保泉町大字上和泉字東高田	7,146	佐賀市	西田	古墳～奈良時代の集落跡	HTD
		樺木遺跡	佐賀市久保泉町大字上和泉字樺木	575	佐賀市	西田	古墳～中世の集落跡	ICK
		南宿遺跡（4区）	佐賀市久保泉町大字下和泉字永屋、池副	451	佐賀市	木島	弥生～中世の集落跡	NSK
		北宿遺跡（1区）	佐賀市久保泉町大字下和泉字北宿	194	佐賀市	木島	中世～近世の集落跡	KSK
		久富遺跡（1～3区）	佐賀市金立町大字千布字久富	1,376	佐賀市	木島	弥生～古墳時代の集落跡	HDM
		阿高遺跡（C地区）	佐賀市北川副町大字光法字阿高	3,057	佐賀市	福田	古墳・中世の集落跡	ADK
		寺裏遺跡	佐賀市北川副町大字光法字角町	755	佐賀市	福田	古墳～近世の集落跡	TUR
		梅屋敷遺跡	佐賀市北川副町大字光法字増田宿	1,662	佐賀市	福田	中世～近世の屋敷跡武	UYS
		瓦町遺跡	佐賀市兵庫町大字瓦町字五本松	4,844	佐賀市	牟田	弥生時代の集落跡	KWR
	多久市	四反田遺跡	多久市北多久町大字別府	4,030	多久市	平嶋	弥生～中世の集落跡	SGO
佐賀南部地区	鹿島市	則重遺跡・正願地遺跡	鹿島市大字山浦字則重、大字納富分正願地	3,200	鹿島市	加田	弥生～古墳時代の集落跡、中世～近世の集落跡	NRS、SGT
		船野遺跡	杵島郡白石町大字船野字船野	4,500	白石町	渡辺	弥生時代の集落跡	TAD
		多田遺跡	杵島郡白石町大字廿治字一本松	1,100	白石町	渡辺	古墳～奈良時代の集落跡	TAD
	白石町	鳥ノ巣遺跡	杵島郡白石町大字大渡字三本松	1,870	白石町	渡辺	近世の集落跡	TNS
	太良町	糸岐川南遺跡	杵島郡太良町大字糸岐川字川南	3,100	太良町	立石	中世の集落跡	ITK
佐賀上場地区	唐津市	竹木場前田遺跡	唐津市竹木場字前田	1,130	唐津市	田島	旧石器・縄文時代の遺物包含層	TMA
		菅牟田遺跡	唐津市菅牟田字西山	1,790	唐津市	田島	旧石器・縄文時代の遺物包含層	SMN
		山田団六I・II区遺跡	唐津市山田字団六	850	唐津市	田島	旧石器・縄文時代の包含層	YDR
		湊松本遺跡	唐津市湊町字松本	2,200	唐津市	田島	縄文時代の墳墓・包含層、中世の集落跡	MMM
	肥前町	新木場東遺跡	東松浦郡肥前町大字新木場字東	1,700	肥前町	藤井	旧石器、縄文時代の集落跡	NKH
東部導水	千代田町	原の町西遺跡	神埼郡千代田町大字境原	32	佐賀県	宮武	中世～近世の集落跡	

II．調査組織

1．調査主体

佐賀県教育委員会（事務局：文化課）

2．総括

事務局長：高島忠平（文化財課長）

〃 次長：中牟田賢治（文化財課長補佐）・西村貞幸（文化課長補佐）

3．庶務

永松和久（文化課庶務企画係長）　濱野清子（文化課庶務企画主査）

小林宣洋（文化課庶務企画主査）　松瀬　弘（文化課庶務企画主事）

4．調査

調査主任：天本洋一（文化財課指導係長）

調 査 員：松尾吉高・樋口秀信・徳富則久

（以上、文化財課指導係）

福田　義彦	（佐賀市教育委員会）	渡辺　俊哉	（白石町教育委員会）
木島　慎治	（佐賀市教育委員会）	前田　達男	（佐賀市教育委員会）
石橋　新次	（鳥栖市教育委員会）	田島　竜太	（唐津市教育委員会）
久山　高史	（鳥栖市教育委員会）	平嶋　文博	（多久市教育委員会）
盛　峰雄	（伊万里市教育委員会）	船井　向洋	（伊万里市教育委員会）
加田　隆志	（鹿島市教育委員会）	八尋　実	（神埼町教育委員会）
太田　睦	（中原町教育委員会）	原田　大介	（上峰町教育委員会）
藤井　浩司	（肥前町教育委員会）	有光　宏之	（玄海町教育委員会）
明瀬　慎吾	（鎮西町教育委員会）	宮崎　光明	（西有田町教育委員会）

5．調査協力

佐賀市教育委員会	唐津市教育委員会	鳥栖市教育委員会
多久市教育委員会	伊万里市教育委員会	武雄市教育委員会
鹿島市教育委員会	川副町教育委員会	神埼町教育委員会
三瀬村教育委員会	中原町教育委員会	上峰町教育委員会

浜玉町教育委員会　　厳木町教育委員会　　相知町教育委員会
肥前町教育委員会　　玄海町教育委員会　　鎮西町教育委員会
有田町教育委員会　　西有田町教育委員会　　白石町教育委員会
有明町教育委員会　　太良町教育委員会　　嬉野町教育委員会

九州農政局上場農業水利事業所
九州農政局伊万里開拓建設事務所
水資源開発公団筑後川下流用水建設所

佐賀県農林部
土地改良課　　農地整備課　　建設鉱害課　　農業振興課　　林務課
佐賀中部農林事務所　　唐津農林事務所　　鳥栖農林事務所
伊万里農林事務所　　武雄農林事務所　　鹿島農林事務所

各市町村土地改良担当課　　各市町村土地改良区　　地元各位

Ⅲ．平成２年度文化財確認調査の内容

〈佐賀東部地区における調査〉

図　2　佐賀東部地区周辺地形図（1：100,000）

1	鳥栖北部	（鳥栖市）	② 養父遺跡	（鳥栖市）	⑨ 堤土塁遺跡	（上峰町）
2	鳥栖西部	（鳥栖市）	③ 本村遺跡	（鳥栖市）	⑩ 上石動遺跡	（東脊振村）
3	中原北部	（中原町）	④ 西田遺跡	（鳥栖市）	⑪ 井手遺跡	（神埼町）
4	中原南部	（中原町）	⑤ 鈴町遺跡	（基山町）	⑫ 迎田遺跡Ⅰ・Ⅱ	（神埼町）
5	上峰北部	（上峰町）	⑥ 原古賀遺跡	（中原町）	⑬ 迎田遺跡Ⅲ・Ⅳ	（神埼町）
6	神　　埼	（神埼町）	⑦ 八藤遺跡	（上峰町）	⑭ 貴別当神社遺跡	（千代田町）
①	原古賀遺跡	（鳥栖市）	⑧ 堤六本谷遺跡	（上峰町）	⑮ 原の町西遺跡	（千代田町）

(1) 鳥栖市（鳥栖北部地区（山浦地区３図、養父地区4図）、鳥栖西部地区（立石地区）

鳥栖北部地区に関しては山浦地区、養父地区の２地域について確認調査を実施した。

山浦地区（鳥栖市山浦町字五本谷・大町前・道庵：確認調査対象面積9.1ha）は雲野尾峠(標高400ｍ)から東南に派生する山麓部で東西を低丘陵に挟まれた標高30～43ｍの谷状の地形で現況は水田となっている。

当該地は南側の一部が五本谷遺跡(弥生～中世の遺物散布地)、山浦古墳群(木下之治他　1973『鳥栖市山浦古墳群』　佐賀県文化財調査報告書第21集　佐賀県教育委員会）の範囲に入っている。また北側の山麓には古墳時代後期の群集墳である山浦西北方古墳群、及び古野古墳群が立地している。

確認調査は削平予定箇所を中心として68箇所の試掘溝を設定して行った。その結果、７箇所の試掘溝で竪穴住居跡、土壙、溝跡、小穴等を検出した。また遺物については４世紀の土師器、８～９世紀の土師器、須恵器が出土した。

文化財の取り扱いについて個別協議を行った結果、工法上の変更が困難な3,900㎡について発掘調査を実施することとなった。

養父地区（養父町字古蓮輪・塩塚、牛原町字前田・原田・平町：確認調査対象面積18.5ha）は北部山麓の南側に安良川の氾濫によって形成された台地状地形（標高35～48ｍ）で、九州横断自動車道と県道佐賀～川久保～鳥栖線、及び県道久留米～基山～筑紫野線に囲まれた一帯である。

当該地区は縄文時代から中世にかけての複合遺跡として、牛原前田遺跡、牛原原田遺跡、平町遺跡、養父遺跡の範囲内にあり、周辺にも縄文時代から中世にかけての複合遺跡や古墳時代の都谷古墳群、城山古墳群、牛原古墳群等の群集墳が分布している。

対象地区に114箇所の試掘溝を設定して確認調査を行った結果、39箇所で竪穴住居跡、土壙、溝跡、柱穴、小穴を検出し、遺物として弥生土器、古墳時代の土師器、平安時代の土師器等が出土した。このことから当該地区には弥生時代、古墳時代及び奈良～平安時代の集落跡が存在すると思われる。

協議の結果、保存措置の困難な12,000㎡について発掘調査を実施することになった。

鳥栖西部地区（立石町：確認調査対象面積4.3ha）は鳥栖市と中原町との境を南北に伸びる笛吹山丘陵（標高83.1㎡）と県道佐賀～川久保鳥栖線、JR九州長崎本線に囲まれた標高38～42ｍの傾斜地で、現況は水田、畑地となっている。

当該地区は周知の埋蔵文化財包蔵地である立石遺跡（古墳～中世の集落）の南側の一部と野副遺跡（縄文～弥生時代の集落）の北側の一部が含まれ、北側には立石古墳群、東側には一本杉遺跡（弥生時代の墳墓）が隣接している。ただし、これらの遺跡についての詳細な内容は不明である。

図 3　鳥栖市：鳥栖北部地区（山浦地区）試掘溝設定図

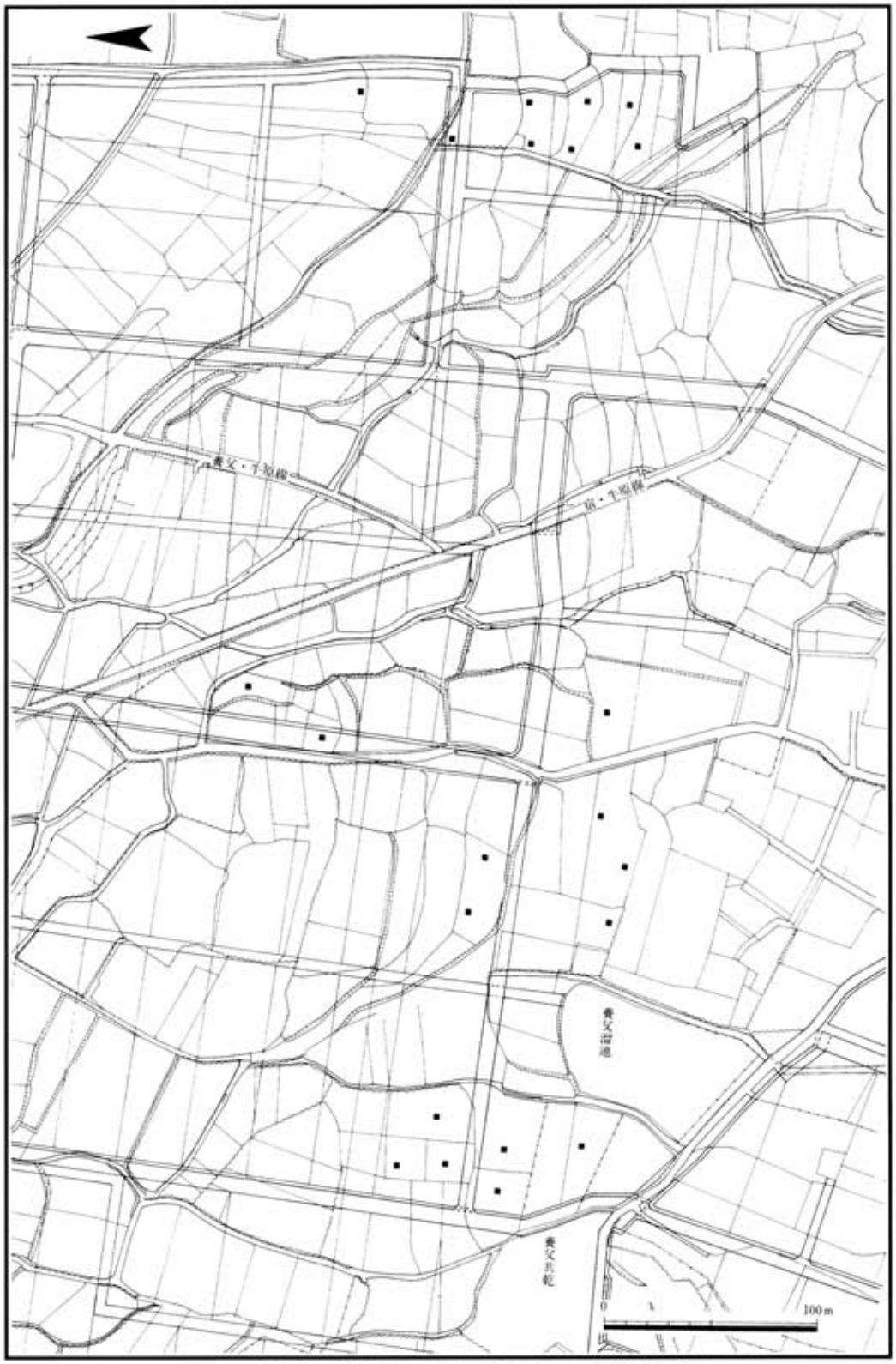


図 4　鳥栖市：鳥栖北部地区（養父地区）試掘溝設定図

図 5　中原町：中原北部地区（綾部地区）試掘溝設定図

図 6　中原町：中原北部地区（高柳地区）試掘溝設定図

8箇所の試掘溝を設定して確認調査を行ったが、耕作土及び床土から近世以降の陶磁器等が若干出土したのみで、遺構については確認できなかった。

（2）中原町（中原北部地区（綾部地区5図、高柳地区6図）

中原北部地区に関しては、綾部地区、高柳地区の2箇所について確認調査を実施した。

綾部地区（三養基郡中原町大字原古賀字拾徳・松谷・六本松：確認調査対象面積17.5㎡）は県道佐賀川久保～鳥栖線に南接し、県道早良～中原停車場線に西接する南に緩やかに傾斜する水田地で標高33～46ｍを計る。

当該地区は北側で松谷遺跡（弥生時代～中世の集落跡）、南側で拾徳遺跡（弥生時代～中世の集落跡）、西側で岩崎遺跡（縄文～古墳時代の集落跡）の範囲内にあり、近接しては北側の山麓に綾部城跡（中世山城）、寒水川を挟んで東側の台地には姫方遺跡（弥生時代の集落跡・墓地）、姫方原遺跡（弥生時代の集落跡・墓地）が所在する。

確認調査は260箇所の試掘溝を設定して実施した。その結果、17箇所で溝跡、土壙、小穴等を検出した。また遺物については弥生土器、土師器片、須恵器、の小片等を検出した。このことから当該地区には弥生時代から古墳時代にかけての集落跡が存在すると思われる。

高柳地区（三養基郡中原町大字原古賀字一本桜、白虎谷、杉谷：確認調査面積9.2㎡）は巨石墳で著名な大塚古墳を含む大塚古墳群、一本谷古墳群の範囲内にあり、近接しては地蔵山遺跡（弥生時代の集落）、山田古墳群、冠石古墳群が所在する。

確認調査は61箇所の試掘溝を設定して実施したところ、大塚古墳の墓道、及び周溝が確認された。

遺跡の分布は綾部地区の51,000㎡および高柳地区の大塚古墳の周辺と広範囲にわたるため、個別協議を重ねた結果、本調査面積を大塚古墳の周辺を含めて6,800㎡まで絞り込むことが可能となった。

中原南部地区（三養基郡中原町大字原古賀字一本松・三本松・水道：確認調査面積6ha）

当該地は中原町の南端で北茂安町に接した地区で、現況は東西の丘陵に挟まれた標高12～15ｍの谷水田である。周辺の台地には古町遺跡（弥生時代～中世の集落跡）、宝満遺跡（弥生時代の集落跡・墳墓）、町南遺跡（弥生時代の集落跡）が分布している。　確認調査は50箇所の試掘溝を設定して実施したが、表土から弥生土器が数点出土しただけで、遺構は検出されなかった。

（3）上峰町（上峰北部地区7図）

上峰北部地区における確認調査は、対象地区が点在するため便宜上A地区からC地区までの3地区に分けて行った。なお調査対象面積は合計16.0haで、154箇所の試掘溝を設定した。

図 7　上峰町：上峰北部地区試掘溝設定図

A地区（三養基郡上峰町大字堤字迎原）は、鎮西山から南に延びる丘陵から派生する標高35m前後の緩斜面で、現況は水田及び畑地となってる。

当該地区は平成2年度に本調査を実施した調査区の北に接した地区で、八藤遺跡の範囲内に入る。北西方向の屋形原の集落周辺には、宅地造成に関連して調査が実施され、弥生時代から古墳時代にかけての集落跡、墳墓群が集中的に検出されている屋形原遺跡（杠一義　1979『屋形原遺跡』　上峰村文化財調査報告書第2集　上峰村教育委員会）が隣接し、西側の二塚山丘陵上にも二塚山遺跡（七田忠昭他　1979『二塚山遺跡』　佐賀県文化財調査報告書第46集　佐賀県教育委員会）をはじめとして堤遺跡、松葉遺跡（『二塚山遺跡』所収）等の弥生時代から古墳時代にかけての集落跡、墳墓群が密集している。

試掘溝設定による確認調査の結果、17箇所で竪穴住居跡、溝、及び柱穴を検出した。また遺物については縄文時代から古墳時代の石器、弥生土器、土師器が出土しており、縄文時代から古墳時代に至るまでの集落跡の存在が窺える。

B地区（大字堤字迎原）は県道鳥栖～川久保線の南側、切通川の両側に広がる標高25m前後の谷平野と東側の標高30m前後の低丘陵で、丘陵の一部に畑地があるほかは水田である。

当該地区の南端部は奈良時代の土塁として著名な堤土塁（杠一義他　1978『堤土塁跡』　上峰村教育委員会）の範囲内であり、周辺には八藤遺跡（弥生～奈良・平安時代の集落跡、縄文時代の遺物散布地）、五本谷遺跡（弥生時代の墳墓群；『二塚山遺跡』所収）、青柳古墳群等が分布している。

丘陵部は作物のため、大部分が確認調査を実施できなかった。確認調査の結果、丘陵先端の2箇所で土壙、柱穴が検出された他は、若干の古墳時代～中世の土器が出土しただけで遺構は検出されなかった。

C地区（大字堤）は舟石部落のすぐ北側にあり、東西を低丘陵で挟まれた標高25m前後の谷水田である。

当該地区の南側の一部は甕棺墓群で著名な舟石遺跡の範囲内であり、周辺にも上地遺跡（弥生時代の甕棺墓）、上地西方丘陵遺跡（弥生時代の甕棺墓）が分布している。

若干の土器が出土しただけで、遺構は検出されなかった。

確認調査の結果、遺跡の分布はA地点の合計36,000㎡にも及ぶことが判明した。個別協議を重ねた結果、最終的に15,000㎡について発掘調査を実施することになった。

（4）神埼町（神埼工区（祇園原工区、城原工区8図））

昨年実施した祇園原工区の確認調査の補追として、大字尾崎に所在する奈良時代の官道跡推定地の確認調査を実施した。

県内には奈良時代の官道跡が丘陵の切通しや畑地・水田の地割りによく残っており、特に神

図 8　神崎町：神崎工区（城原工区）試掘溝設定図

埼町は大字祇園原から大字尾崎にかけてよく残っている。

当該地は大字尾崎の標高16ｍの微高地で、現況は雑木林・竹林になっている。官道跡とされる幅20ｍほどの溝状のくぼみと両側の土塁状の高まりは、この微高地を東西に横切っている。確認調査の試掘溝は溝状のくぼみに直角に２本設定した。第１試掘溝（1.5ｍ×18ｍ）では、溝状のくぼみの底面と表土面との比高差が1.4ｍあり、埋土も黒色土、黒褐色土で溝、あるいは堀の様相を示している。第２試掘溝（1.5ｍ×22ｍ）は、溝・堀としての埋土は認められず、くぼみの中央部に官道の路面と考えてよいようなしまりの良い灰白色砂土、白茶色砂土がブロック状に堆積している。このようなことから、東西に延びる官道跡に中世のものと推定される溝が一部重復しているが、官道の路面が確認出来たと考えている。なお、この官道跡は盛土で保存されている。

城原地区（神埼郡神埼町大字城原：確認調査対象面積13.0ha）は神埼町の北部、城原川の右岸で、城山（標高195ｍ）と日の隈山（標高146ｍ）に挟まれた標高19～30ｍの谷状の地形で現況は水田となっている。当該地区は城原三本谷北遺跡（縄文～古墳時代の集落・墳墓）、城原三本谷南遺跡（縄文～古墳時代の集落・墳墓）、城原二本谷西遺跡（弥生～中世の集落・墳墓）の範囲にあり、周辺にも日の隈遺跡、上善寺遺跡、城原一本谷遺跡、市場遺跡、城原二本谷東遺跡、城山古墳群、勢福寺城跡等縄文時代から中世にかけての多数の遺跡が分布している。

240箇所の試掘溝を試定して確認調査を実施したところ、71箇所で遺構が確認された。城原部落の北側、通称「元屋敷」と呼ばれている地区では黒色土と黄灰色土が混在した整地層に掘り込んで一辺50～80㎝の方形柱穴が検出された。また、西側に接する地区でも整地層が認められ、柱穴、溝跡、土壙等の遺構が検出された。その他、南端地区では、土塁の痕跡、古墳の周溝も確認された。遺物は14～15世紀の所産とみられる土師器小皿、鉢、墨書木札、人形が出土している。

全体の遺構配置をみると、勢福寺城跡関連の遺構が広く分布しており、細長い谷状の地形の地割りは、城跡関連の痕跡と考えられる。

当該地の遺跡分布面積は、58,000㎡にものぼり、本調査面積については、現在協議中である。

《佐賀西部地区における調査》

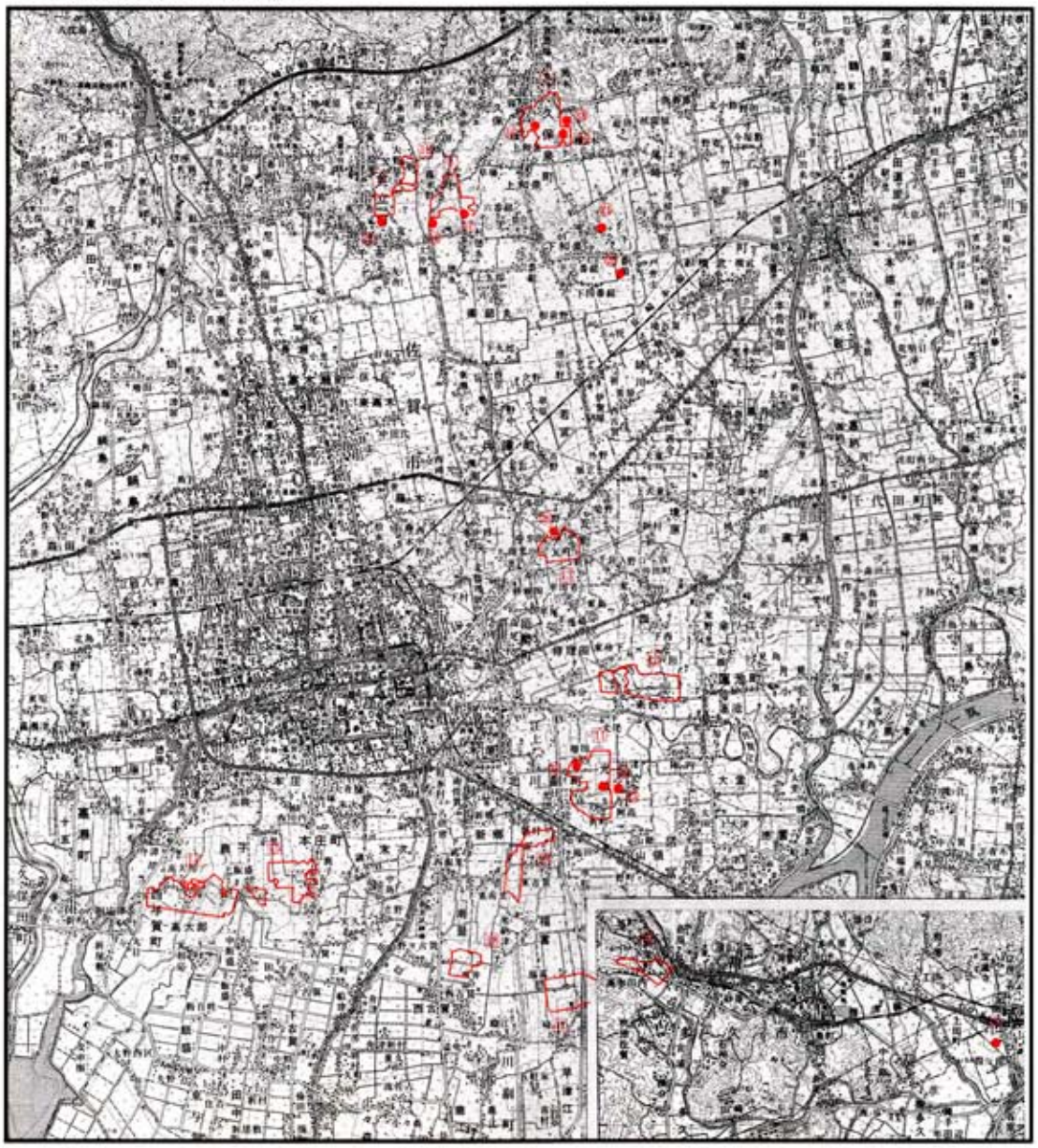


図 9　佐賀西部地区周辺地形図（1：100,000）

7	久保泉東部	（佐賀市）	16	高木川内	（多久町）	⑳	南宿遺跡	（佐賀市）
8	久保泉西部	（佐賀市）	17	川副中部	（川副町）	㉑	北宿遺跡	（佐賀市）
9	金立南部	（佐賀市）	18	川副北部	（川副町）	㉒	久富遺跡	（佐賀市）
10	金立北部	（佐賀市）	⑮	篠木野遺跡	（佐賀市）	㉓	阿高遺跡	（佐賀市）
11	北 川 副	（佐賀市）	⑯	原ノ町遺跡	（佐賀市）	㉔	寺裏遺跡	（佐賀市）
12	巨　　勢	（佐賀市）	⑰	村徳永遺跡	（佐賀市）	㉕	梅屋敷遺跡	（佐賀市）
13	兵庫南部	（佐賀市）	⑱	東高田遺跡	（佐賀市）	㉖	瓦町遺跡	（佐賀市）
14	城西第一	（佐賀市）	⑲	櫟木遺跡	（佐賀市）	㉗	四反田遺跡	（多久市）
15	城西第二	（佐賀市）						

（5）佐賀市　久保泉東部地区（第一換地工区10図、第二換地工区10図）、久保泉西部地区（第一、第二換地工区11・12図）、金立南部地区13図、金立北部地区14図、北川副地区15図、巨勢地区、兵庫南部地区16図、城西第一地区、城西第二地区）

久保泉東部地区に関しては第一換地工区、及び第二換地工区が対象地区となった。

第一換地工区・第二換地工区（佐賀市久保泉町大字川久保字狐熊・宿野・川満・御供田・熊本・東高田、大字上和泉字櫟木：確認調査対象面積29.3ha）は県道佐賀川久保～鳥栖線を挟んで北側と南側にわかれる。北側は熊本山と狐熊の丘陵の裾部から谷部に広がる棚田で標高19～34ｍを測る。南側は、中央に谷地形を挟み東西が低丘陵となっている。現状は南へ緩く傾斜する棚田で標高13～20ｍを測る。

当該地区はその北東部が牟田々遺跡（縄文～古墳時代の集落跡）、北西部が熊本山遺跡（縄文～古墳時代の集落跡）、西部は東高田遺跡（弥生～中世の集落跡）、南部は櫟木遺跡（弥生～近世の集落跡）の範囲内にあり、櫟木遺跡の東側では開墾時に銅矛鋳型が出土している。また古代官道のルートが櫟木遺跡の北部を東西に通っている。周辺には泉遺跡、上和泉遺跡、屋形遺跡等の弥生時代から中世に至る複合遺跡が集中している。（福田義彦　1986　『泉遺跡』　佐賀市文化財調査報告書第16集　佐賀市教育委員会）。面工事部分と水路掘削予定地に試掘溝を128箇所設定した結果、21箇所で竪穴住居跡、土壙、溝跡等を確認し、遺物についても弥生土器片、須恵器片、土師器片、瓦質土器片等が出土した。また古代官道の推定ルート上に設定した試掘溝からは、道路の路面等官道の存在を直接的に裏付ける資料は得られなかった。

総面積69,800㎡にも及ぶ遺跡の取り扱いについて協議を重ねた結果、盛土による保存が困難な10,080㎡について本調査を実施することとなった。

久保泉西部地区については第一、第二換地工区が対象となった。

第一、第二換地工区（久保泉町大字上和泉字村徳永・篠木野、大字川久保字草場・石橋・琵琶原・原：確認調査対象面積42.8ha）は北東から南西へ流れる巨勢川によって北部と南部にわかれる。北部は北東から南西に傾斜した棚田が広がり標高12～18ｍを測る。南部は北東から南西に緩やかに傾斜した水田が広がり、その中に水田との比高差0.8～1.2ｍの高畑が点在する。

当該地区はその北西部が琵琶原遺跡（縄文～中世の集落跡）、東部が草場遺跡（弥生～平安の集落跡）、西側が篠木野遺跡（弥生～中世の集落跡）の範囲内で、周辺にも上九郎遺跡、徳永遺跡、古賀遺跡、東千布遺跡等の弥生時代から中世に至る複合遺跡が多く分布している。また東部近接地域では、久保泉工業団地造成に係る確認調査（福田義彦　1986　『久保泉工業団地内遺跡』―仮称・久保泉工業団地造成計画に伴う埋蔵文化財確認調査報告書―　佐賀市教育委員会）によって遺跡の分布が広範囲に確認されている。

掘削予定部分を中心に144箇所の試掘溝を設定した結果、12箇所で竪穴住居跡、土壙、溝跡等を検出し、弥生土器片、土師器片が出土した。

図 10　佐賀市：久保泉東部地区試掘溝設定図

図 11　佐賀市：久保泉西部地区試掘溝設定図（1）

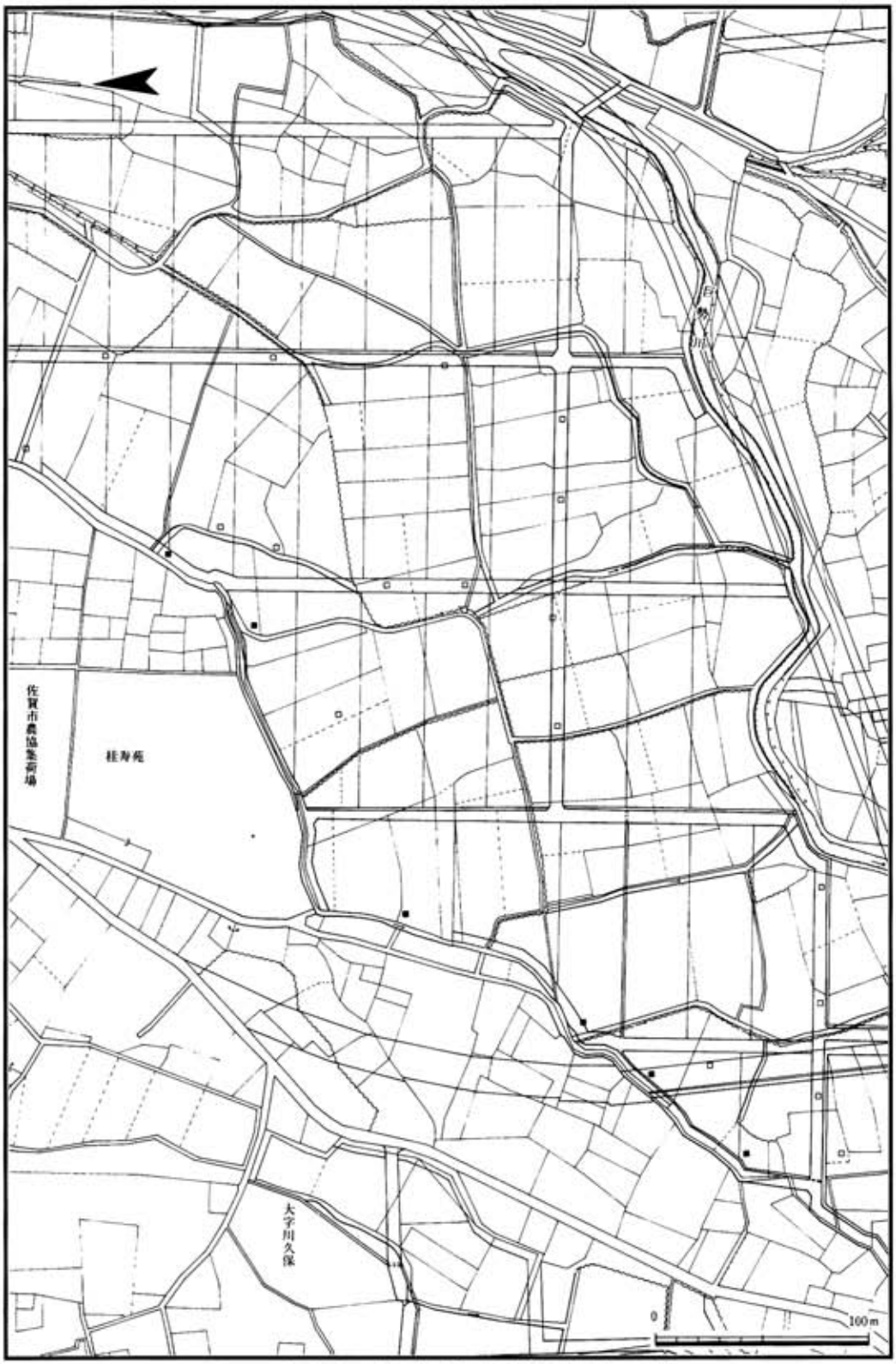


図 12　佐賀市：久保泉西部地区試掘溝設定図 (2)

確認調査によって判明した遺跡の広がりは15,500㎡にも及び、調整を重ねた結果、水路建設による掘削部分、及び盛土保存が困難な3,120㎡について本調査を実施することとなった。

金立南部地区（金立町大字千布：確認調査対象面積26.0ha）は巨勢川を挟んで久保泉西部地区と対峙する位置にあり、東側の巨勢川方向に傾斜する扇状地に位置する標高６～９ｍの久富集落、東千布集落、友貞集落の周辺に広がる水田、畑地（高畑）一帯である。

当該地は千布二本黒木遺跡（弥生～中世の集落跡）の範囲内にあり、北西部には弥生時代の甕棺墓群が検出された東千布遺跡、巨勢川を挟んで対岸には、村徳永遺跡（弥生～中世の集落跡）が分布している。削平予定部分、及び水路掘削予定部分を対象に61箇所の試掘溝を設定した結果、畑地で、土壙、小穴等を検出し、併せて弥生土器が出土した。総面積4,000㎡の遺跡分布面積の取り扱いについて個別協議を行った結果、工法上の保護措置が困難な2,100㎡について本調査を実施することになった。

金立北部地区（金立町大字金立、千布：確認調査対象面積19ha）は県道佐賀川久保～鳥栖線の南、巨勢川の西岸の標高10ｍ前後の水田と高畑である。

当該地は大野原遺跡（弥生～中世の集落跡）の範囲内にあり、周辺には銚子塚、東千布遺跡（弥生～中世の集落跡・墳墓）、村徳永遺跡（弥生～中世の集落跡）が分布している。削平予定部分及び水路予定部分に81箇所の試掘溝を設定した結果、高畑を中心として土壙、小穴等が検出され、併せて弥生土器、土師器が出土した。遺跡分布面積8,400㎡の取り扱いについて協議を行った結果、工法上の保護措置が困難な3,848㎡について本調査を実施することになった。

北川副地区（北川副町大字光法外：確認調査対象面積36ha）は佐賀市域の東南部で、佐賀郡川副町に隣接している。県道江上光法停車場線と国道208号に挟まれた標高2.5～３ｍの水田地帯である。

当該地区は周知外であるが、周辺には阿高遺跡（弥生～中世の集落跡）、寺裏遺跡（古墳～中世の集落跡）、梅屋敷遺跡（中世～近世の集落跡）が点在している。

水路掘削予定地を対象に試掘溝を46箇所設定した結果、２箇所で土壙等を検出し、中世から近世の土師器、磁器が出土した。周辺は地元では「屋敷の内」と呼称されているところで、〝観音遺跡〟として周知化した。遺跡の存在が確認された480㎡については工法上の保護措置が困難なため本調査を行うことになった。

巨勢地区（巨勢町大字高尾外：確認調査対象面積35.0ha）は県道脊振～佐賀線と国道264号及び巨勢川と焼原川に挟まれた標高３～3.3ｍの水田地帯である。

当該地区は南東隅で平尾遺跡に接するが大部分は周知外である。確認調査は45箇所の試掘構を設定して行った結果、１か所から弥生時代から奈良時代の土器片が少量出土したが、遺構は検出されなかった。

兵庫南部地区（兵庫町大字瓦町字牟田寄、巨勢町大字修理田字東島：確認調査対象面積26.0

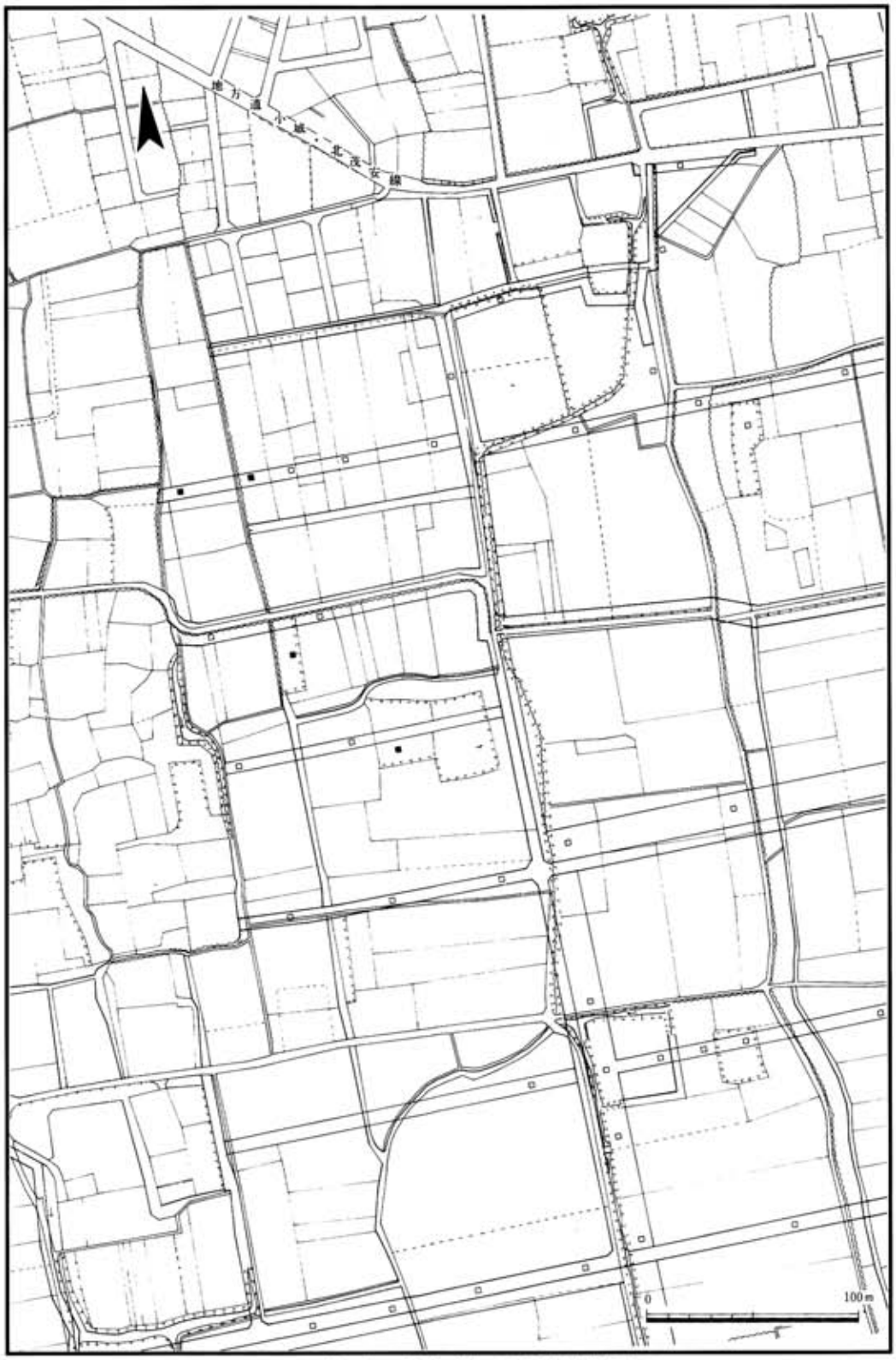


図 13　佐賀市：金立南部地区試掘溝設定図

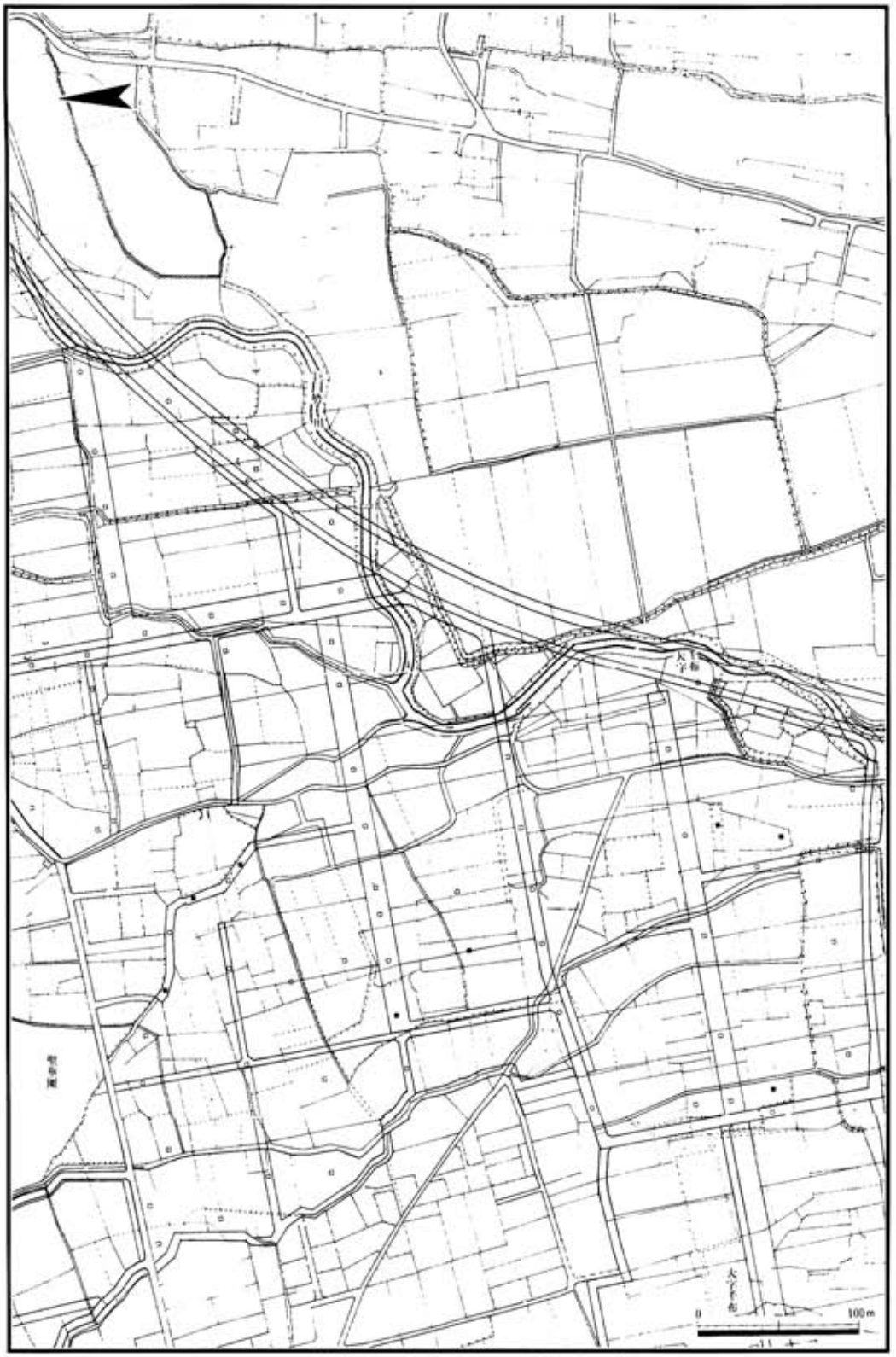


図 14　佐賀市：金立北部地区試掘溝設定図

図 15　佐賀市：北川副地区試掘溝設定図

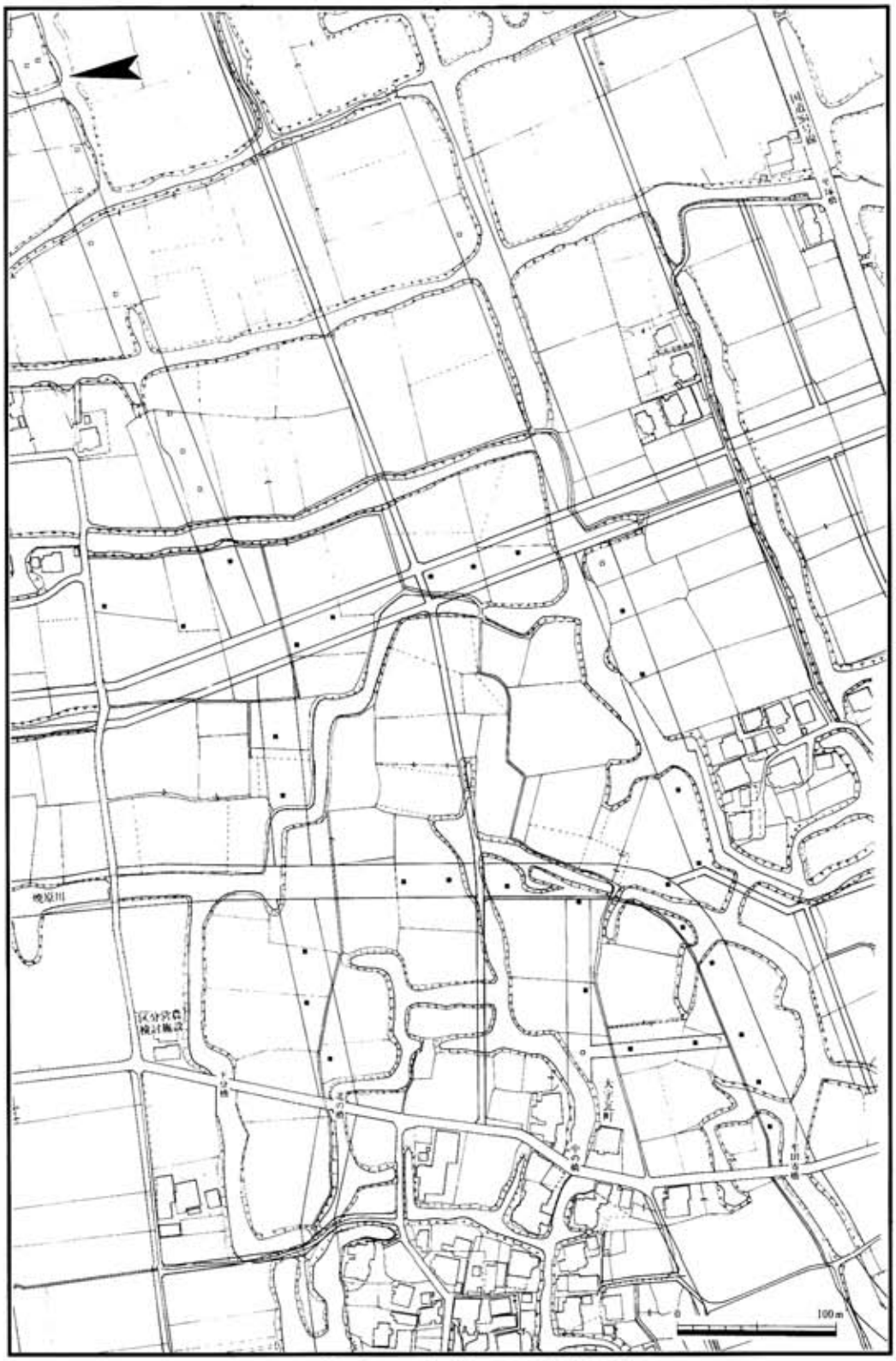


図 16　佐賀市：兵庫南部地区試掘溝設定図

ha）は焼原川下流の千住と牟田寄の両集落の間に広がる低地一帯（標高３～４ｍ）である。計画予定地区内にはクリークが縦横に巡り、この地域における独特な集落の景観を見せている。

当該地区の西半分は牟田寄遺跡（弥生～近世の集落跡）に含まれるが、東半分は未周知地区である。周辺の集落部には伝阿弥陀寺跡、伝光明寺跡、伽藍遺跡等の中世の寺院跡、集落跡が点在している。水路掘削予定地を対象に56箇所の試掘溝を設定した結果、24箇所で土壙、溝跡小穴を検出し、併せて弥生土器片（甕、鉢、高杯等）、土師器（甕、杯等）が出土した。

個別協議の結果、工法上の保護措置を採ることが困難な4,797㎡について本調査を行うことになった。

城西第一地区（西与賀町大字厘外、本庄町大字高太郎：確認調査対象面積31.0ha）は佐賀市域の南東側に展開する低地一帯（標高1.8～2.7ｍ）で、本庄川東岸に位置する。

当該地内では従来埋蔵文化財の存在は確認されていないが、隣接する上飯盛の集落には上飯盛遺跡（中世の集落跡）、及び飯盛館跡（中世の城館跡）が所在している。

水路掘削予定地、特に現集落部に隣接する地点を対象に77箇所の試掘溝を設定したが、２ヵ所から小ピットを検出したのみで、遺物については摩滅の著しい弥生土器片及び近世の磁器片が数点出土したに止まった。

城西第二地区（本庄町大字鹿ノ子、大字正里：確認調査対象面積49.0ha）は佐賀市域の西南部、県道西与賀～本庄線と県道東与賀線に挟まれた標高2.1ｍ～2.7ｍの水田地帯である。

当該地区内は東と西の地区にわけられる。東地区はすべて周知外であるが、西地区の南には上飯盛遺跡（中世の遺物散布地）が所在している。また、上飯盛遺跡内には戦国期龍造寺氏に加担した在地小領主飯盛氏の館跡である飯盛館跡が所在している。

水路掘削予定地区を対象に96箇所の試掘溝を設定したところ、２箇所から近世と考えられる溝跡が検出されたほかは耕作土から土師器片が出土したのみである。

（６）多久市（多久東部地区、高木川内地区17図）

高木川内地区（北多久町大字小侍字高木川内：調査対象面積5.5ha）は船山（標高684.9ｍ）の東尾根を多久川が開析することによって形成された狭隘な谷底平野で、多久盆地への出口から多久市街地に接する水田地帯（標高35～55ｍ）である。

当該地区は周知外であるが、北側には経ノ峯遺跡（旧石器～縄文時代の遺物散布地）が隣接し、南東方向700ｍの低位丘陵上には湯端遺跡（旧石器時代の遺物散布地）が立地している。

103箇所の試掘溝を設定して確認調査を実施した結果、11箇所で中世から近世の土壙、溝、ピットを検出し、土壙埋土から磁器、陶器片が出土した。

確認調査の結果、当該地区の南東部10,000㎡について遺跡の存在が確認され、高木川内遺跡として周知化した。遺跡の取り扱いについて協議した結果、削平される750㎡につい本調査を実

施することになった。

（7）川副町（川副中部地区18図）

川副中部地区（佐賀郡川副町大字西古賀、大字早津江　：確認調査対象面積65,7ha）は筑後川とその支流の早津江川の沖積作用により形成された低平な水田地帯（標高2m）である。当該地区は東の早津江地区と西の鰻江地区の2箇所にわかれる。両地区ともに有明海への出入り口に近く水上交通の便が良いため、古代より船舶運輸の基地として開発されており、その痕跡は鰻江遺跡（中世の集落跡）として遺存している。またこれより諸富町南部地区にかけての、低地に島状に点在する微高地上には三重村中遺跡、三重二ッ寺遺跡等の弥生時代から近世に至る集落跡が散在している。

確認調査は水路掘削予定地及び高畑に206箇所のトレンチを設定して実施した。早津江地区は中川副小学校の東側で溝跡、ピットが検出され、中世の土師器小皿、土鍋等が出土した。当該地は未周知のため、上早一本松遺跡として周知化した。鰻江地区の南側は鰻江遺跡（中世の集落跡）の範囲内にあり、神社南側及び東側の高畑から土壙、ピットが検出され、中世の龍泉窯系青磁、土師器小皿等が出土した。遺跡の取り扱いについて協議した結果、早津江遺跡の400㎡については本調査を実施することになった。鰻江地区については遺跡が確認された地区の工事が平成4年度になり、本調査も平成4年度に実施することになった。

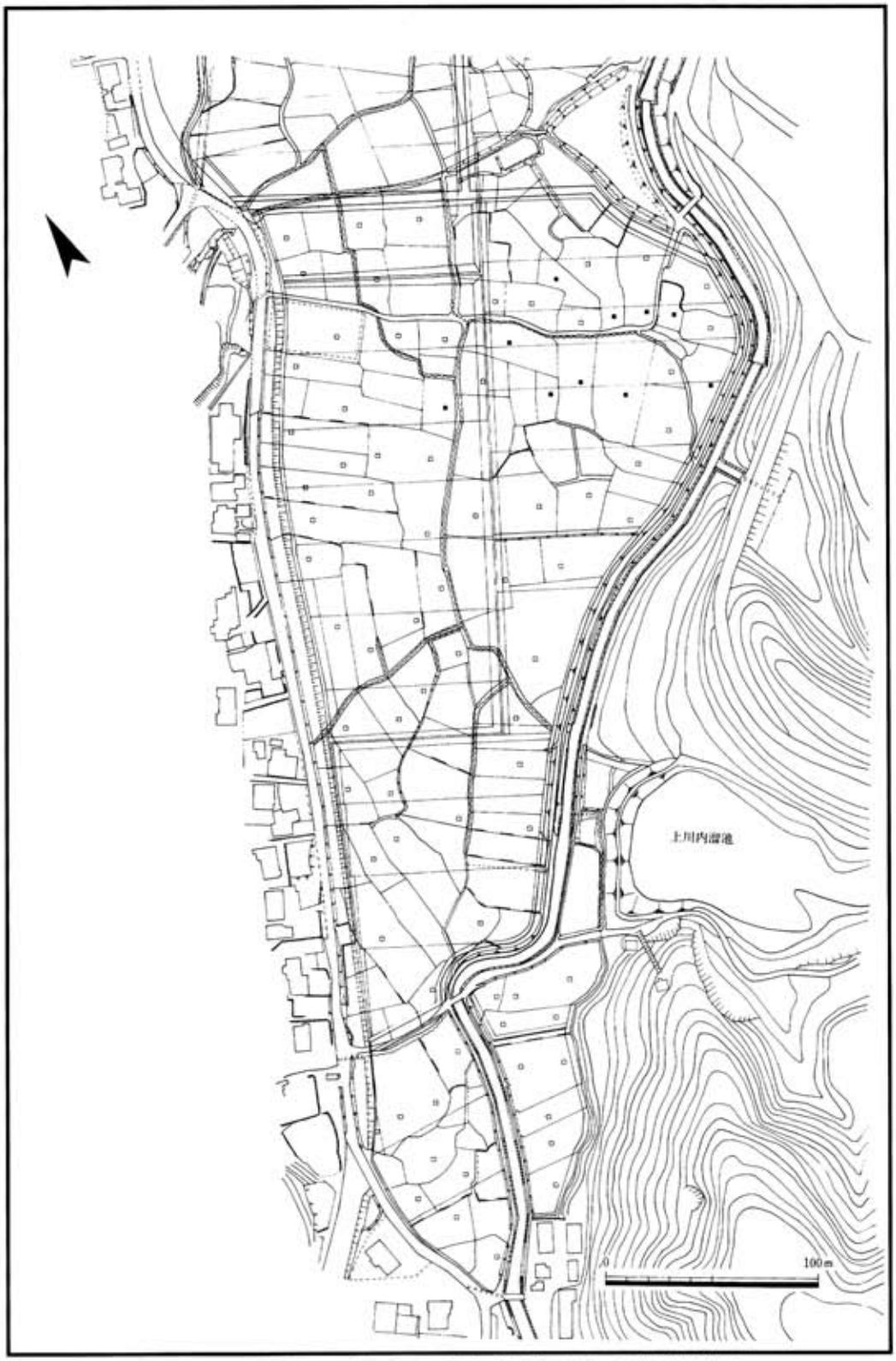


図 17　多久市：多久東部地区（高木川内地区）試掘溝設定図

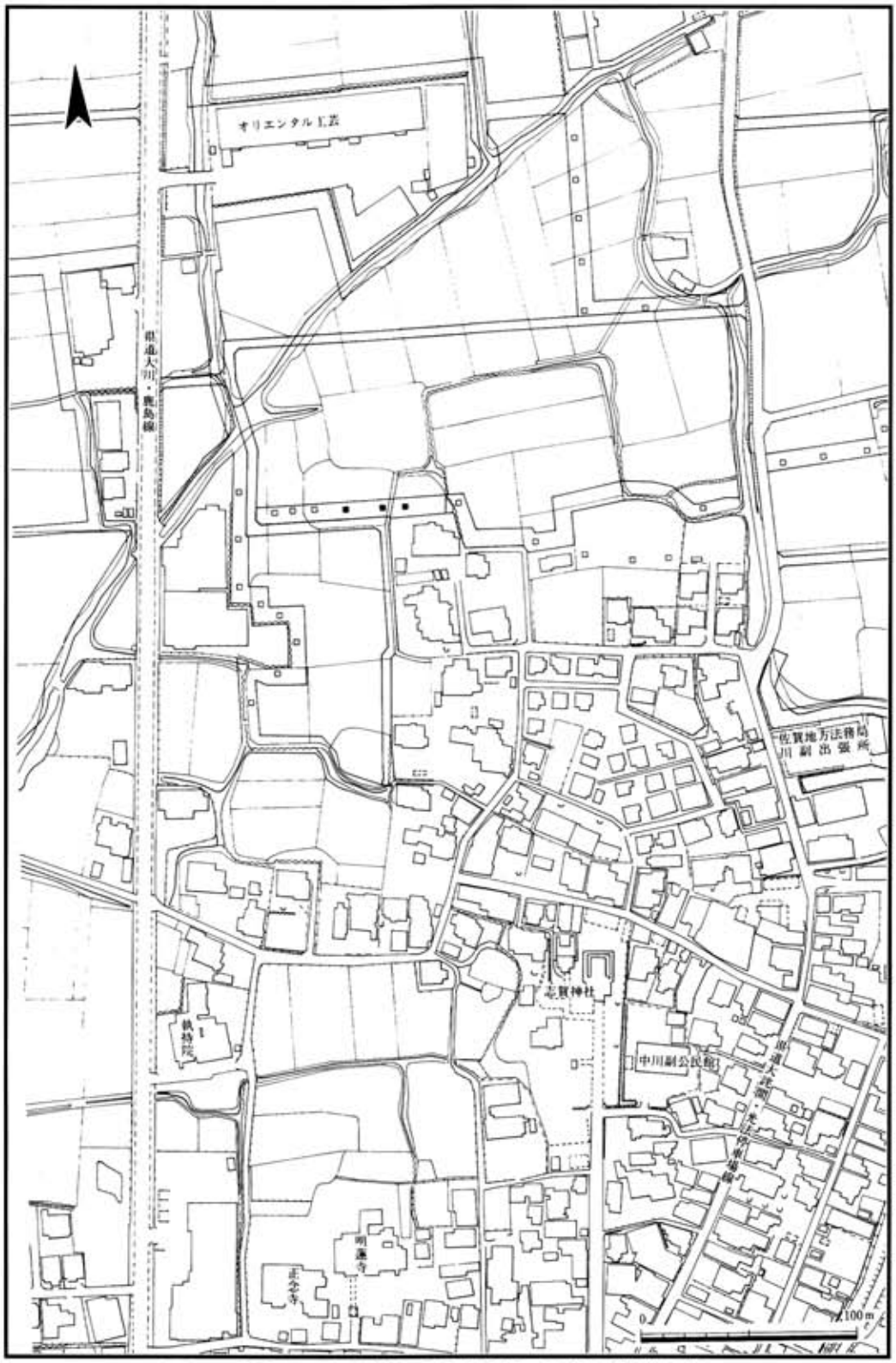


図 18　川副町：川副中部地区（早津江地区）試掘溝設定図

図 19　川副町：川副中部地区（鰡地区）試掘溝設定図

《佐賀南部地区における調査》

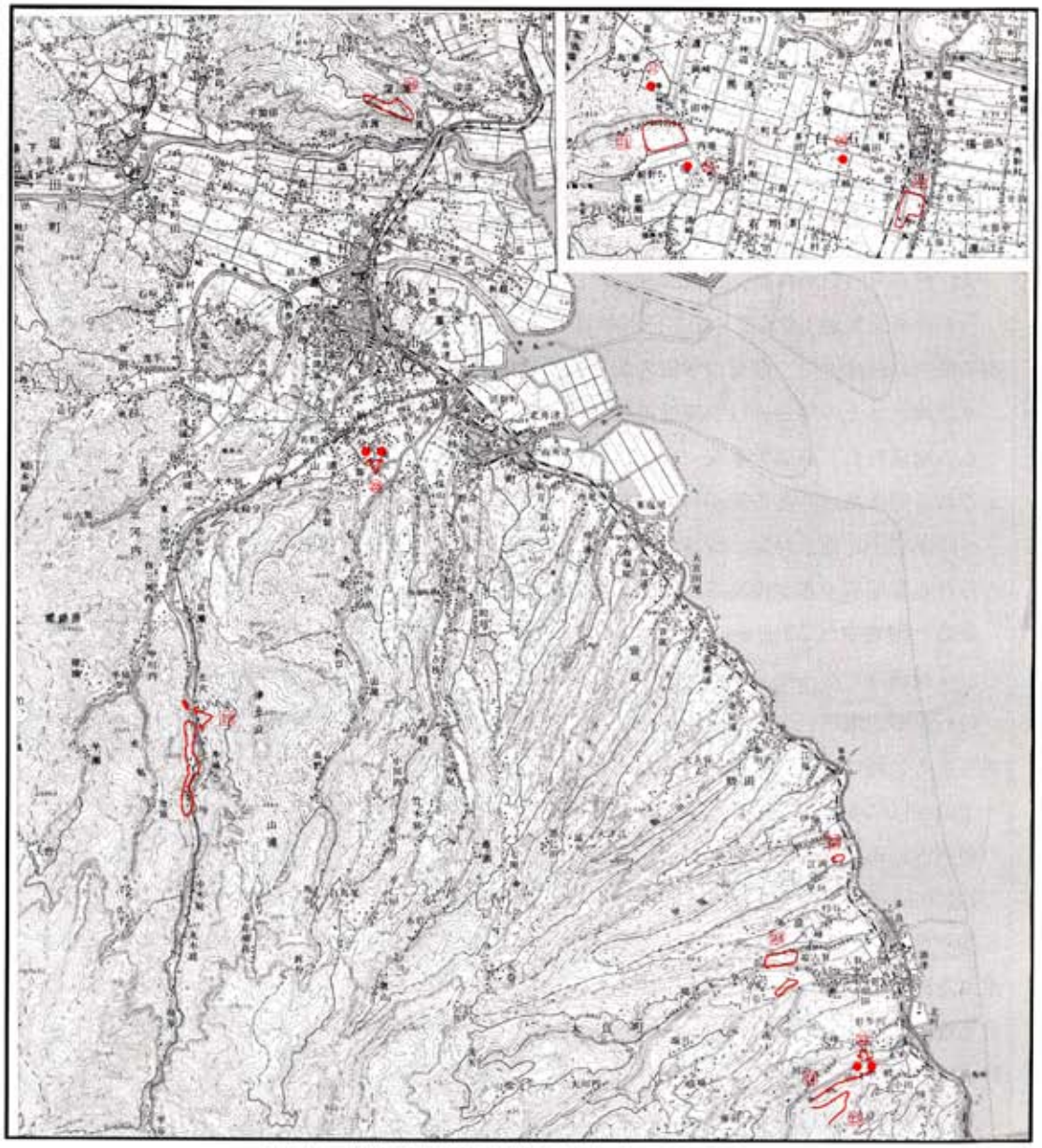


図 20　佐賀南部地区周辺地形図（1：100,000）

19	鹿島西部	（鹿島市）	24	糸岐川南（農道）（太良町）	㉙ 船野遺跡	（白石町）
20	白石西第三	（白石町）	25	当木線（林道）（太良町）	㉚ 多田遺跡	（白石町）
21	白石西第四	（白石町）	26	深浦～横山（林道）（有明町）	㉛ 鳥ノ巣遺跡	（白石町）
22	江　　岡	（太良町）	㉘	割重遺跡・正願地遺跡（鹿島市）	㉜ 糸岐川南遺跡	（太良町）
23	片　　峰	（太良町）				

（8）鹿島市（鹿島西部地区）

鹿島西部地区（鹿島市大字山浦、大字本城：確認調査対象面積9.8ha）は多良山地から鹿島市へ流れる中川が形成する谷部で本城部落のやや下流の水田である。

当該地区は城平遺跡（中世の包含地）、大平遺跡（縄文時代の包含地）の範囲内にあり、西側の標高331ｍの山頂には中世の城郭である原城跡が所在する。

確認調査は138箇所の試掘溝を設定して行ったが、遺構、遺物ともに検出されなかった。

（9）白石町（白石西第三地区21図　、白石西第四地区22図）

白石西第三地区（大字遠ノ江字一本松籠：確認調査対象面積９ha）はJR長崎本線と国道207号線に挟まれた地区で、白石中学校の北、西に隣接する水田地帯（標高1.0～1.5ｍ）である。

当該地区とその周辺には明確な遺跡の存在は知られていないが、東部に天文8（1539）年銘の一石六地蔵のある前覧世尊院、また北方約300ｍには寛永年間（1624～1643）に建立されたと推定される肥前鳥居のある鷹屋神社が存在する。

水路掘削予定地を対象に37箇所の試掘溝を設定した結果、１箇所で中世末から近世初頭と考えられる棺桶墓１基が検出された。また、棺桶墓の上には小皿２個が置かれていた。

墓跡と推定される130㎡について個別協議を行った結果、工法上の変更が困難であることから、全面調査となった。

白石西第四地区（大字馬洗字馬洗：調査対象面積18ha）は白石町の西、杵島山（標高345ｍ）から東方に延びる妻山丘陵の南麓に広がる標高3.8～5.0ｍの水田地帯である。

当該地区に北接する妻山丘陵全体は妻山遺跡（縄文～中世の包含地、弥生～古墳時代の墳墓）の範囲内にあり、丘陵の頂部は妻山古墳群が所在する。昭和36年の林道工事中には妻山神社西方約250ｍ、標高70ｍの地点で甕棺群が、更にその西方400ｍの地点で古墳時代中・後期の石棺墓５基が検出されている。そのほかでは北東部に馬洗上黒木遺跡（弥生～中世の集落跡）、馬洗下黒木遺跡（弥生～中世の集落跡）、南東部に堤遺跡（弥生～中世の集落跡）、小島遺跡（古墳～中世集落跡）、隆城跡、小島城跡、南に船野遺跡（弥生～古墳時代の散布地）、杵島城跡、西に船野古墳群が分布している。

水路掘削予定部分を対象に53箇所の試掘溝を設定したところ、３箇所で土壙が検出され、その埋土から弥生土器、古墳時代の土師器、奈良時代の須恵器等が出土した。このことから遺跡の中心部は現在の集落と重復すると推定されるが、その南端は当該地区に入っていると考えられる。

遺跡の分布が確認された1,265㎡の取り扱いについて個別協議を行った結果、その総てが地盤沈下用排水路69号を含めて水路予定地であり、掘削位置の変更も含め工法上の保護措置が困難なため、全域について調査を行うことになった。

図 21　白石町：白石西第三地区試掘溝設定図

図 22　白石町：白石第四地区試掘溝設定図

(10) 太良町（江岡地区、片峰地区、中路地区、糸岐川南地区（農道部分)、当木線（林道))

江岡地区（藤津郡太良町大字多良字江岡：確認調査対象面積1.4ha）は多良岳山系東麓を流れる江岡川によって開析された小谷の河口に近いところで、標高5～8ｍの水田である。

当該地区は周知の埋蔵文化財包蔵地には含まれないが、南側丘陵上には巨塔遺跡（縄文時代の散布地)、江岡遺跡（縄文時代の散布地）が、北側丘陵の東端部には伊福城跡（中世城跡）が分布している。

面工事による削平部分を中心に25箇所の試掘溝を設定した結果、２箇所の客土から弥生土器および土師器の小片が出土したのみで遺構は検出されなかった。

片峰地区（大字多良字片峰：確認調査対象面積5.1ha）は多良岳の北東尾根を多良川が開析することにより形成された谷底平野で現況は標高26～41ｍの水田である。

当該地区は周知の埋蔵文化財包蔵地には含まれないが、南側丘陵上には〝城山〟と通称される城館跡及び中世山城である正知田遺跡が立地している。

削平部分を対象に38箇所の試掘溝を設定したところ、３箇所で小穴が検出されたが遺構かどうかが疑わしい。また３箇所で弥生土器片、黒曜石片が出土したが、いずれも摩耗が著しく流れ込みと考えられる。

中路地区（大字多良字中路：確認調査対象面積2.3ha）は多良山系東麓部の多良川及びその水系によって開析された谷底平野に位置し多良川を挟んで片峰地区と対峙した標高25～34ｍの水田である。

当該地区は周知の埋蔵文化財包蔵地には含まれないが、南側に隣接して〝城山〟と通称される中世の城館跡及び正知田遺跡が立地している。

削平部分を中心に27箇所の試掘溝を設定した所、１箇所から小ピット及び土師器片が検出されたが、広がりは確認できなかった。

糸岐川南地区（農道部分）（大字糸岐川字川南：確認調査対象面積0.3ha）は平成２年度農業基盤整備事業地区である糸岐川南地区の平野部に南接する標高13～51.7ｍの丘陵頂部で現況は蜜柑園である。

当該地区は周知の埋蔵文化財包蔵地には含まれないが、北側の糸岐川によって開析された平野部には糸岐川南遺跡（中世～近世の集落跡）が立地している。

削平予定部分を対象に６箇所の試掘溝を設定したが、遺構・遺物とも検出できなかった。

当木線（林道開設事業）（大字糸岐字当木：確認調査対象面積2.3ha）は多良岳から北東方向に延びる尾根を横に切るかたちで建設されるもので、確認調査は尾根頂部に２箇所設定して実施した。いずれも未周知で遺構・遺物ともに検出されなかった。

(11) 有明町（県営深浦～横山多目的保安林整備事業：確認調査対象面積12.6ha）

当該地（杵島郡有明町大字深浦）は杵島山系から南東側に延びる標高95～244ｍの丘陵尾根部及び斜面一帯で、南側には塩田川が東流している。対象地の東地区は長浜古墳群の、西地区は深浦横山遺跡（縄文時代の遺物散布地）の範囲内に含まれるが詳細については不明である。

丘陵尾根部を中心として16箇所の試掘溝を設定したがが、遺構・遺物ともに検出できなかった。

《佐賀北部地区における調査》

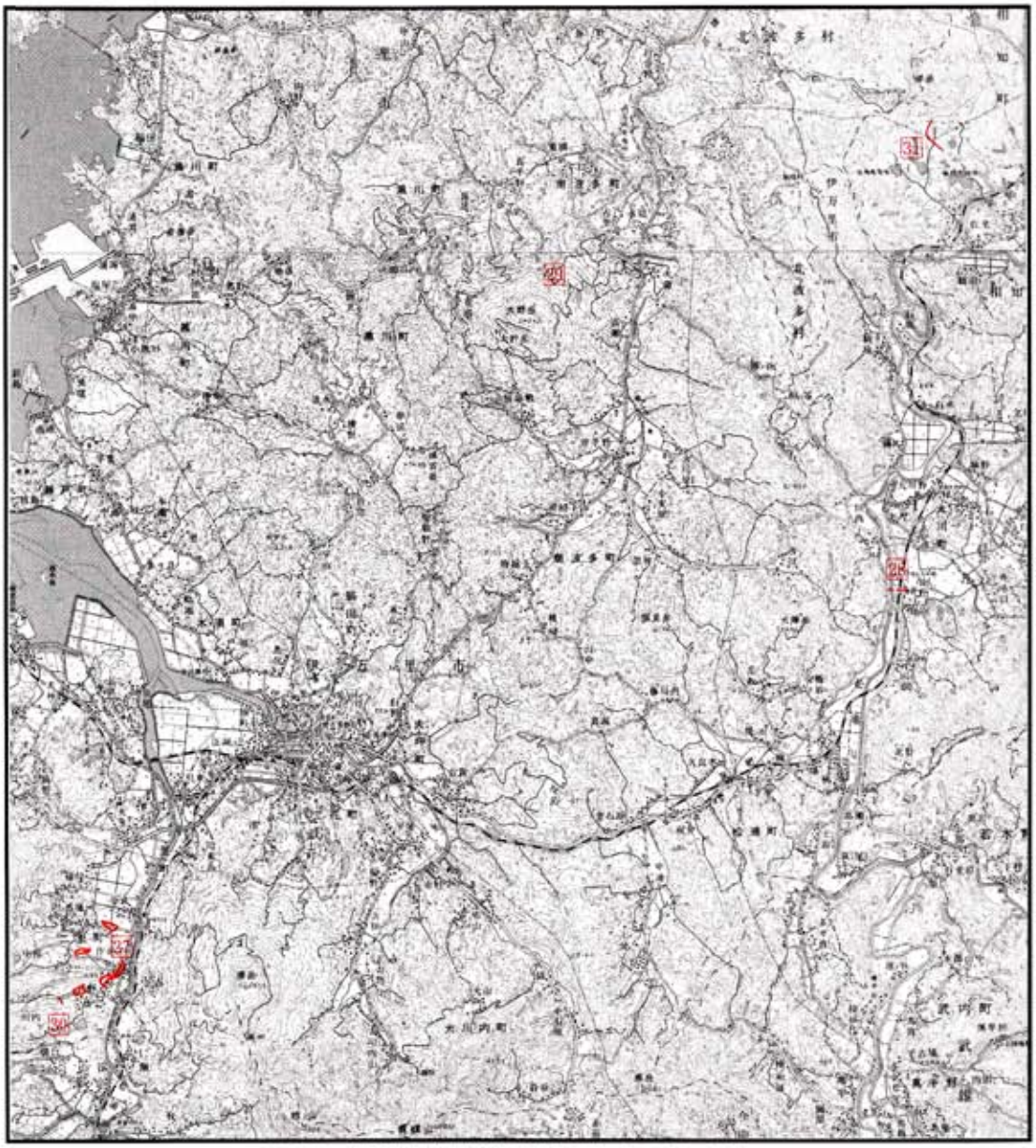


図 23　佐賀北部地区周辺地形図（1：100,000）

27 中　　里　　（伊万里市）　29 大野岳(農道)(伊万里市)　31 岸岳2期(農道)(相知町)
28 大陣岳(農道)(伊万里市)　30 切畑3期(農道)(西有田町)

(12) 伊万里市（中里地区、大陣岳線、大野岳地区（農林漁業用揮発油税財源身替農道））中里地区（伊万里市二里町作井手：確認調査対象面積29.4ha）は国見山から東に派生した丘陵及び谷部が有田川に接する地域で、丘陵周辺の斜面部と、丘陵と丘陵に挟まれた谷部の標高30～53ｍの水田である。

当該地区は吉野遺跡（縄文～弥生時代の散布地）、早川遺跡（縄文～弥生時代の散布地）、平原遺跡（縄文時代の散布地）、野瀬原遺跡（縄文時代の散布地）の範囲内にある。

削平部分を対象に31箇所の試掘溝を設定したところ、黒曜石片、陶磁器片が若干出土したが、遺構は検出されなかった。

大陣岳線（松浦町堤川字井手ノ原：確認調査対象面積0.3ha）は県道三間坂～相知線から松浦川を越えて、大陣岳（標高268ｍ）の東麓部から入り南側の中腹部を通り岳坂部落までいたるもので、今年度は県道三間坂～相知線から220ｍの範囲で、松浦川両側の水田部と大陣岳から東へ伸びる丘陵先端部について確認調査を実施した。

当該地区の水田部については周知外であるが、丘陵先端部は井手ノ原遺跡（縄文時代の散布地）の範囲内にあり、また近接する北側山麓には江湖遺跡（縄文時代の散布地）、車木遺跡（縄文時代の散布地）が分布している。削平部分を対象に６箇所の試掘溝を設定したが、遺構・遺物ともに検出されなかった。

大野岳地区（黒川町長尾：確認調査面積0.7ha）は大野岳（標高424ｍ）山麓を一周する農道で、全線4,300ｍの内、今年度は北側山麓の650ｍの工事区間について確認調査を実施した。現況は果樹園、樹林地、水田である。

当該地区は周知外であるが、周辺には紅指遺跡、向田遺跡、原田遺跡、畑ヶ田遺跡等の縄文時代の散布地が分布している。

削平部を中心として８箇所の試掘溝を設定したが、遺構・遺物ともに検出できなかった。

(13) 西有田町（切楠３期地区（農林漁業揮発油財源身替農道）

切楠３期地区（西松浦郡西有田町大字山谷字鎌ノ首：確認調査対象面積1.35ha）は、国見山系から東へ延びる丘陵及び谷を横断する農道で、現況は山林、畑地となっている。

当該地は鎌ノ首遺跡（縄文時代の散布地）の範囲内にあり、周辺にも野瀬原遺跡、黒木遺跡等の多くの縄文時代の散布地が分布している。

掘削予定部分を対象に８箇所の試掘溝を設定した結果、遺構・遺物ともに検出されなかった。

(14) 相知町（岸岳２期地区（農林漁業揮発油源身替農道）

岸岳２期地区（東松浦郡相知町大字佐里字岸岳：確認調査対象面積1.35ha）は岸岳（標高320ｍ）南麓の急斜面が緩斜面へ移行する一帯（標高100～150ｍ）であり、岸岳１期（昭和61年

度～昭和63年度事業：総延長1,923ｍ）、及び岸岳２期（昭和63年度～平成４年度事業：総延長4,202ｍ）の２次期にわたる農道整備事業が進められている。

当該地区は周知外であるが、近くには縄文時代の散布地である赤地坂遺跡、明神遺跡が存在する。

削平部分を中心に９箇所の試掘溝を設定したところ、遺構・遺物とも検出されなかった。

《佐賀上場地区における調査》

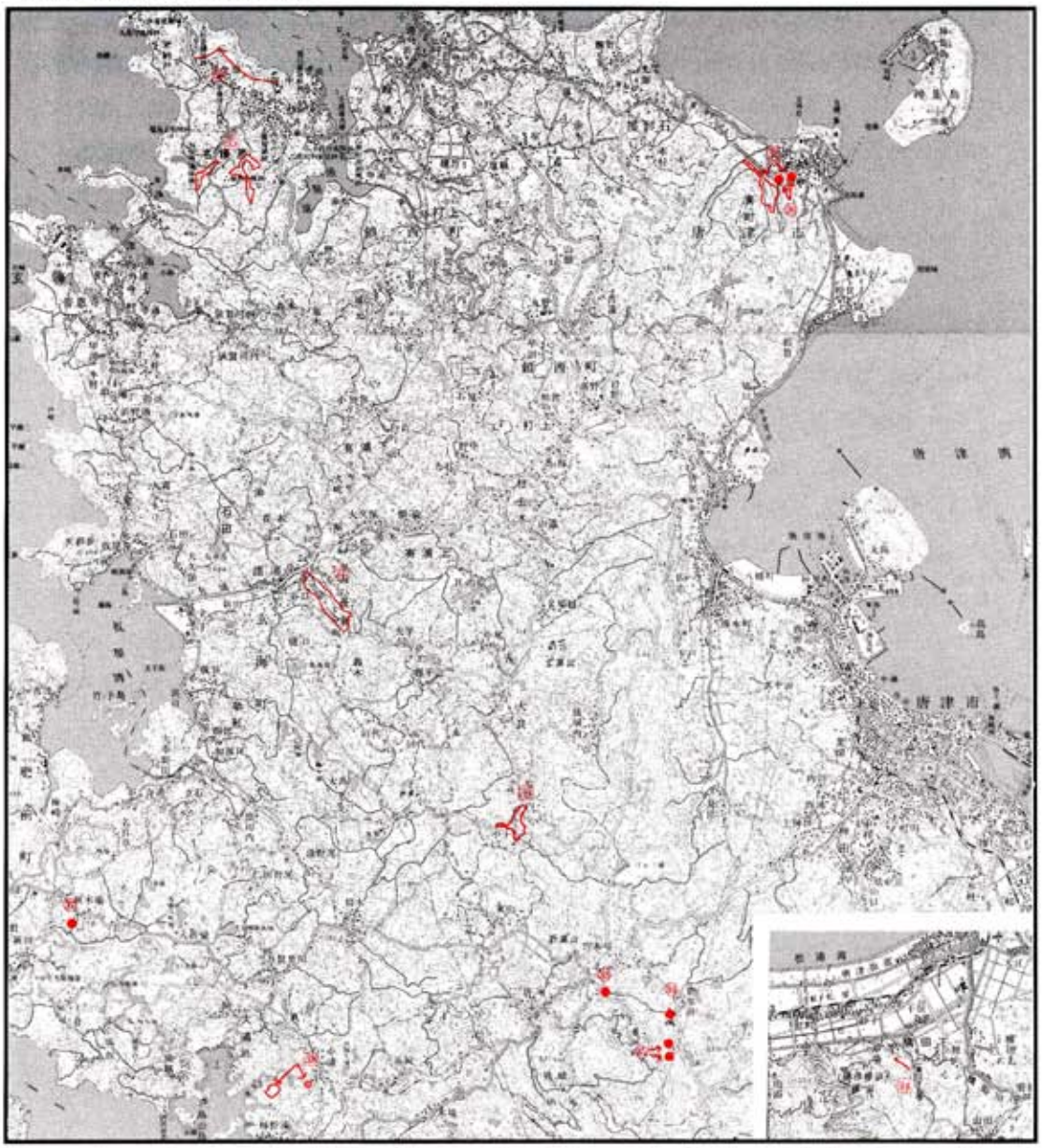


図 24　佐賀上場地区周辺地形図（1：100,000）

32 上場II期(湊)(唐津市)
33 上場IV期(梨川内)(唐津市)
34 大岩(農道)　(浜玉町)
35 上場地区(赤玉毛)(鎮西町)
36 上場地区(麦原)(鎮西町)
37 上場IV期(長倉)(玄海町)
38 上場III期(中浦)(肥前町)
㉝ 竹木場前田遺跡(唐津市)
㉞ 菅牟田西山遺跡(唐津市)
㉟ 山田団六I・II遺跡(唐津市)
㊱ 湊松本遺跡　(唐津市)
㊲ 新木場東遺跡(肥前町)

(15) 唐津市（上場II期地区（湊工区25図）、上場IV期地区（梨川内工区））

湊工区（大字湊字松本：確認調査対象地区面積0.76ha）は湊集落の南側の湊疫神社、湊小学校に隣接する砂丘地、及びその後背地（標高4～124m）であり、西郷川に隣接している湿地帯、中小河川による狭隘・急傾斜な開析平野等変化に富んでいる。

当該地区は平成2年度工事予定地区の計画変更によって増加した7,060㎡及び本調査地区の追加の確認調査を実施した。

地区の北西側を流れる橋本川対岸の丘陵上には鞍遺跡（縄文～弥生時代の遺物散布地、弥生時代の墳墓群）、雲透遺跡（旧石器～古墳時代の遺物散布地）等が立地している。また南西方向200mには国営畑地帯総合土地改良事業に伴って調査され、高地性集落の存在が確認された湊中野遺跡（田島龍太他　1985　『湊中野遺跡』唐津市文化財調査報告書第14集　唐津市教育委員会）が所在している。

面工事による削平部分を対象に12箇所の試掘溝を設定した結果、7箇所で住居跡、土壙、溝跡、柱穴を検出し、7箇所において弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器が出土した。

個別協議の結果、平成2年度当初調査予定地区の一部770㎡（計画変更によって調査面積減）、今回の確認調査で本調査が必要になった地区770㎡ということで、平成2年度当初と同じ2,200㎡について本調査を行うことになった。

梨川内地区（大字梨川内字村口、佐志山、下毛山、戸五郎、河内山：確認調査対象面積9.0ha）は、唐津市の西部に広がる東松浦熔岩台地（上場台地）の有浦川によって南北方向に形成された開析平野（標高100～120m）であり、現況は水田である。

当該地区は未周知であるが、近くには旧石器時代の散布地である殿木場遺跡、大久保遺跡ほか県営農業基盤整備事業に伴って調査が実施され、17世紀前半の古唐津の窯であることが判明した小十窯が知られている。（中島直幸他　1985　『小十窯跡・大良中尾二ッ枝遺跡概報』唐津市文化財調査報告第12集　唐津市教育委員会）。

面工事による掘削予定部分2地区を対象に10箇所の試掘溝を設定した結果、表土より若干の黒曜石、陶磁器が出土したのみである。

(16) 浜玉町（大岩地区）

大岩地区（東松浦郡浜玉町大字横田下字小仏谷：確認調査対象面積0.5ha）は唐津市との市町境に位置する鏡山（標高283.7m）の北東斜面（標高45～65m）の横田下古墳が立地する丘陵から南西側の谷部に築かれている草場溜池の南側を迂回した後、再び鏡山丘陵斜面を上りながら延楽寺方向へと向かう路線である。なお現況は蜜柑園として利用されている。

当該地は草場古墳群の範囲内にあり、同一丘陵先端部には国史跡の横田下古墳が立地するなど、竪穴式石室から横口式石室へと移行する時期の古墳が多く点在している地域である。

図 25　唐津市：上場II期地区（湊工区）試掘溝設定図

掘削予定地を対象に13箇所の試掘溝を設定したところ、4箇所から甕、器台等の弥生土器が出土したが遺構は検出できなかった。

(17) 鎮西町（赤玉毛工区、麦原工区）

赤玉毛工区（東松浦郡鎮西町大字名護屋字赤玉毛：調査対象面積18.0ha、L＝1,850m）は上場台地特有の低丘陵と谷部が入りくんだ地形で、工事施工は標高20m前後の谷水田と、主に丘陵裾部を巡る農道について実施される。周辺の丘陵には木下延俊、古田織部、堀秀治等の陣跡が分布している。

農道部分を中心として8箇所の試掘溝を設定したところ、5箇所の表土及び耕作土から若干の陶磁器が出土したのみであった。

麦原工区（大字名護屋字宮口、古館、神田：調査対象面積L＝1,700m）は玄海灘に突き出た小半島の標高30～40mの低丘陵地帯で現況は畑、原野である。工事は農道建設で、一部長束正家陣跡を通る。周辺にも氏家行広、足利義昭、蒲生氏郷等の陣跡が分布している。

農道部分に9箇所の試掘溝を設定したところ、4箇所から若干の陶磁器、黒曜石片が出土したのみであった。

(18) 玄海町（長倉地区）

長倉地区（東松浦郡玄海町大字長倉字鬼塚：確認調査対象面積14.0ha）は有浦川の開析によって形成された標高3～33mの平野部で現況は水田及び畑地となっている。

当該地は周知外であるが、北側には梅ノ迫遺跡（縄文時代の散布地）、南側には浜田遺跡（縄文時代の散布地）及び近世の窯跡である諸浦窯跡が分布している。

削平部分を中心として24箇所の試掘溝を設定した結果、1箇所から石棺1基が検出され、埋土から管玉、ガラス小玉、黒曜石剥片、土器片が出土した。その他、1箇所の耕作土から黒曜石のナイフ形石器、石鏃、剥片、土器が出土した。

(19) 肥前町（上場III期）

上場III期（東松浦郡肥前町大字中浦字八ノ久保・池ノ山：確認調査対象面積2.5ha）は東松浦半島の南西部、伊万里湾に面した標高50～100mの傾斜地で、現況は棚田となっている。

当該地は周知外であるが、周辺には松ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡、餅田遺跡等縄文時代の遺物散布地が分布している。

削平を受ける部分に28箇所の試掘溝を設定した結果、石鏃、石核及び黒曜石片が若干出土したが、流れ込みによるものと考えられる。また、遺構は検出されなかった。

《筑後川下流用水事業に係る調査》

水資源開発公団（筑後川下流用水建設所）による筑後川下流用水事業に係る文化財の確認調査は、佐賀東部導水路の上峰工区（上峰町）と、大託間幹線水路の諸富為重工区（諸富町）、千代田原の町工区について行った。

(20)　上峰工区（三養基郡上峰町大字坊所字西峰、三本松：確認調査対象面積L＝350ｍ）は上峰町のほぼ中央、標高9～10ｍの舌状台地の南端に位置する。

当該地の東端は弥生時代の散布地である坊所三本松遺跡で、その西に小坊所遺跡（弥生時代の散布地）、塔の塚廃寺（奈良時代の寺院跡）、北畠遺跡（弥生～古墳時代の集落跡）が連なっており、幹線がその中を通っている。

17箇所の試掘溝を設定した結果、小坊所遺跡内の３箇所から竪穴住居跡、土壙等が検出された。協議した結果、水路部分760㎡について本調査を実施することになった。

(21)　諸富為重工区（佐賀郡諸富町大字為重字為重：確認調査対象面積L＝400ｍ）

佐賀市久保泉町大字上和泉、下和泉：確認調査対象面積0.37ha）は早津江川の北岸、標高1.0～1.5ｍの底平な沖積地に位置し、中央を大五川が西流する。

当該地は未周知であるが、周辺には中世の城跡・集落跡である寺井城跡、為重村中遺跡が分布している。

11箇所の試掘溝を設定した結果、遺構・遺物ともに検出されなかった。

(22)　千代田原の町工区（神埼郡千代田町大字境原字七本松：確認調査対象面積L＝77ｍ）は城原川西岸約２㎞の地点で、クリークに囲まれた約50ｍの四方の標高３ｍの島状地である。

当該地は未周知であるが、周辺には弥生時代の集落跡・墳墓である貴別当神社遺跡を初めとして、弥生から中世の散布地である姉二本松遺跡、姉一本松遺跡、境原四本松遺跡等が分布している。

６箇所の試掘溝を設定した結果、南端部の約12ｍの範囲で中世から近世の溝跡、土壙及び遺物が検出された。

協議した結果、水路部分31.5ｍについて本調査を実施することになった。

Ⅳ．平成２年度発掘調査の概要

《佐賀東部地区における調査》

(1) 原古賀(はらこが)遺跡（略号：FHU)

遺跡の所在地

鳥栖市原古賀町字大楠

調査主体者

鳥栖市教育委員会

調査期間

平成３年２月

調査面積

270㎡

遺跡の概要

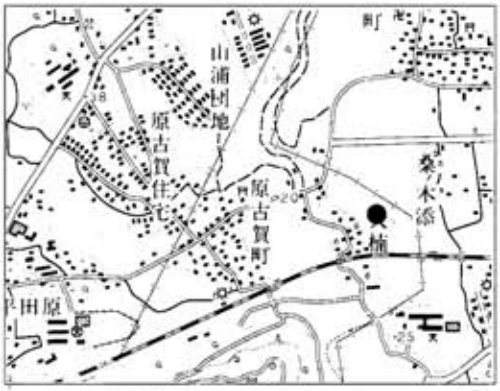
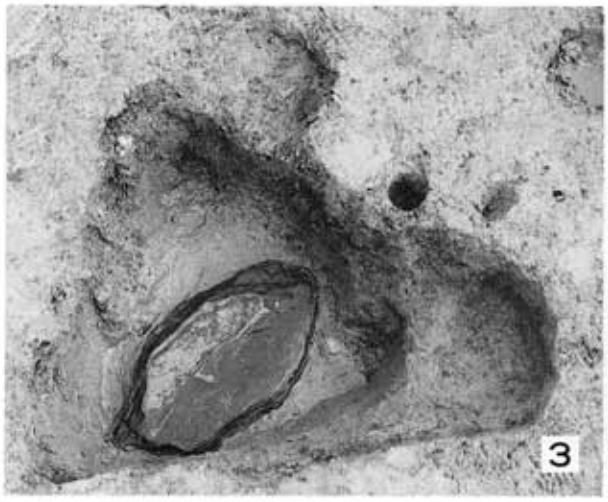


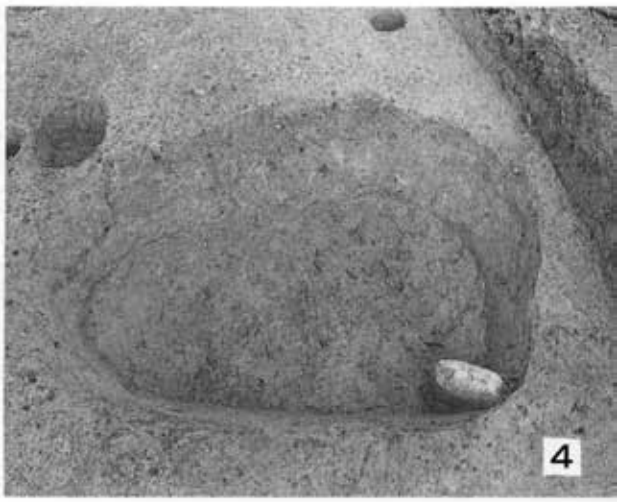
図26　原古賀遺跡周辺地形図(1：25,000)

原古賀遺跡は朝日山の北、安良川が大きく東に湾曲するところの右岸に立地する。大楠の集落は集落の両出入り口に立つ六地蔵が示すように中世より存続することが確認できる古い集落であり、調査地区はこの集落の載る高台を下った東裾部にあたる。確認調査では東にかけて広い範囲で中世遺構の存在が確認されたが、調査地点は圃場整備工区の端部である排水溝設置部分に限ったため、以前よりある溝や溜池跡と大部分が重なり、中世の遺構が検出されたのは40㎡余りにとどまった。

調査地点は低湿地状となり粘質土の地山で湧水も若干あり、木質部分の有機物が多量に残存していた。検出された遺構は土壙が２、石組状遺構が１で、あとはピットである。SKO1土壙は祭祠土壙といえるもので、底部に祠碑と考えられる板石を据え、いったん埋めた後に土師皿や曲物や編み製品等を廃棄した複数の小穴を上から掘りこんでいる。またピットの一つからは土器片や木器類に混ざって桃と胡桃の種が出土している。何らかの理由でこの石を封じ込めるように埋納したあと、そのお祓いに使用した器物をそのあと廃棄したものと思われる。なおこの石の下からは銅銭（元豊通宝）が一枚投げ入れた状態で出土している。銅銭はそのほかSK02土壙からも朝鮮通宝が一枚出土した。このほか石組状遺構からは焼土とともに土器片が多数出土した。祭祠に伴って火を焚いた場所であろう。この一角が室町期の祭祠関連の空間であったものと思われる。ただ、こうした遺構が一般集落に付随するものか、あるいは館等に伴うものかどうかについては調査面積が狭小のため明らかにできなかった。

(1) 原古賀遺跡遺構集中部（西から）
(2) SX01祭祀土壙上層（西から）
(3) SX01祭祀土壙下層（西から）
(4) SK02土壙（南から）





（2）養父遺跡（略号：FYY）

遺跡の所在地

鳥栖市養父町

調査主体者

鳥栖市教育委員会

調査期間

平成３年２月～３月

調査面積

1,200㎡

遺跡の概要

図28　養父遺跡周辺地形図(1：25,000)

養父遺跡は鳥栖市のほぼ中央を流れる安良川の左岸に形成された、標高約50～30ｍの、南東に傾斜する養父扇状地上に立地する。遺跡周辺は市内から久留米方面にかけて遠望できる高所である。調査地点の標高は約30ｍで、圃場整備事業による削平部分３か所を調査した。

Ⅰ区からは住居跡４、方形竪穴遺構１および小穴群を検出した。時期は弥生時代後期後半～古墳時代前期である。方形竪穴遺構は住居跡である可能性が高い。

Ⅱ区からは東西に走る幅約５ｍの溝状遺構とこれに注ぐ小溝を検出した。時期は奈良時代である。あとは小穴（時期不明）を多数検出したが、そのうちの一つから脇差しが一振り出土している。

Ⅲ区からは弥生時代中期初頭の土壙１、竪穴１、弥生終末～古墳時代初頭（庄内併行期）の住居跡１、方形竪穴１、古墳時代前期（布留併行期）の住居跡３を検出した。SH02住居跡からは二重口縁の丹塗小型壺が出土した。併出土器からも庄内期にまでのぼる可能性が強い。古墳時代前期の住居跡はⅠ区のものと対応するものと思われる。

近辺の牛原前田遺跡や元古賀遺跡からは最近の調査で弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭にかけての遺構が検出されており、養父遺跡とその周辺一帯が一つのグループとして新たに認識できるまでになっている。比較的不明な部分の多い鳥栖市内のこの時期の集落変遷を知る上で、今回の調査結果は重要な資料を提示できそうである。発生期古墳を含む墳墓の発見と共に今後の調査に期待がもてる。

(1) 養父遺跡Ⅰ区全景（西から）
(2) Ⅰ区SH03住居跡（西から）
(3) Ⅱ区全景（北西から）
(4) Ⅲ区全景（東から）
(5) Ⅲ区SH02住居跡（西から）
(6) SH04住居跡（南から）

（3）本村（ほんむら）遺跡（略号：FYH）

遺跡の所在地

鳥栖市山浦町字本村

調査主体者

鳥栖市教育委員会

調査期間

平成２年７月

調査面積

950㎡

図30　本村遺跡周辺地形図(1：25,000)

遺跡の概要

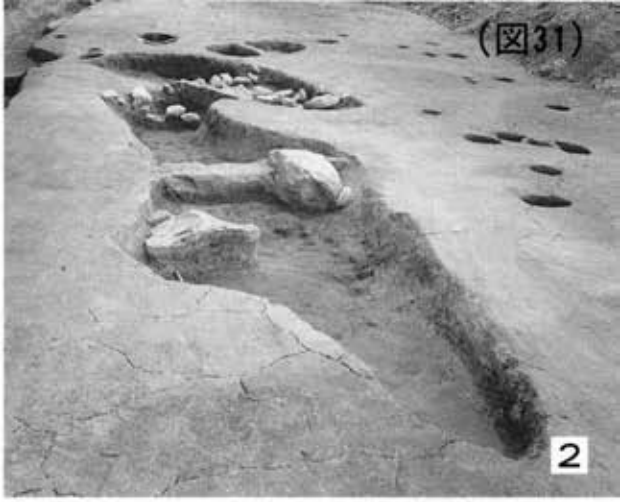
本村遺跡は脊振山系の雲野尾峠より南東方向に派生した丘陵突端部の南麓に立地する。この裏山は通称「寺山」と呼ばれるが、この場所に円成寺という禅宗寺院が明暦元（1655）年までは存在していたことが確認されている。今回、圃場整備事業により削平を受ける300㎡程度の部分３箇所を調査した結果、中～近世の遺構が検出された。

調査区は互いに近接するが、検出された遺構の時期はそれぞれ相違する。最も高所にあるＩ区からはピット群と共に池状の遺構を検出した。庭石と理解できる巨石が２個配されており、うち一つの下からは五輪塔の水輪の部分が挟み込んだ状態で出土した。遺物は底面より室町期の耳皿や明の青磁片が出土している。また、池状遺構に連続した石組状の遺構の中からは転用された形で五輪塔や宝篋印塔の笠の部分が出土した。

II区からは土器が投げ込まれた状態の土壙が７基検出された。これらの土壙は互いに重復しており、少なくとも７回にわたって廃棄がおこなわれたことが確認できる。中からは土師皿、摺鉢、土鍋、瓦器片、青磁片が多量に出土した。時期は13世紀前半頃であるが、出土遺物は一括資料として、土壙の重復関係の詳細な検討と合わせて、今後の整理作業により若干の編年的成果が期待できそうである。

III区からは近世初頭期の埋甕状遺構が検出され、下部のみが残存した状態で５基の大甕が出土した。これらはいずれも素焼きである。このうちの３基はまとまって検出され、内部には摺鉢、小甕等が投棄された状態で出土した。大甕の特徴としては陶器でなく素焼きであることである。また、もともと甕が据えてあったと推定できる土壙が２基検出された。そのほか片辺４間の掘立柱建物跡１棟が部分的に検出されたが、うち１つの柱穴からは灰に混ざって銅銭（種別不明）が１枚出土している。

以上のように，今回の調査で出土した中世～近世の遺構は、部分的ではあるが、円成寺との関連を十分に肯定できるものであると同時に、この地区における中世の様相を窺い知る数少ない例として重要である。



(1) 本村遺跡Ⅰ区全景（東から）
(2) Ⅰ区池状遺構（西から）
(3) Ⅱ区全景（南から）
(4) Ⅱ区中世土壙（東から）
(5) Ⅲ区近世埋甕遺構（南から）
(6) Ⅲ区中世掘立柱建物跡（北から）

（4）西田（にしだ）遺跡（略号：FYN）

遺跡の所在地

鳥栖市山浦町字西田

調査主体者

鳥栖市教育委員会

調査期間

平成2年9月～平成3年2月

調査面積

Ⅰ区　2,130㎡

Ⅱ区　1,710㎡

Ⅲ区　1,950㎡　計5,790㎡

図32　西田遺跡周辺地形図(1：25,000)

遺跡の概要

西田遺跡は鳥栖市の西北部、脊振山系の雲野尾峠より派生した丘陵群の一角に立地する。現状は長崎自動車道が横断した体を成しているが、もともと段丘状あるいは谷状の地形が入り組んでおり、現在は段々畑・水田として利用されている。圃場整備事業による削平部分3地点を調査した結果、広範囲にわたり縄文早期の遺跡が存在することが明らかとなった。

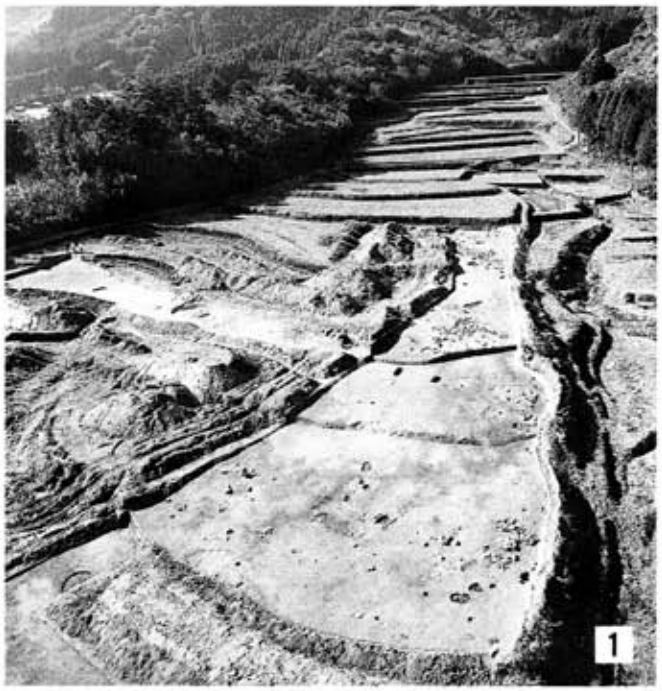
付近には後期群集墳の分布地点で点在するが、Ⅱ区で一辺が15m以上になる方墳の周溝の一部を上部が削平された状態で検出した。時期は6世紀第3四半期である。これ以外に、近世あるいは中世の遺物が包含層より各地区で若干みられたほかは、すべてが縄文時代の遺構・遺物である。Ⅱ区から縄文中期の船元式の波状口縁深鉢が倒置状態で単独出土し、Ⅲ区からも前～中期の深鉢が埋甕状態で検出され、あるいはⅠ区から多少の縄文晩期の土器片の包含が見られたものの、本遺跡は縄文早期を中心とする時期の遺跡と言い得る成果を得た。

縄文早期の遺構として、住居跡は見い出されなかったが、集石遺構と総称される遺構が多数検出された。またⅠ区からは落とし穴状の土壙や集石土壙墓の可能性が考えられる遺構が検出されたほか、各調査地点で平面不整形の性格不明土壙が多数検出されている。

「集石遺構」は、石を組んだ、炉としての使用が明らかに想定できる「石組炉」と、平面的にあるいは土壙を伴って礫が人為的に集められた「集石」とに2大別できる。本遺跡からは石組炉が8基（Ⅰ区5基、Ⅱ区1基、Ⅲ区2基）、これ以外の集石遺構と判断できるものが70基程度（Ⅰ区34基、Ⅱ区5基、Ⅲ区32基）検出された。両者ともに焼かれた痕跡をもつ礫を含むことから、屋外の調理施設と考えるのが妥当であるが、とくに後者のうち31基（Ⅰ区9基、Ⅱ区22基）は、いわゆる蒸し焼施設（炉）としての用途を想定できるものである。しかし、あとの40基程度（Ⅰ区25基、Ⅱ区5基、Ⅲ区10基）確認した集石遺構については、実際にこうした性格付けのみでは理解し難い。これらは小土壙の中に土器片を伴っていくらかの礫を置いたもの

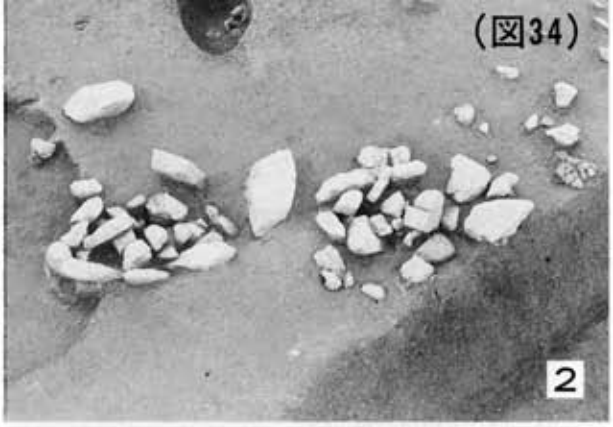
や、熱処理加工後の投棄状態を示すもの、あるいは単に崩壊拡散した状態のものなど、種々の形態の焼礫集積遺構、または単に礫群とよぶべきものであり、今後別の視点で検討する必要がある。また、これらは蒸し焼炉も含めて、連続した形でグループを形成しているが、個々の単位の把握、あるいは時間差等についてもさらに詳細な分析が必要となろう。

III区からは非日常的な何らかの意思が反映されているものと思われる。ほぼ正確に東西方向に並んだ帯状配石が下層から検出されている。これは墓の上部に並べられた墓標、あるいは東西に連なっていることから信仰に関連した遺構とも考えられるが、性格については今後の検討課題である。また、I区から出土した黒曜石・安山岩質の原石およびチップ・剥片あるいは未成品の出土総数は数千点以上にのぼり、石器製作地としての性格も捉えることができるというように、各調査区は互いに近接するるものの、同じ早期でも遺構・遺物の分布状況はそれぞれ趣を異にするが、今後の整理作業の進展により早期の中での時期差、あるいは生活空間の移動も含めたこの時期の集団関係の一端に触れ得るものと考えている。

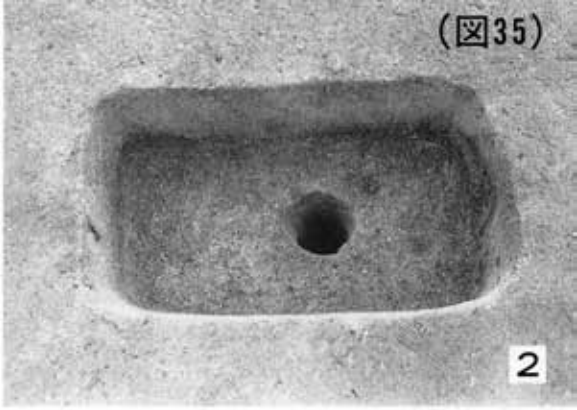


(1) 西田遺跡I区全景（南から）

(2) I区集石遺構検出状況（南から）



(1) 西田遺跡Ⅰ区集石群検出状況（西から）
(2) Ⅰ区　SX45、SX46集石炉[3]（南から）
(3) Ⅰ区　SX47集石土壙（南から）
(4) Ⅰ区　SX32集石土壙（東から）
(5) Ⅰ区　SX65集石炉[3]（北から）
(6) Ⅰ区　SX58、SX59集石炉[1]検出状況（西から）
(7) Ⅰ区　SX59集石炉[3]（北から）



(1) 西田遺跡Ⅰ区SX53集石土壙墓（北から）
(2) Ⅰ区　SK49土壙（東から）
(3) Ⅰ区　押型文土器出土状況（北から）
(4) Ⅱ区　船元式土器出土状況（北から）
(5) Ⅲ区　帯状配石検出状況（北から）
(6) Ⅲ区（西から）
(7) Ⅲ区　帯状配石内集石土壙（北から）

（5）鈴町（すずまち）遺跡　（略号：　　）

遺跡の所在地

三養基郡基山町大字園部字鈴町

調査主体者

基山町教育委員会

調査期間

平成３年７月～９月

調査面積

3,200㎡

図36　鈴町遺跡周辺地形図（1：25,000）

遺跡の概要

鈴町遺跡は、町の南西部に位置する中隈山の東側で、秋光川と山下川によって形成された扇状地の標高36～38ｍに立地している。遺跡の西側には、古墳時代の墳墓と中世の山城で園部城の支城と考えられている中隈山遺跡、北側に御仮殿古墳群、南側に奈良・平安時代の東福寺遺跡が分布している。

調査は、工事によって切土される部分と水路工事で掘削される部分について実施した。調査の結果、弥生時代中期の甕棺墓６基、土壙１基、中世の土壙１基、井戸２基、溝１条、時期不明の溝２条・小穴群などを検出した。

甕棺墓は、調査区の中央付近に点在している。各々の残存状況は悪く、下半部あるいは最下部のみが出土している。１～３号甕棺墓は小児用で他は不明である。時期は、中期中頃のものと考えられる。

１号土壙は、上部をかなり掘削されていると思われ、土器片が数点のみ出土している。甕棺墓と同時期のものと考えられる。

１号井戸は、調査区の中央部に近接して出土している。ほぼ円形で、瓦器椀が出土している。２号井戸は、調査区の東側に位置しており、木製の下駄が１点出土している。その北側は２段掘りで、石積みがなされている。また、石積みの内側には、３本の杭が打ち込まれている。

今回の調査によって、本町における甕棺墓の分布が山下川以南の丘陵と考えられていたが秋光川まで分布していたのが確認された。今後周辺地区の調査によって甕棺墓の分布状況が明確にされるものと思われる。

(図37)

(1) 鈴町遺跡全景
(2) 6号壺棺墓（西から）
(3) 2号土壙（南から）

（6）原古賀遺跡群

拾徳遺跡（略号：JTK）

高柳三本桜遺跡（略号：TSZ）

遺跡の所在地

三養基郡中原町大字原古賀

字拾徳、字三本桜

調査主体者

中原町教育委員会

調査期間

平成2年6月～11月

調査面積

4,500㎡

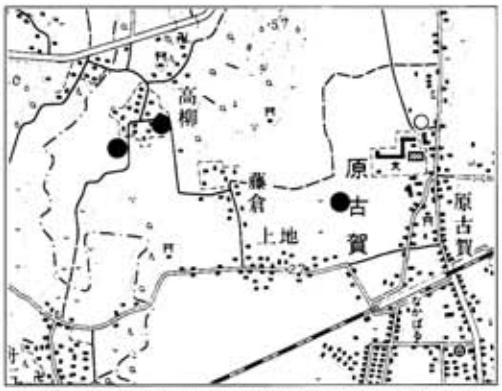


図38　原古賀遺跡群周辺地形図(1：25,000)

遺跡の概要

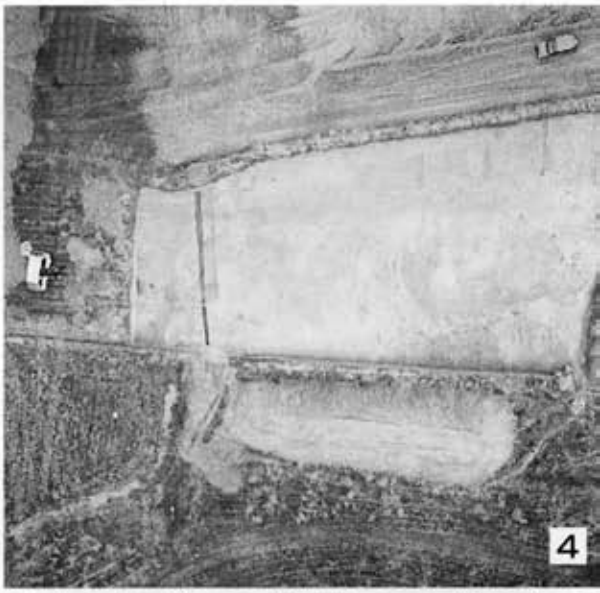
拾徳遺跡は寒水川西岸の段丘上に位置し、標高約30ｍをはかる。検出された遺構は、弥生時代中期前半の土壙2、奈良時代の土壙及び溝、12～13世紀ごろと見られる不整形の黒色土の落ち込みである。遺物は弥生時代の甕、壺及び須恵器、土師器、青磁椀が出土した。

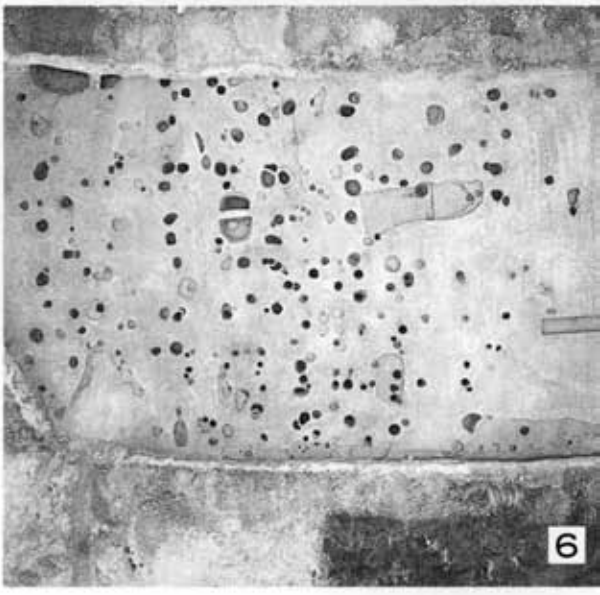
高柳三本桜遺跡は鷹取山から南に伸びる段丘上に位置し、標高35ｍ～37ｍをはかる。調査区は大きく2地点に分かれ、さらに東側を4区（Ⅰ～Ⅳ）、西側を2区（Ⅴ、Ⅵ）の計6区にわけた。

検出された遺構は土壙、溝、掘立柱建物、ピットであり、一部に縄文時代の包含層が見られた。土壙は不整形で遺物の出土も少なく性格不明の物が多いが、Ⅵ区で検出された土壙からは奈良時代の須恵器や土師器が出土し、底面には赤色顔料が見られた。溝は幅広で深いものと幅が狭く浅いものの2種類がある。前者にはⅠ区で検出された溝があり、中からは奈良時代の須恵器、土師器がコンテナ2箱ほど出土した。後者にはⅢ区及びⅤ区で検出された直線的なものとⅤ区で検出された直角に曲がるものがある。時期及び性格は不明だが条里関係遺構の可能性もある。掘立柱建物はⅥ区に集中しており、2間×3間が3棟、2間×4間が1棟である。時期は8世紀代であろう。

出土遺物は須恵器、土師器が主で、他に縄文土器（曽畑？）、石鏃、尖頭器、舶載青磁椀、近世陶磁器片がある。須恵器、土師器は奈良時代を中心とするものである。

今回の調査では弥生時代中期初頭及び古代の集落の広がりが確認され、今まで資料の少なかった縄文時代の遺物が出土するなど大きな成果をあげることができた。





(1) 高柳三本桜遺跡 I・II区全景
(2) I区全景
(3) III・IV区全景
(4) V区全景
(5) VI区全景
(6) VI区掘立柱建物跡

（7）八藤（やとう）遺跡（略号：YTO）

遺跡の所在地

三養基郡上峰町大字堤字迎原

調査主体者

上峰町教育委員会

調査期間

平成２年６月～平成３年３月

調査面積

10,650㎡

遺跡の概要

図40　八藤遺跡周辺地形図(1：25,000)

八藤遺跡は、脊振山系から派生する標高22ｍ～36ｍの中位舌状丘陵上（八藤丘陵と仮称）に立地する、縄文時代から奈良時代にわたる集落を中心とした複合遺跡である。八藤丘陵は、西を切通川支流の大鳥居川、東を切通川支流の大谷川に開析され、南北に延びる丘陵となっている。本遺跡の周辺には、北方の山麓部および洪積世丘陵高位面に立地する古墳時代後期の小円墳からなる古墳群、西方の二塚山丘陵に立地する二塚山遺跡群、南東方の船石丘陵に立地する船石遺跡が所在しており、弥生時代を中心とした各時代の遺跡が濃密に分布している。また、本丘陵から西方へ派生する一支丘が古代に堤土塁として成形利用されている。

本年度の調査は、２地区（IV区：9,710㎡・V区：940㎡）について実施した。

IV区の調査では、縄文時代から奈良時代にわたる各期の遺構、遺物が検出された。

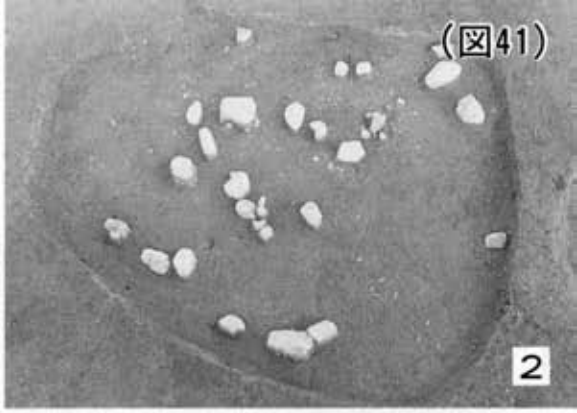
縄文時代の遺構としては、後期の土壙が多数検出されこれらに伴い、縄文式土器片とともに、多数の石器、剥片、チップ類が出土している。特に、石匙が各土壙から10点程度まとまって出土しているのが注目される。また、部分的に遺存している包含層は２ｍ×２ｍのグリッドから200点近いチップを出土した地区もあり、石器製作の場であったことがうかがえる。

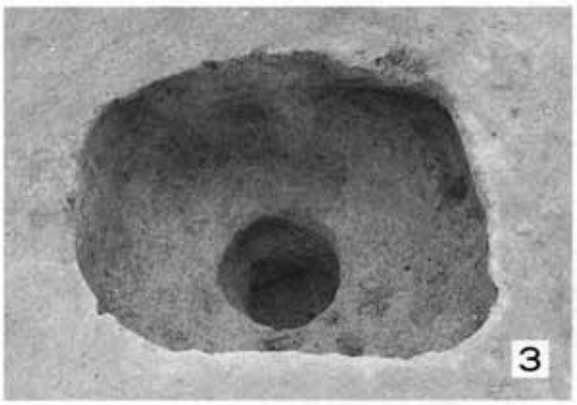
弥生時代の遺構としては、中期後半から後期初頭の竪穴式住居跡２軒、器台を伴う円形土壙１基等があり、これらに伴う土器が出土している。

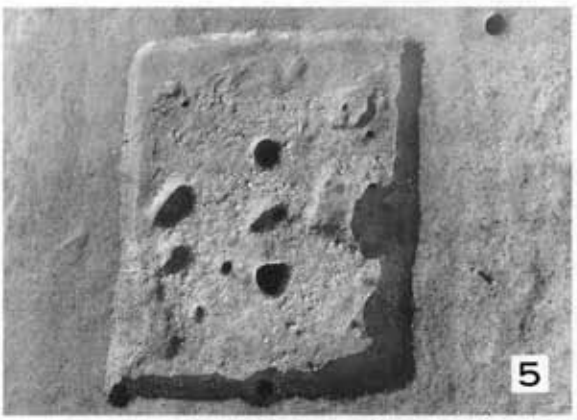
奈良時代の所産と考えられる遺構としては、堤土塁から約６ｍの間隔で並行連続して本丘陵を横断する２条の溝状遺構、掘立柱建物跡５棟、土壙等がある。これに伴い土師器片、須恵器片が出土しているが、焼土を含む土壙からはふいごの羽口も出土している。

V区の調査では、弥生時代中期の竪穴式住居跡１軒、奈良時代のものと思われる掘立柱建物跡２棟等が検出された。

今回の調査で、縄文時代後期の遺構・遺物がまとまって検出された。このことは、県東部の縄文集落のあり方を考える上で貴重な資料といえる。また、埋土塁に関連する時期の遺構が検出されたことも土塁の性格付の上で大きな一助となろう。







(1) 八藤遺跡IV区全景（北西から）
(2) 縄文時代土壙（西から）
(3) 縄文時代土壙（南から）
(4) 縄文時代遺物包含層調査風景
(5) 弥生時代竪穴住居跡（南から）
(6) 弥生時代円形土壙（北から）
(7) 奈良時代溝状遺構、土壙柱穴群（南東から）
(8) 奈良時代周溝を伴う掘立柱建物（南東から）

（8）堤六本谷遺跡（略号：TTR）

遺跡の所在地

三養基郡上峰町大字堤字六本谷

調査主体者

上峰町教育委員会

調査期間

平成2年6月～平成3年3月

調査面積

8,000㎡

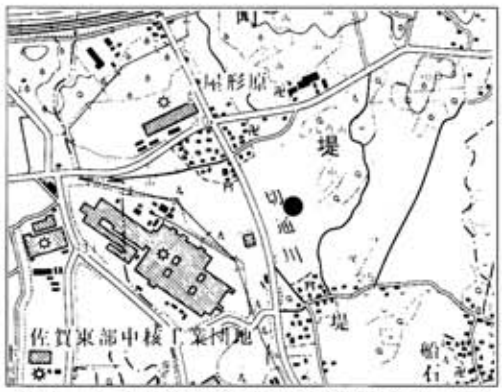


図42　堤六本谷遺跡周辺地形図(1：25,000)

遺跡の概要

本遺跡は、脊振山系から派生する青柳丘陵の低位面及び先端部（標高24m～30m）に位置する弥生時代から近世にかけての遺跡である。本丘陵北部の高位面を含む山麓部および洪積世丘陵高位面には古墳時代後期の小円墳からなる青柳、新立、谷渡、鎮西山南麓等の古墳群が形成されている。また、周辺には、西方に屋形原遺跡、二塚山遺跡群が、また東方に八藤遺跡、さらに東南方に船石遺跡群が所在しており、弥生時代を中心とした各時代の遺跡が濃密に分布している。一方、本遺跡から南方の堤土塁までの間の谷水田部分からは遺構は検出されず、堤土塁の性格を考えるうえで貴重な空間となっている。

調査は、面工事で削平される部分6地区について実施した。(右頁調査区位置図参照)

遺跡の最も西にあたるⅠ区（1,240㎡）では、弥生時代中期の土壙、奈良時代の掘立柱建物跡、土壙、その他ピットなどが検出された。Ⅱ区（710㎡）では、奈良時代の土壙ほか、近世の土壙、時期不明の掘立柱建物跡2棟等が検出された。Ⅲ・Ⅳ区（3,250㎡・510㎡）では調査区の低い部分からは近世の遺構が検出されたのに対して、一段高い部分からは、弥生時代後期の土壙、奈良時代の土壙等のほか、ピットが多数検出された。このピット群の中には、建物跡の柱穴も含まれているが、数が多いため正確な建物の棟数は不明である。遺跡の東斜面にあたるⅤ・Ⅵ区（1,420㎡・870㎡）では、奈良時代の土壙、溝等が検出され、中にはまとまった量の土師器、須恵器を出土した土壙もある。各調査区で検出された遺構にともない、弥生式土器、土師器、須恵器、近世陶磁器（18世紀後半～19世紀）などの遺跡が出土している。

今回の調査で、Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ区から奈良時代の遺構・遺物が検出され、堤土塁とその周辺の関連を知るうえで貴重な資料を得ることが出来た。また、Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区から近世の遺構・遺物が検出されたことは、近世にこの地にあったとされる「大鳥居」或いは「大土井」（ううどい）集落に比定できよう。

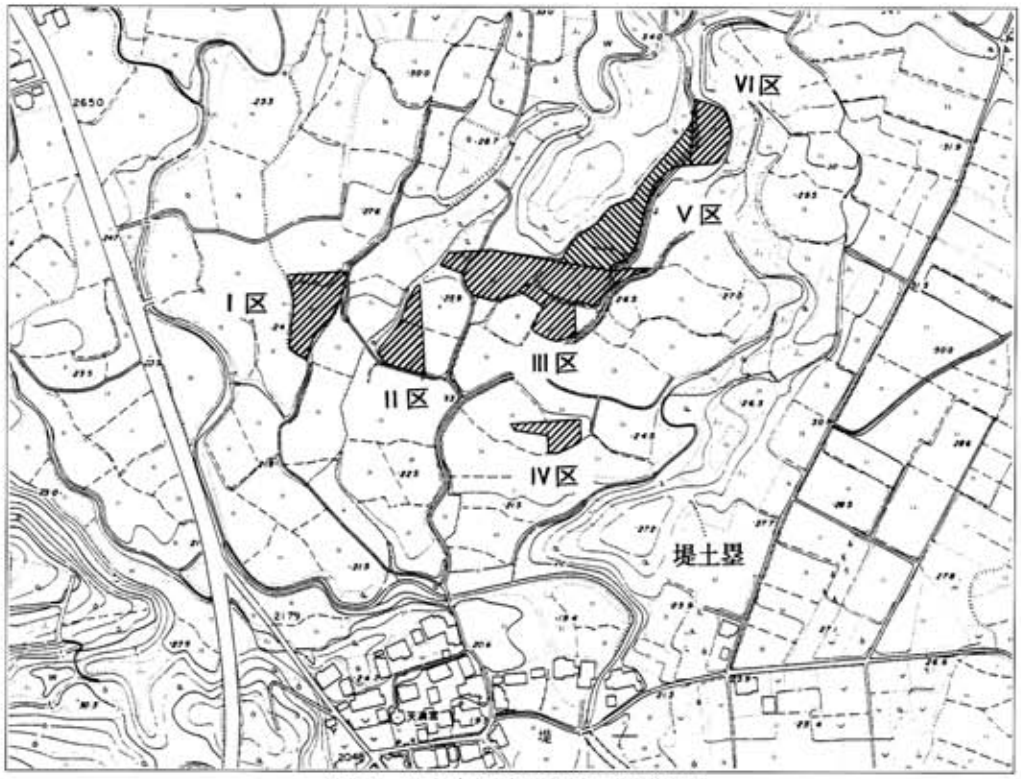
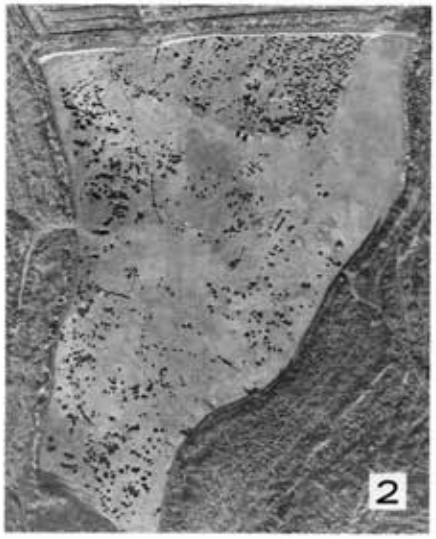


図43　堤六本谷遺跡調査区位置図



(1) 堤六本谷遺跡Ⅰ区全景
(2) Ⅱ区全景
(3) Ⅲ・Ⅴ区遺構集中部

（9）堤土塁（つつみどるい）（略号：TTM）

遺跡の所在地

三養基郡上峰町大字堤字迎原

調査主体者

上峰町教育委員会

調査期間

平成２年６月～平成３年１月

調査面積

3,350㎡

図45　堤土塁遺跡周辺地形図(1：25,000)

遺跡の概要

堤土塁は、脊振山系から派生する二塚山・八藤の両丘陵が最も接近した位置の谷部をせき止めるような形で構築された古代（正確な築造年代は不明）の土塁で、延長300ｍ、基部幅40ｍ、南側田面と土塁最高部の比高は９ｍを計る。現在、土塁中央を切通川が流れ、その部分約70ｍの間に土塁は見られず、東西の各々長さ約110ｍの分立した土塁（それぞれ東側、西側土塁と仮称する）として遺存しており、この間隙が本来のものか、流失したものかは不明である。

はやくから古代の遺構として知られていた西側土塁は、南斜面が宅地として開かれ、北側斜面が高さ約５ｍを遺存している。昭和53年に、生活道路の開設に伴い調査が行われ、基盤から上部がすべて版築工法で築かれた土塁と判明し、「小水城」として注目を集めた。当時、東側土塁は、自然の丘陵であるが西側土塁と何らかの関連があると認識されるにとどまっていた。

本年度の面工事で東側土塁部分も削平されることになり、試掘を行った結果、東側土塁が、自然の丘陵を形成し、その上に版築工法で約２ｍの土盛りを行った二段築成の構造物であることが判明した。ここは江戸時代中期から堤集落の墓地として利用されてきたため、個々の墓壙による破壊は受けているものの、後世の大規模な開発を受けず、土塁全体の形状は西側土塁より良好な状態で遺存している。

今回の調査は、東側土塁の東方、八藤丘陵の西側斜面、3,350㎡について実施した。その結果、縄文時代から奈良時代にわたる各期の遺構・遺物が検出された（縄文、弥生時代の遺構・遺物は、八藤遺跡の調査で検出されたものと一連のもので、八藤遺跡の項を参照されたい）。

奈良時代の遺構としては、堤土塁東端から連続して本丘陵を東へ横断する幅50cm弱の溝２条が約６ｍの間隔で並行し、それぞれ間隔は不定であるが底にピットをもつ、柵列の布基礎かとも思われる溝状遺構、掘立柱建物跡１棟等がある。これに伴い土師器片、須恵器片が出土している。

今回の調査で検出された縄文時代、弥生時代の遺構・遺物は、八藤遺跡の遺構・遺物の範疇で考えられるべきであろう。また、堤土塁に関連すると思われる奈良時代の遺構は、八藤遺跡で検出されたものも含めて、堤土塁の性格解明に欠かせない貴重な資料と言える。

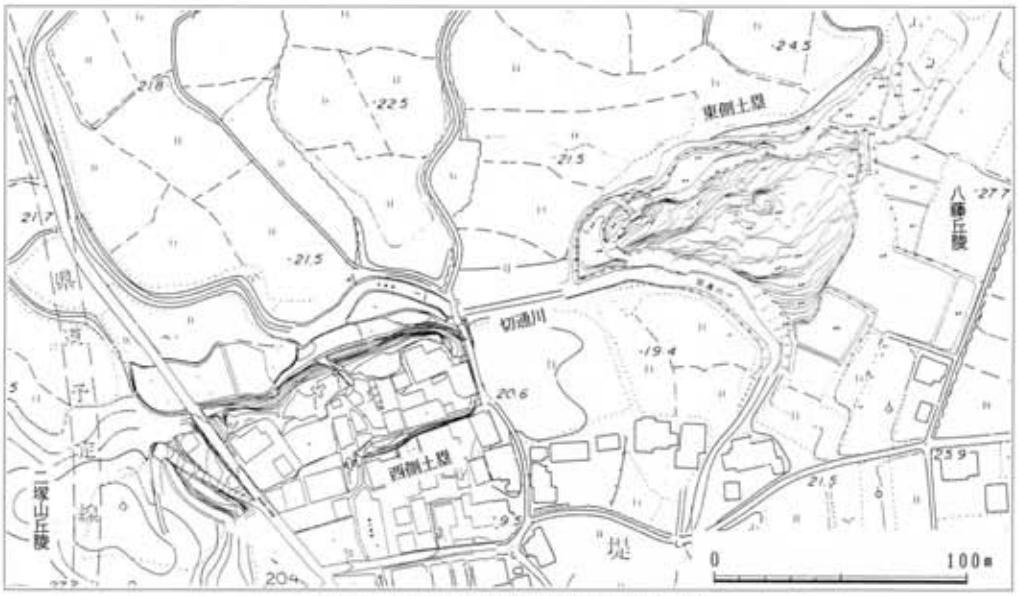


図46　堤土塁地形測量図（1/3,000）

(1) 堤土塁と溝状遺構（東北東から）
(2) 堤土塁調査区全景（東から）
(3) 溝状遺構北側溝（東北東から）

(10) 上石動遺跡（略号：KIN）

遺跡の所在地

神埼郡東脊振村大字石動字四本杉、五本杉

一本松

調査主体者

東脊振村教育委員会

調査期間

平成２年５月～平成３年３月

調査面積

8,000㎡

図48　上石動遺跡周辺地形図(1：25,000)

遺跡の概要

東脊振村は佐賀県の東部に位置し、村の南部は脊振山系の南麓で、南北に高・中位段丘が細長く広がる丘陵地帯である。上石動遺跡はこれらの段丘の中の二塚山段丘・目達原段丘が脊振山系に結び付いた南麓のゆるやかな傾斜地上で、田手川の東岸に広がる標高約50ｍに立地する遺跡である。遺跡の周辺には青銅器や鉄器を多く出土した弥生時代の三津永田遺跡・二塚山遺跡群・吉野ヶ里遺跡群や、古代から近世にかけての山岳仏教遺跡である霊仙寺跡などがあり遺跡の密度が高い地域である。

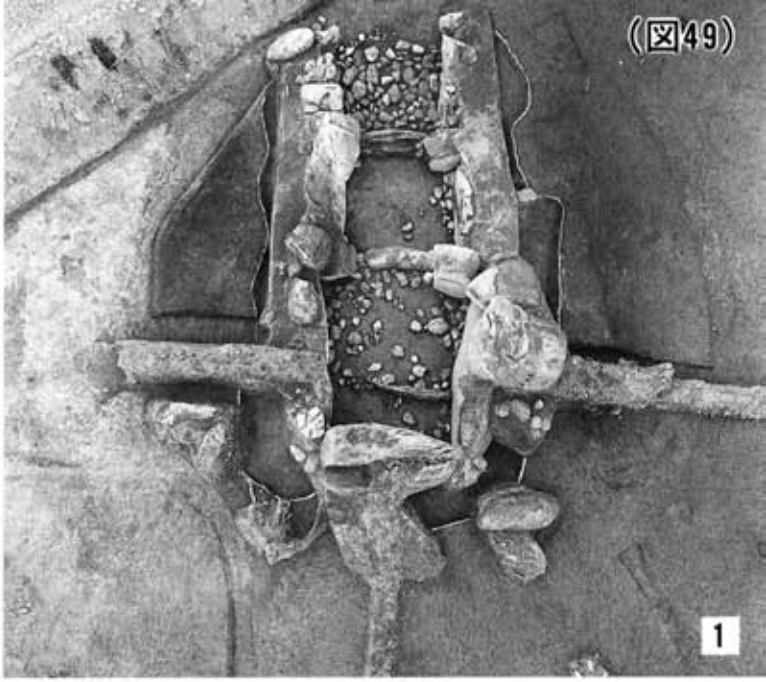
上石動遺跡の調査地区一帯は現況の水田に古墳の痕跡と考えられるものが存在しており、また、隣接する他の遺跡からは古墳や古墳時代の竪穴住居跡がかなりの数確認されている。

今回の調査では縄文時代のものとして小範囲の遺物包含層の他、土壙が確認された。古墳時代のものとしては横穴式石室を内部主体とした古墳２基が確認され、さらに鎌倉時代から室町時代にかけては、土壙墓１基・掘立柱建物跡１棟・穴多数が確認された。特に、柱穴とみられる小穴群は今後の検討から掘立柱建物跡の増加が見込まれる。又、調査地区全域に中近世以降と見られる潅漑用水路と見られる溝跡を多数確認した。

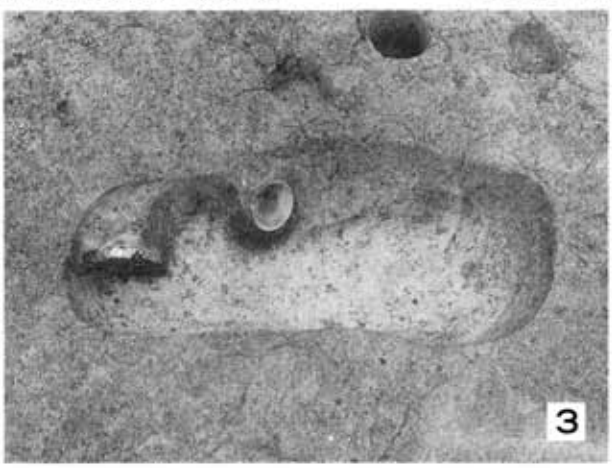
出土遺物としては、縄文時代晩期土器・黒曜石・サヌカイト・土師器・須恵器・磁器など多種多様であった。縄文土器や石器は遺物包含層や土壙から出土している。古墳の石室からは耳環・土師器・須恵器・鉄器片多数の出土があった。

上石動遺跡調査地区は、検出遺構から縄文時代晩期の墓地と生活跡、古墳時代の墓地、中世の墓地・集落跡の大きく分けて３つの時期の活動痕跡があった。周辺地区の状況からみて古墳時代の集落跡や中世の集落跡は散発的な分布で余り大きくなく、古墳群はかなり広がりがあるようである。各々の時期の間に空白期間はあるが、田手川東岸の石動地区の開発史とともに目達原段丘の遺跡とのつながりを考える上で興味深い。

(図49)



(1) 上石動遺跡横穴式石室（上から）
(2) 横穴式石室（南から）
(3) 土壙墓（南から）
(4) 掘立柱建物跡（東から）



(11) 井手遺跡（略号：IDE）

遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字尾崎字井手

調査主体者

神埼町教育委員会

調査期間

平成２年５月～平成２年８月

調査面積

250㎡

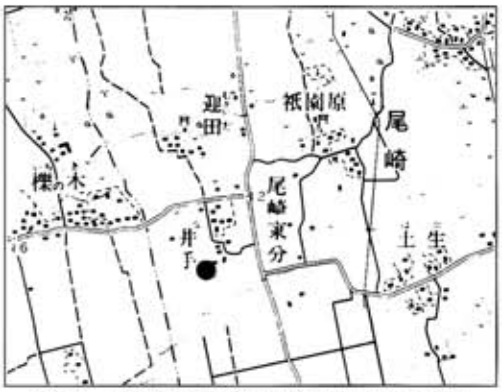


図50　井手遺跡周辺地形図(1：25,000)

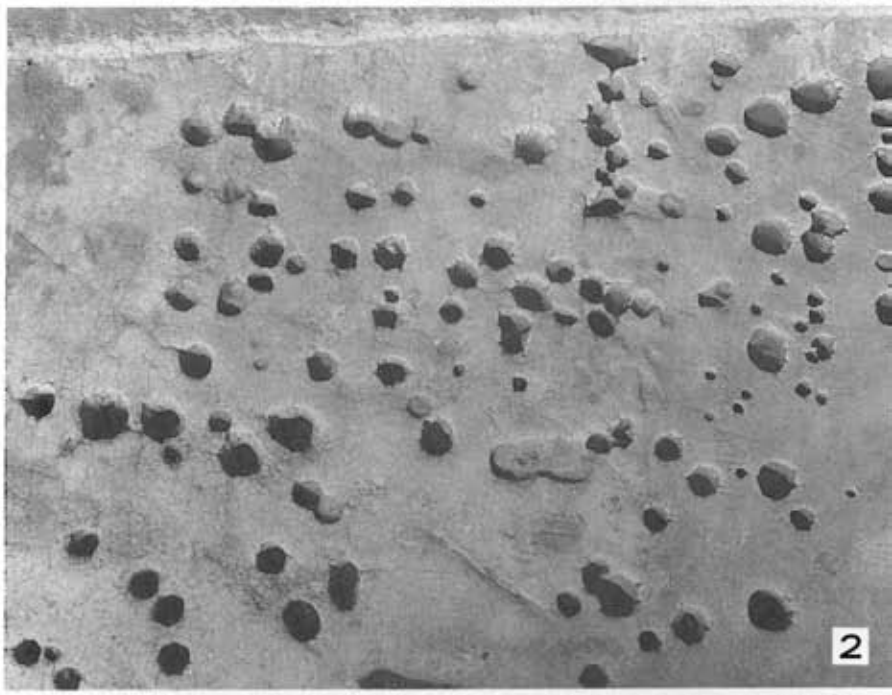
遺跡の概要

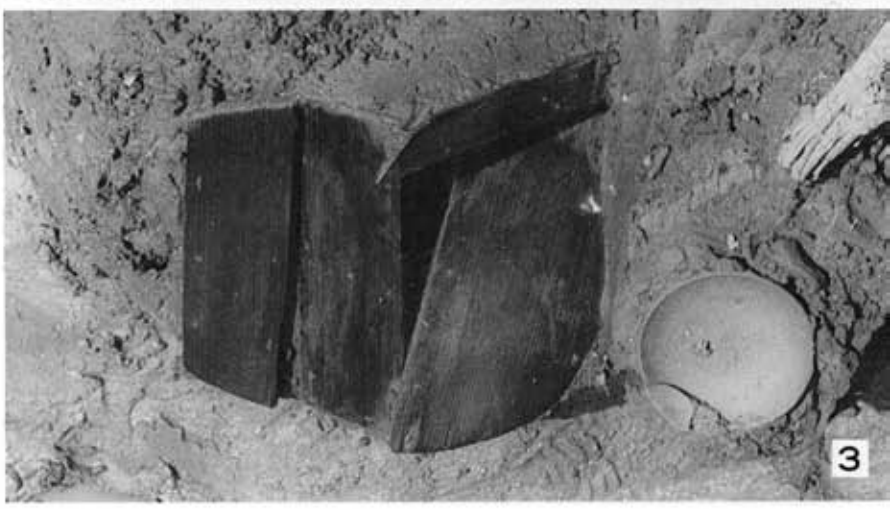
井手遺跡は、町北西部の扇状地上に位置し、標高10ｍを測る。調査は、圃場整備事業により掘削される水路部分を対象とした。その結果、弥生時代の溝跡１条・中世の掘立柱建物跡は３棟以上・溝跡２条・包含層などを検出した。

弥生時代の溝跡は、調査区南端に位置し、南北方向に伸びる。中世の掘立柱建物跡は調査区北部に集中して検出し、全て建物の全容は不明である。その中で、建物群の東端部に南北方向に５間以上の柱列を確認した。また、建物群の南端部には東西方向の溝跡を検出しており、これらの遺構の外部には建物跡は認められていない。このことより、東西方向の溝跡及び南北方向に走る柱列によって区画された建物跡の存在が想定される。今回確認した遺構は、遺跡の東端部と考えられ、建物跡の中心部は調査区北部及び西部に広がりを持つものと思われる。

遺物としては、溝跡より14～15世紀の土師器杯・鉢が、東端部の自然の谷状の落込み部分の包含層より土師器杯・漆器椀・木製品などが多数出土した。

本遺跡の所在する地区には、これまで遺跡の存在は確認されておらず、中世の区画施設を持つ建物群は集落の形成とその構造を知る上で重要な資料となる。





(1) 井手遺跡調査区全景
(2) 掘立柱建物跡全景
(3) 木製品出土状況

(12) 迎田(むかえだ)遺跡Ⅰ・Ⅱ区（略号：MKD)

遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字尾崎字迎田

調査主体者

神埼町教育委員会

調査期間

平成２年７月～平成３年２月

調査面積

3,750㎡

図52　迎田遺跡Ⅰ・Ⅱ区周辺地形図(1：25,000)

遺跡の概要

遺跡は、神埼町北西部の標高13～14ｍを計る微高地上に位置しており、本遺跡が位置する一帯は現在迎田・井手集落が形成されている。

調査は、圃場整備工事により掘削・削平される部分にあたり、調査前は畑地として利用されていた。調査の結果、弥生時代～鎌倉時代にかけての竪穴住居跡・土壙・円形周溝状遺構・甕棺墓・土壙・掘立柱建物跡・柵列・井戸跡１基・溝跡・包含層などを検出した。

弥生時代の遺構としては、竪穴住居跡９軒・土壙10基・甕棺墓１基・溝跡などがある。竪穴住居跡は、平面長方形で２本柱である。２軒より炭化材が認められた。甕棺墓は、Ⅱ区の中央部より検出し、小型の単棺で後期前半頃に位置付けられる。甕棺墓の主体部は調査区外にあるものと考えられ南部の畑部分に拡がりを持つものと考えられる。溝跡は、Ⅱ区中央部に位置し南北に伸びており、一部西側に張り出しが認められる。内部にあたる地区に竪穴住居跡が分布し、外側にあたる地区に甕棺墓が位置するものと考えられる。張り出し内部には建物跡等の遺構は認められなかった。

掘立柱建物跡は、２間×３間・１間×２間・１間×１間が認められる。すべて張り出しを持つ溝跡の西側に位置している。２間×３間の建物跡は平安時代に位置付けられるが、その他の建物跡の時期は明確にはできない。井戸跡は、平面円形の素掘りで土師器椀・杯・甕などが出土し、平安時代に位置付けられる。掘立柱建物跡及び井戸跡の西に南北方向の柵列を確認しており、建物跡の一部及び井戸跡と一連の遺構の可能性がうかがえる。鎌倉時代の遺構としては、溝跡１条がある。その形状より流路と考えられる。

以上のように、本遺跡は弥生時代後期前半頃の張出しを持つ溝跡が存在し、居住空間と埋葬空間が区分されているようであり、この時期の集落構造を知る上で重要な資料となる。また、柵列によって区画されるような掘立柱建物跡などが存在しており、今後、各遺構の明確な時期決定を行い全体の構造を明確にする必要がある。

(1) 迎田遺跡Ⅰ区調査区全景
(2) 迎田遺跡Ⅱ区調査区全景
(3) Ⅰ区竪穴住居跡検出状況（東から）

(13) 迎田(むかえだ)遺跡III・IV区 (略号：MKD)

遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字尾崎字迎田

調査主体者

神埼町教育委員会

調査期間

平成２年７月～平成３年２月

調査面積

1,200㎡

図54　迎田遺跡III・IV区周辺地形図(1：25,000)

遺跡の概要

遺跡は迎田遺跡II・III区の北西部に位置し、標高15～16ｍを計る。調査区は、自然の谷及び微高地部分に掘削される水路部分を対象とし、近年注目されている古代官道の推定路線上に位置する。

調査以前より、IV区の調査区部分には幅約10～15ｍ程の道路状遺構が存在することが認められていた。調査の結果、東西方向に延びる道路跡と考えられる硬化面をIII区の水田部より検出した。南側に幅２～３ｍの土壙状の落込みを検出し、この部分が道路の側溝にあたるものと推定されるが、規模が大きく明確にできない。路面と思われる面は、砂層の硬化面が幅８～10ｍほど確認されるが、南側の土壙状落ち込みは南にも広がっている。このため、明確に路面と確定するには疑問が残る。IV区では、切通し状の道路跡推定部分を中心に南北方向に調査区を設定した。その結果、道路推定路線上には中世以降と考えられる溝跡が掘込まれており、道路部分と認定できる硬化面の存在は部分的に認められる状況であった。しかし、土層断面観察により、道路跡の側溝と考えられる溝が中世の堆積土より下層に部分的に確認することができ、推定路線上に道路状遺構の存在を認めることができる。

以上のように、今回の調査は官道推定路線上を対象としたが、馬郡地区で確認されたような明確な道路跡は確認することができなかった。しかし、官道推定路線状に道路状の遺構の存在は明確であり、今後道路跡の認定の大きな根拠である硬化面及び側溝の状況など道路の構築法の再検討の必要性がある。

(1) 迎田III区調査区全景
(2) 迎田IV区調査区全景
(3) 官道土層堆積状況

(14) 貴別当神社遺跡（略号：KBT）

遺跡の所在地

神埼郡千代田町大字下西字二本松

調査主体者

千代田町教育委員会

調査期間

平成２年４月～５月

調査面積

500㎡

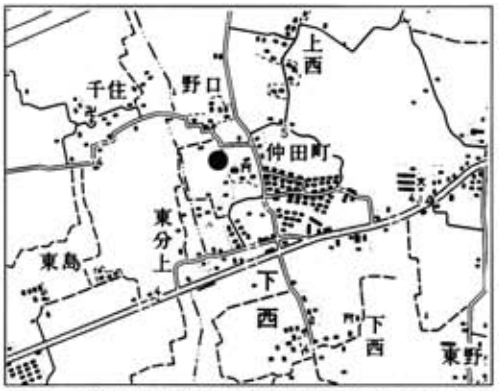


図56　貴別当神社遺跡周辺地形図(1：25,000)

遺跡の概要

貴別当神社遺跡は、千代田町の西部、佐賀市境の標高3～4ｍの沖積平野に位置する。この遺跡は、古くから貴別当神社弥生遺跡として周知されてきた遺跡で、支石墓の可能性を持つ石組み遺構の他、昨年度の調査で掘立柱建物跡、土壙・貯蔵穴、井戸跡等の弥生時代中期を中心とする各遺構が検出されている。遺跡の周辺には、南方に余江西二本松遺跡、西方に佐賀市千布遺跡、東方に川崎遺跡など弥生時代から中・近世にわたる各遺跡が分布する。調査は圃場整備事業により掘削、削平される水田、農道部分について行った。

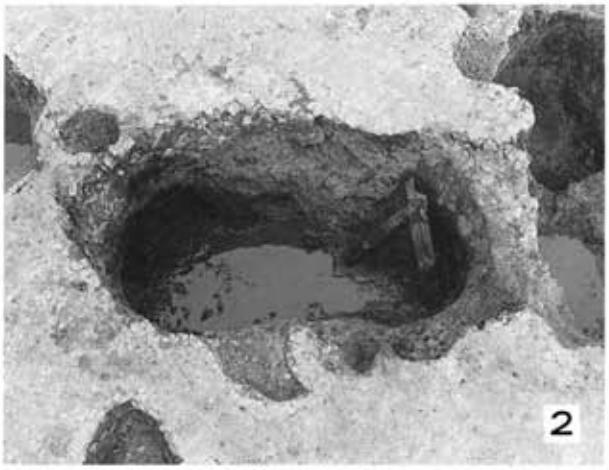
今年度貴別当神社遺跡Ⅱ区（便宜的に平成(注1)元年度調査区をⅠ区とし、平成２年度調査区をⅡ区とした）から検出した遺構は、土壙・貯蔵穴26基、井戸跡４基、その他不明遺構１基、並びに大小柱穴多数である。

出土遺物は、縄文時代晩期の土器（甕、壺、高杯等）、弥生時代前～後期の土器（甕、壺、鉢、高杯、器台、蓋、支脚等）、石器（砥石、凹石、磨石、石鏃等）、木製品（梯子）、土製品など多くの遺物が出土した。

以上のように、貴別当神社遺跡の調査により多量の資料を収集することができた。特に、今回の調査で、佐賀平野最南端部の縄文時代晩期の遺構の検出、また弥生時代中期の貯蔵穴より出土した２本の梯子は、その当時の使用状況がよく分かる好資料である。このような資料と共に、この地域は有明海をルートとする文化の帰着地であり、詫田西分貝塚、姉遺跡と並ぶ弥生時代の海岸線付近の一大集落として栄えた地方であり、その調査結果に基づき他遺跡との関連を含め今後有明海沿岸の弥生時代集落研究をはじめ地域解明を行いたい。

注１

堤　安信　「貴別当神社遺跡Ⅰ」　千代田町文化財調査報告書第13集　千代田町教育委員会　1991年



(1) 貴別当神社遺跡II区全景（南から）
(2) SK019貯蔵穴
(3) SK019貯蔵穴梯子出土状況
(4) SE012井戸跡
(5) SE030井戸跡

《佐賀市西部地区における調査》

(15) 篠木野(しのぎの)遺跡（略号：SGN）

遺跡の所在地

佐賀市久保泉町大字上和泉字篠木野

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成２年９月～10月

調査面積

527㎡

図58　篠木野遺跡周辺地形図(1：25,000)

遺跡の概要

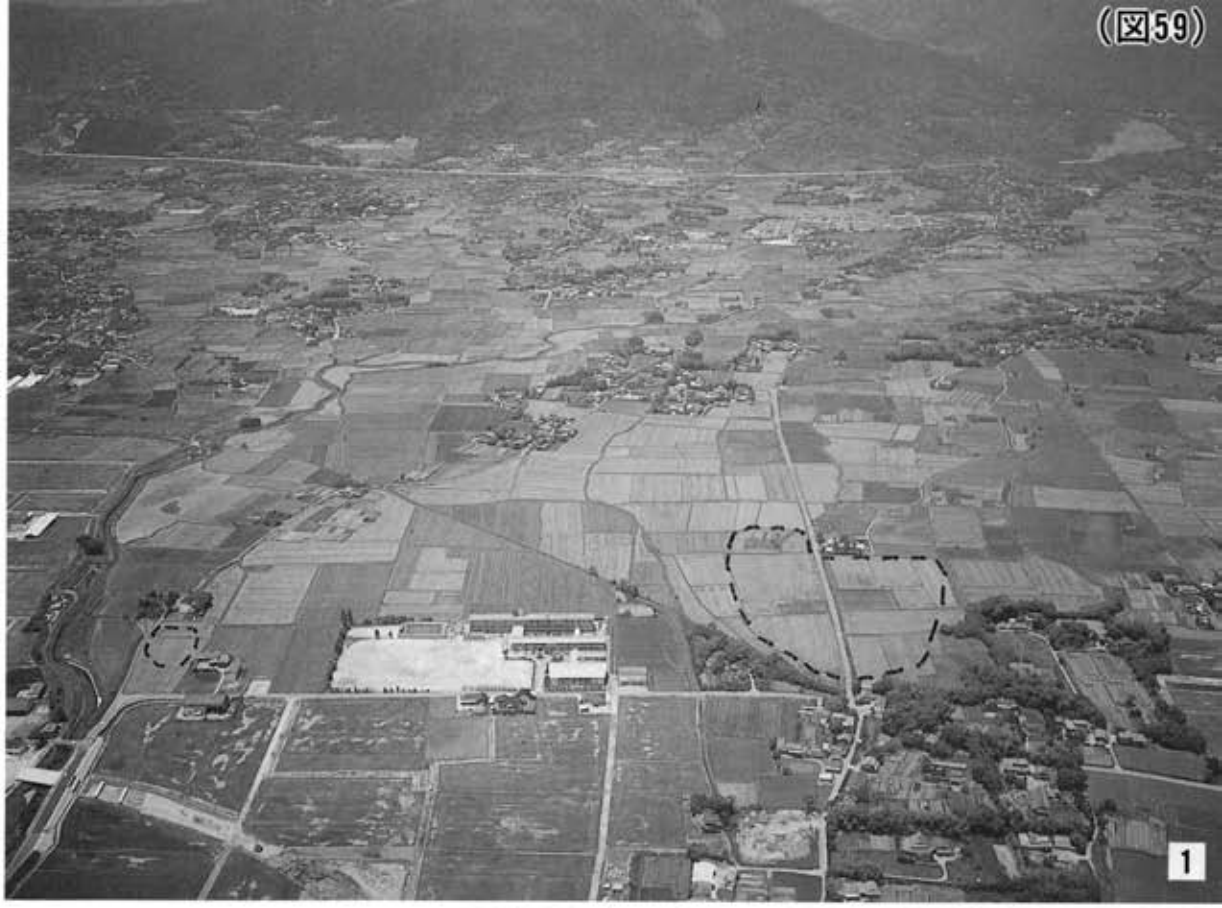
篠木野遺跡は、佐賀市の北東部の巨勢川東岸に位置し、標高7.5ｍ前後を測る。

周辺には、村徳永遺跡・徳永遺跡・草場遺跡など、弥生時代から中世にかけての遺跡が濃密に分布している。

今回の調査地点では、江戸時代の溝・土壙・井戸などが検出された。出土遺物には、土師器・瓦器・陶磁器がある。

調査面積が狭く、遺跡の概要はつかみがたいが、江戸時代の集落の一部にあたるものと考えられる。

(図59)



(1) 左が篠木野遺跡
　　右が村徳永遺跡K地点（南から）
(2) 篠木野遺跡（北から）
(3) SE108井戸跡

(16) 原ノ町遺跡（略号：HAM）

遺跡の所在地

佐賀市久保泉町大字上和泉字原ノ町

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成２年７月～10月

調査面積

2,957㎡

図60　原ノ町遺跡周辺地形図（1：25,000）

遺跡の概要

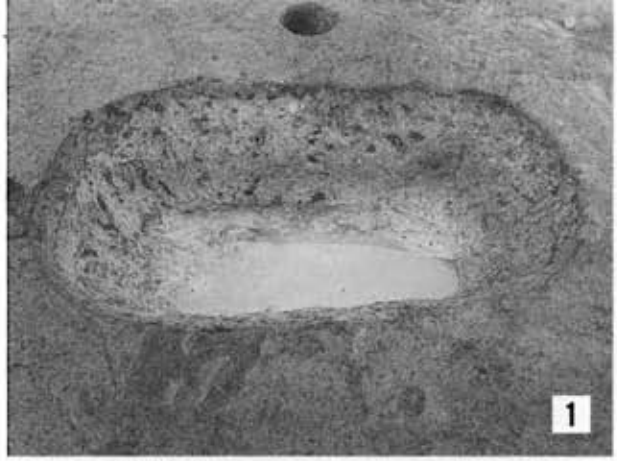
原ノ町遺跡は、佐賀市の北東脊振山系南麓に延びる丘陵地に位置する。遺構検出面の標高は約17,2～18,0ｍを測る。周辺には大日遺跡、琵琶原遺跡、東高田遺跡、櫟木遺跡等、弥生終末～奈良時代にかけての集落跡を中心とした遺跡群が存在する。今回の調査では、弥生時代の土壙５基、古墳時代～奈良時代にかけての竪穴住居１軒、掘立柱建物７棟、柵列２条、土壙２基、溝２条、中世の大型土壙８基等を検出した。以下各時代ごとに遺構の特徴を述べていく。

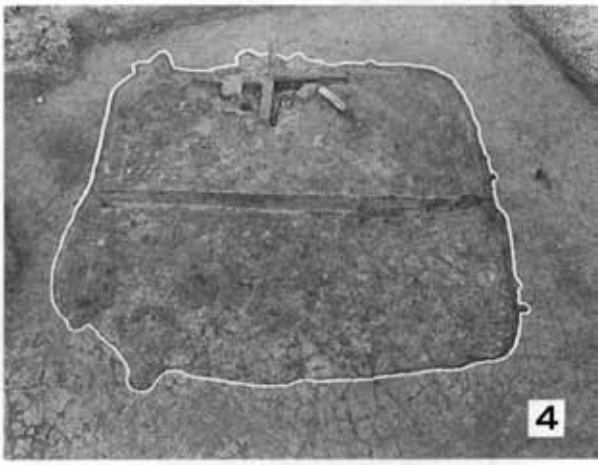
弥生時代　　弥生時代前期の貯蔵穴と考えられる土壙５基を検出した。いずれも長軸２ｍ程度の隅丸長方形を呈する。出土遺物としては、弥生土器の甕、壺、鉢、また砥石、石斧等がある。

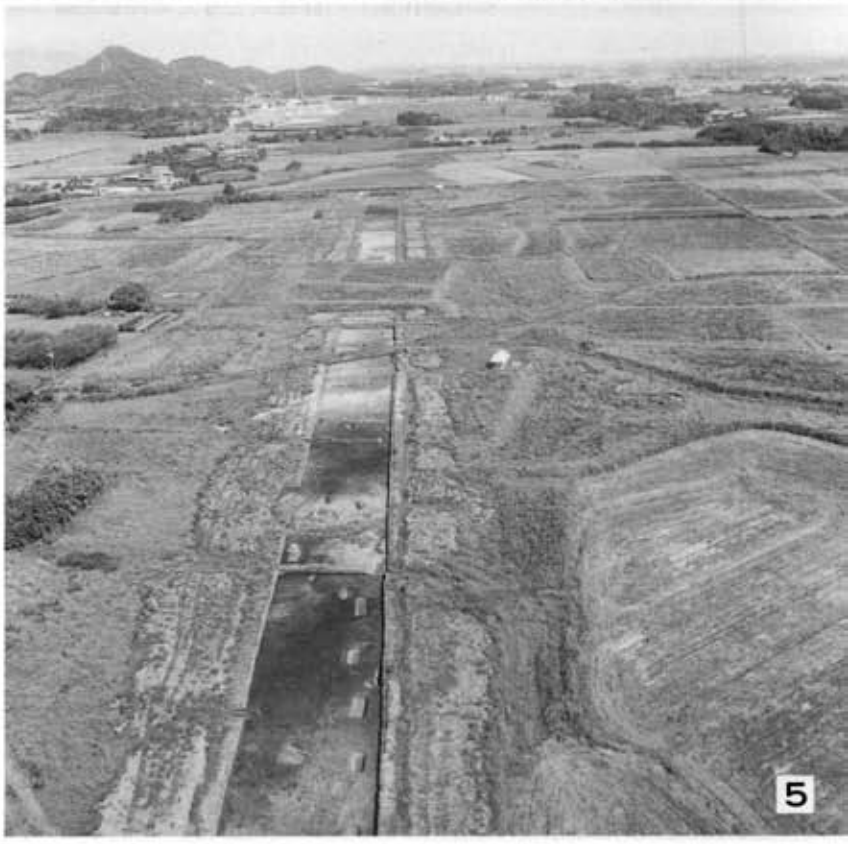
古墳・奈良時代　　竪穴住居は一辺４ｍ弱の方形プランを呈し、４本主柱で北壁の中央部につくり付けのカマドを有する。掘立柱建物は２×２間、２×３間が中心。この中でもSB124掘立柱建物は１番大きなもので、４×２間の規模を有し西側に廂を設ける。またSK110土壙は焼土壙で、底面及び壁面全体に焼き締められた部分を検出した。出土遺物としては、土師器、須恵器の杯、皿、甕、鉢、竈等がある。

中世　　長軸3～4ｍ前後の土壙を８基検出している。すべて主軸を東西方向に向け、興味深いことに１列に並んだような状態で検出した。この種の土壙は佐賀市内では泉三本栗遺跡、大日遺跡、立野遺跡で確認されているが、いずれもほとんど遺物が出土せず、その性格は明らかでない。出土遺物としては青磁碗、瓦器碗、土師器等がある。

以上のように、原ノ町遺跡は弥生時代～中世にかけての複合遺跡であることが明らかになった。特に注目したいのは古墳・奈良時代の集落跡で、調査区の南約200ｍのところに古代官道の推定ラインがあることから、なんらかの関連があった可能性が高い。







(1) 原ノ町遺跡SK101土壙（南から）
(2) SK110土壙（北西から）
(3) SK121掘立柱建物跡（東から）
(4) SH130竪穴住居跡（南から）
(5) 調査区全景（西から）

(17) 村徳永(むらとくなが)遺跡K地区（略号：MTN-K）

遺跡の所在地

佐賀市久保泉町大字上和泉字徳永

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成２年７月～12月

調査面積

4,439㎡

図62　村徳永遺跡K地区周辺地形図（1：25,000）

遺跡の概要

村徳永遺跡は、佐賀市東北部の巨勢川東岸に位置する。K地区は、微高地上のやや高い部分に立地し、標高8.0～9.0ｍを測る。試掘及び発掘調査のデータから、E・F・G・H・J・K地区とは埋没谷によって分断されていることがわかった。K地区は、Ｋ１～Ｋ４区の４ヶ所の調査地点に別れるが、南側のＫ１区と北側のＫ２・Ｋ３・Ｋ４区は狭い埋没谷によって分断されている。

周辺には、篠木野遺跡・徳永遺跡・草場遺跡など、弥生時代から中世にかけての遺跡が濃密に分布している。

どの調査地点も、縄文時代晩期から中世にかけての集落遺跡であるが、弥生時代後期前半～中頃が主体である。

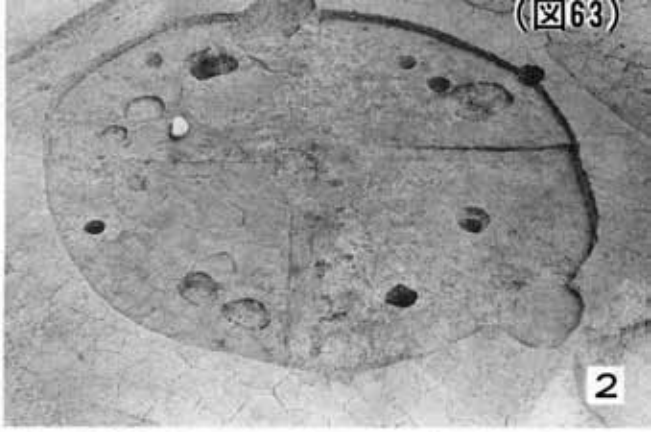
縄文時代の遺構として確認されたのはＫ１区の土壙だけであるが、全体で刻目突帯文土器がまとまって出土している。

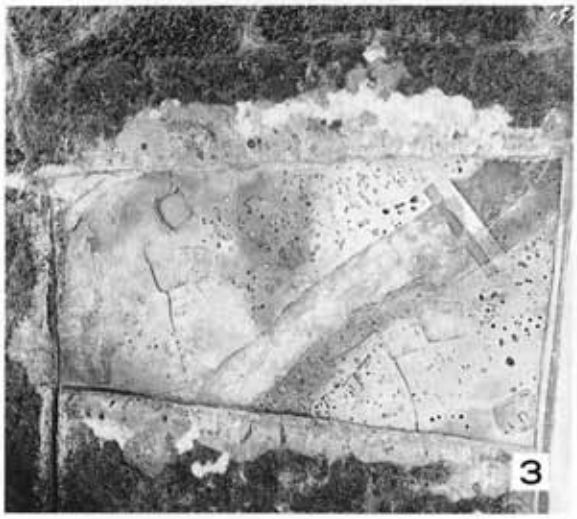
弥生時代の主な検出遺構は、竪穴住居・掘立柱建物・井戸・土壙・溝である。特に竪穴住居は全体で42軒が検出され、Ｋ４区では激しく切合った状態で20軒が確認された。Ｋ１区の８本柱円形竪穴住居は縄文時代晩期にさかのぼる可能性がある。特筆すべき出土遺物としては、Ｋ１区で石剣の切先が竪穴住居の床面で出土した。

古代の検出遺構としては、Ｋ１区で奈良時代から平安時代にかけて埋没した流水路が検出された。出土遺物には、土師器・須恵器・黒色土器がある。

中世の検出遺構は、Ｋ１区とＫ４区で室町時代の溝・堀・土壙・井戸が検出されている。特にＫ１区では、幅3.2ｍ・深さ2.2ｍの堀と、その側に土壙・井戸が検出されている。出土遺物には、土師器・瓦器・陶磁器がある。

今回の調査地点は村徳永遺跡の北東部にあたり、この遺跡の弥生時代集落が北方にも大きく広がっていることがわかった。佐賀平野における後期の拠点集落を考える上で重要な資料である。





(1) 村徳永遺跡KⅠ区東側
(2) KⅠ区円形竪穴住居跡
(3) KⅠ区西側
(4) KⅡ区土器溜
(5) KⅡ区方形竪穴住居跡
(6) 作業風景

(18) 東高田(ひがしたかだ)遺跡（略号：HTD)

遺跡の所在地

佐賀市久保泉町大字上和泉字東高田

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成２年10月～平成３年３月

調査面積

7,146㎡

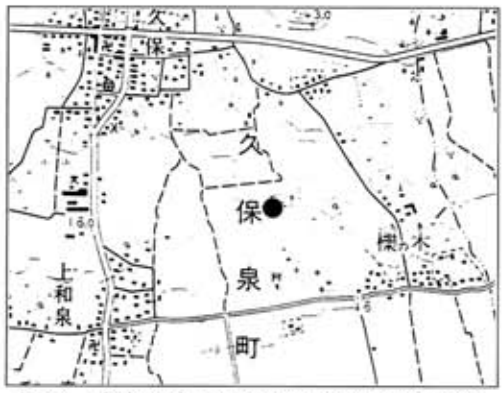


図64　東高田遺跡周辺地形図（1：25,000）

遺跡の概要

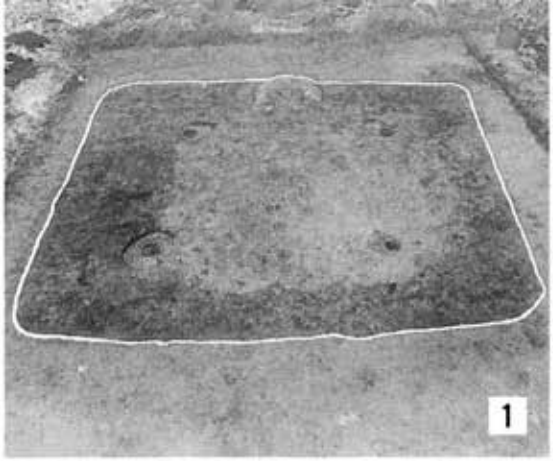
東高田遺跡は神埼町との市町境に近く、佐賀市の北東部に位置する。脊振山系から南に延びる丘陵地上にあり、遺構検出面の標高は約16～20ｍを測る。

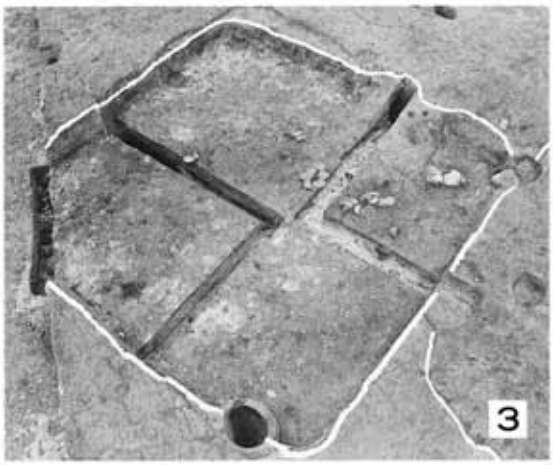
今回の調査では、便宜上、３つに調査区を分割し調査を行なった。調査の結果、古墳時代～奈良時代にかけての多数の竪穴住居と掘立柱建物等を検出し、この地に大規模な集落が存在していたことが明らかになった。以下、各地区ごとに遺跡の特徴を述べていく。

１区　　古墳時代の竪穴住居１軒、掘立柱建物１棟、土壙４基、溝５条、奈良時代の掘立柱建物12棟、土壙３基、中世の大型土壙３基等を検出した。竪穴住居は一辺５ｍ前後の方形プランを呈し、４本主柱で北壁の中央部につくり付けのカマドを有する。掘立柱建物は２×３間が中心で、主軸を北に向け、東西に並んだような状態で検出した。調査区の南約200ｍのところには古代官道の推定ラインがあり、これらの建物となんらかの関連があったことは間違いないようである。

２区　　古墳時代の竪穴住居17軒、掘立柱建物16棟、柵列１条、土壙10基、溝３条、不明遺構２基、奈良時代の竪穴住居１軒、土壙２基、不明遺構１基等を検出した。竪穴住居はほとんどが方形プランを呈し４本主柱で、つくり付けのカマドを有するものであった。特に奈良時代のものは床面までの高さが約60㎝を測る遺存状態の良好なものであった。掘立柱建物は１×１間、２×２間が中心で小型のものが多い。SX248不明遺構はちょうど古代官道の推定ライン上にあたるが、調査区の狭小さに加えて、ほとんどが攪乱によって削られていることからその存在を明らかにすることができなかった。しかし、土層断面によって側溝と考えられる溝が観察でき、この部分が官道である可能性は高い。

３区　　古墳時代の竪穴住居33軒、掘立柱建物11棟、その他古代の井戸、土壙、溝等を検出している。竪穴住居はほとんどが方形プランを呈し、４本主柱でつくり付けのカマドを有する。掘立柱建物は、１×１間、２×２間の総柱、３×２間で、ほとんど遺物が出土していないため、一部に奈良時代のものを含む可能性がある。





(1) 東高田遺跡Ⅰ区竪穴住居跡
(2) Ⅰ区SB109、SB111、SB112掘立柱建物跡
(3) Ⅲ区SH353竪穴住居跡
(4) Ⅱ区SH242、SH261、SH265、SH266
竪穴住居跡
(5) Ⅰ区全景

(19) 櫟の木遺跡（略号：ICK）

遺跡の所在地

佐賀市久保泉町大字上和泉字櫟の木

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成3年1月～2月

調査面積

575㎡

図66　櫟木遺跡周辺地形図（1：25,000）

遺跡の概要

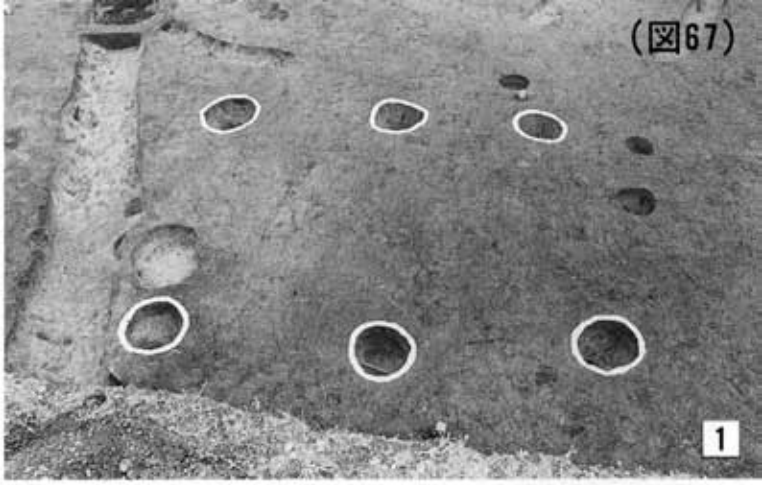
櫟の木遺跡は神埼町との市町境に近く、佐賀市の北東部に位置する。脊振山系から南に延びる丘陵地上にあり、遺構検出面の標高は15m前後ある。

今回の調査では古墳時代～中世にかけての掘立柱建物、井戸、土壙、溝等を検出した。

掘立柱建物（SB105）は1棟で古墳時代の所産と考えられる。2×1間の建物で、桁行2.4m、梁行2.0～2.2mの規模を有する。柱穴掘方は円形に近く、径0.4m、深さ0.4m前後である。

井戸（SE101）は1基確認した。平面形は円形に近く、径0.7m、深さ0.6mを測る。平安時代前半の所産と考えられ、土師器の杯、皿、碗、竈、黒色土器等が出土した。

調査区が狭小であり、さらに遺物もSE101から出土したものがほとんどであったことから、遺跡の性格を的確に把握することはできなかった。ただ少なくとも、古墳時代～中世にかけての集落の一部であったことは間違いないようである。



(1) 櫟木遺跡
SB105掘立柱建物跡（西から）
(2) SX103不明遺構（東から）
(3) SX104不明遺構（東から）
(4) 調査区全景（南から）

(20) 南宿遺跡4区（略号：NSK-4）

遺跡の所在地

佐賀市久保泉町大字下和泉字永屋、池副

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成2年10月3日～10月29日

調査面積

451㎡

図68　南宿遺跡周辺地形図（1：25,000）

遺跡の概要

南宿遺跡は、佐賀市域の北東部に位置する。周辺は南に向かって広がる水田地帯である。この中に高畑が点在しており、今回調査を行なった南宿遺跡4区はこのような高畑に存在していた。遺構検出面は標高約5ｍである。なお、今回の調査区は平成元年度の南宿遺跡調査区の南約50ｍの地点である。

南宿遺跡の周辺においては、周知の遺跡が密集しているものの、周辺での調査例は平成元年度に実施された南宿遺跡の調査（弥生中期～後期の集落の調査）や本村遺跡の調査（古墳時代前期の集落、中世居館の調査）などがあるだけで、総じて発掘調査例は非常に少なく、当地区における遺跡の概要は未だ不明な部分が多い。

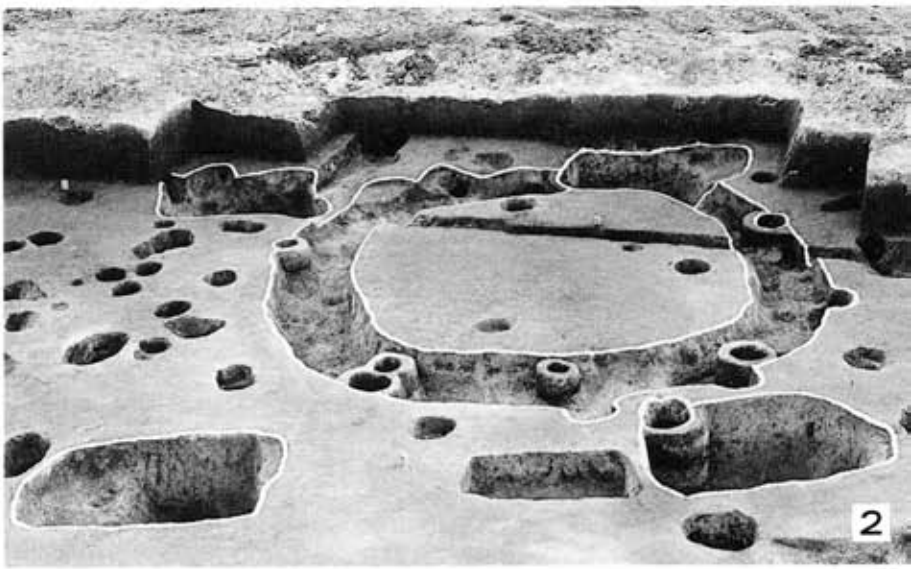
今回の調査においては、弥生時代、古墳時代、平安～中世にかけての遺構・遺物を検出した。以下、時代別にその概要を簡単に述べる。

弥生時代の主要な遺構としては、掘立柱建物2棟、土壙6基、円形周溝状遺構1基、井戸1基などがある。時代は中期～後期にかけてのものである。掘立柱建物は2棟ともに弥生時代後期の所産で1間×1間の規格であり、その内SB417は、梁行3.3ｍ、桁行4.7ｍを測る比較的大型のものである。柱穴掘り方は平面形が長辺1.5ｍ、短辺1.0ｍの隅丸長方形を呈し、内部は段掘りが施されている。柱根は検出されなかったが、確認できた柱痕跡からは直径20㎝の円形柱が想定できた。周溝状遺構は中期後半の所産と考える。井戸からは焦げ跡をもつ板状木製品が手斧柄片などが出土している。

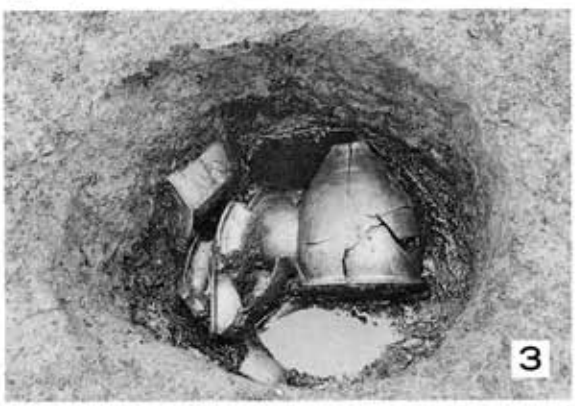
古墳時代の主な遺構は井戸が2基である。SE407底面からは木製錘（編錘？）が数個体出土している。

平安時代～中世にかけての主な遺構としては掘立柱建物2棟が挙げられる。完全に重復しており、立て替えの可能性が高い。

狭い調査区ながら、多時期にわたる遺跡の存在を明らかにできたが、特に建物を有する確実な弥生集落の存在が確認できたことは大きな成果であったと考える。



(1) 南宿遺跡4区全景（西から）
(2) SB417掘立柱建物跡
SR420周溝状遺構（北から）
(3) SE402井戸跡遺物出土状況（東から）
(4) SE407井戸跡遺物出土状況
(5) SA409、SA410柵列全景
SD405溝跡（北から）



(21) 北宿(ほくしゅく)遺跡Ⅰ区（略号：KSK-1)

遺跡の所在地

佐賀市久保泉町大字下和泉字北宿

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成２年９月25日～10月３日

調査面積

194㎡

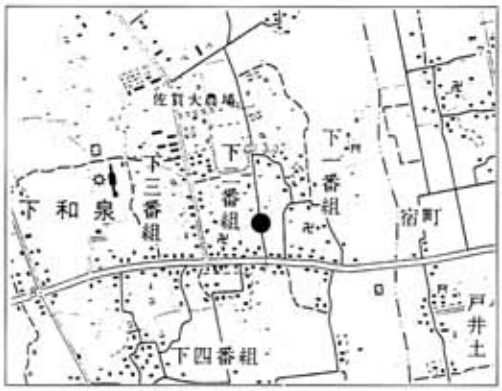


図70　北宿遺跡周辺地形図（1：25,000）

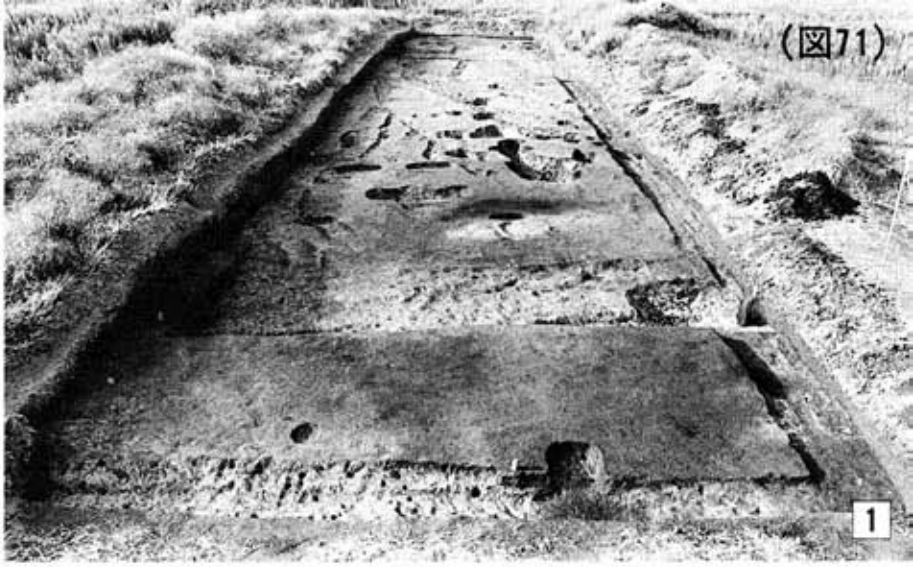
遺跡の概要

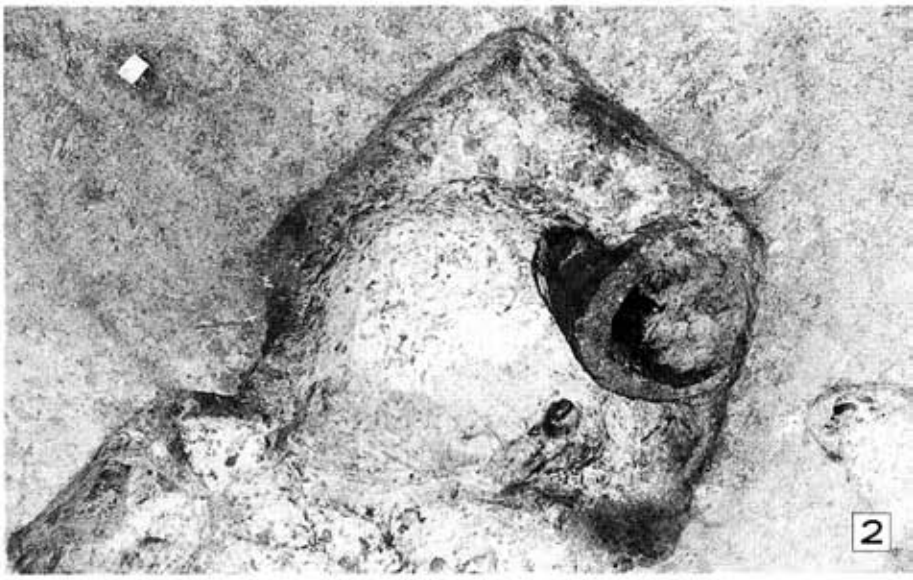
北宿遺跡は佐賀市域の北東部に位置している。調査区は南宿４区から北へ100ｍ程の地点にあり、周辺には水田地帯が広がり、その中に高畑が点在する状況は同じである。この調査区もまた高畑に存在し、遺構検出面は標高７ｍ前後であった。

調査により検出した主な遺構は、掘立柱建物２棟、井戸１基、溝状遺構数状である。調査面積の狭小さもさることながら、撹乱を受けている部分も多く、また、遺構からの出土遺物も格段に少なかったことから、遺跡の概要を的確に把握することはできなかった。

掘立柱建物は２棟ともに１間×２間であり、重複している。柱穴の切り合う部分もあるが、その切り合い関係を明らかにすることはできなかった。井戸は素掘りの井戸であり、土師器小皿を１点出土している。調査区内からはその他、鍋類の破片が若干出土している。遺構の時期を確定することはできなかったが、出土遺物の傾向から考えれば、中世末～近世にかけての遺跡と思われる。

(図71)





(1) 北宿遺跡調査区全景（南から）
(2) SE101井戸跡全景（南から）
(3) SB102掘立柱建物跡全景（南から）

(22) 久富(ひさどみ)遺跡1～3区（略号：HDM）

遺跡の所在地

佐賀市金立町大字千布字久富

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成2年7月13日～9月17日

調査面積

1,376㎡

図72　久富遺跡周辺地形図（1：25,000）

遺跡の概要

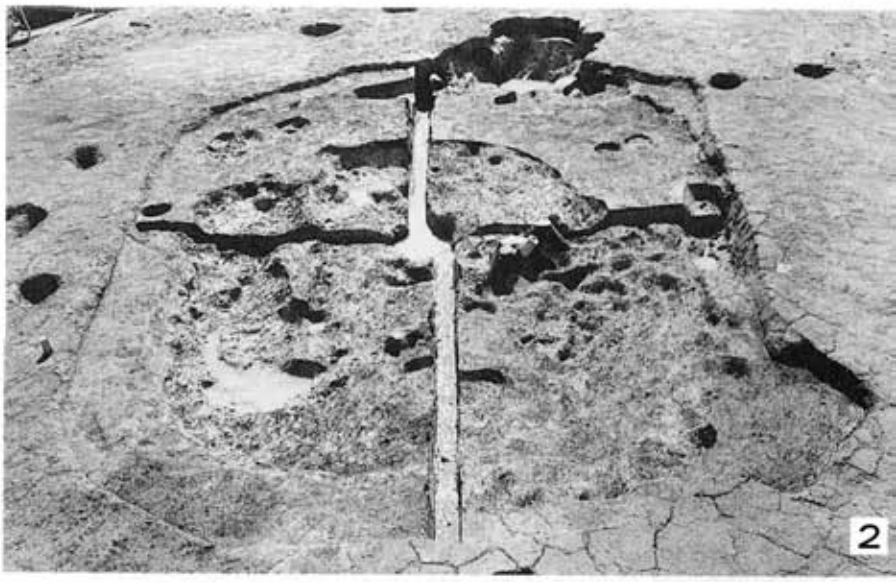
久富遺跡は巨勢川中流域の約500m西方に位置し、標高約8.4mの水田部に所在する。調査区の北隣には、県道小城北茂安線が東西に走る。

遺跡の周辺には、多くの遺跡が存在する。西方域には甕棺墓が群集する東千布遺跡や規模的には県内第2番目の前方後円墳である銚子塚があり、東方域には比較的大規模な弥生集落が形成された村徳永遺跡や、古代集落遺跡である古村遺跡などがある。

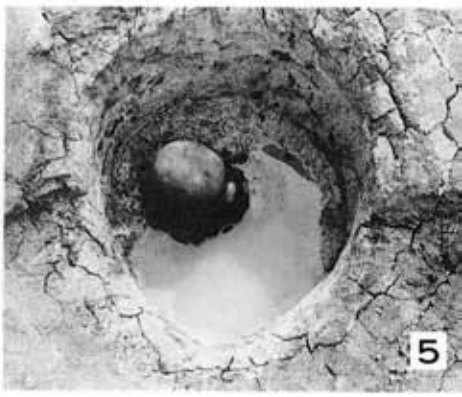
調査は1～3区に分割して行なった。1・3区において弥生時代～古墳時代の遺構・遺物が検出された。弥生時代の遺構は、竪穴住居・土壙・小穴等がある。竪穴住居は円形に近い隅丸方形状を呈しており、出土土器から判断して時期的には弥生時代中期初頭の所産と考えられる。

今回の調査で特に注目されるのは、古墳時代の遺構・遺物である。遺構は大溝・掘立柱建物・井戸・土壙・小穴等がある。大溝は幅約4.2m、深さ0.7～0.9mを測り、弧を描きながら巡っており、中途には陸橋部を思わせる12m程度の空間をもっている。大溝の内側には1間×2間の掘立柱建物が存在する。掘立柱建物と大溝との関連性は現在のところ確定しがたいが、溝と掘立柱建物の主軸がほぼ同一であること、また、掘立柱建物の柱穴の掘方形から判断して弥生時代の所産とは考えにくいことなどから考えれば、両者が同一時期の遺構である可能性は高いといえよう。また、大溝の性格についても現在のところ明らかにできないが、その形状は環濠を想起させるものがあり非常に興味深い。大溝からは多くの古式土師器が出土しているが、その中でも特に布留式土器甕の外器面に黒漆を塗布したものが存在することやいわゆる山陰系土器も多く含まれているなど、非常に良好な資料を提供している。この大溝については、昭和58年度に実施された久富遺跡B区の調査において検出されたSD006溝と形状・堆積状況・出土遺物などの類似点が多く、その関連性がおおいに考えられる。

今回の調査で、この地区において比較的希薄であった古墳時代の遺跡のひろがりが断片的にでも確認できた成果は大きいといえよう。今後の調査に期待したい。



(1) 久富遺跡I区SD101構（南から）
(2) II区SH102竪穴住居跡
(3) I区全景
(4) III区SK301土壙
遺物出土状況（北から）
(5) I区SE104井戸跡
遺物出土状況



(23) 阿高(あたか)遺跡（C地区） 1 （略号：ADK-C）

遺跡の所在地

佐賀市北川副町大字光法字阿高

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成２年７月～９月

調査面積

3,057㎡

図74　阿高遺跡周辺地形図（1：25,000）

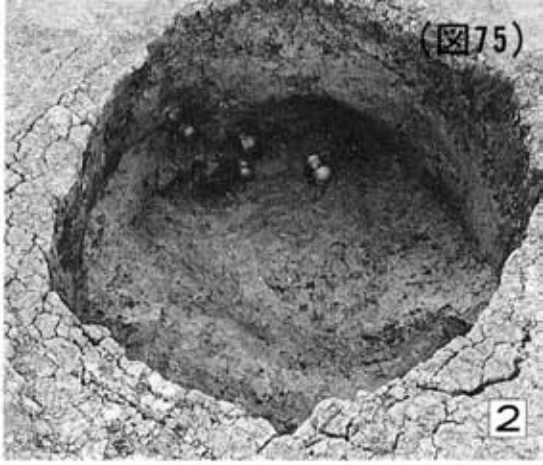
遺跡の概要

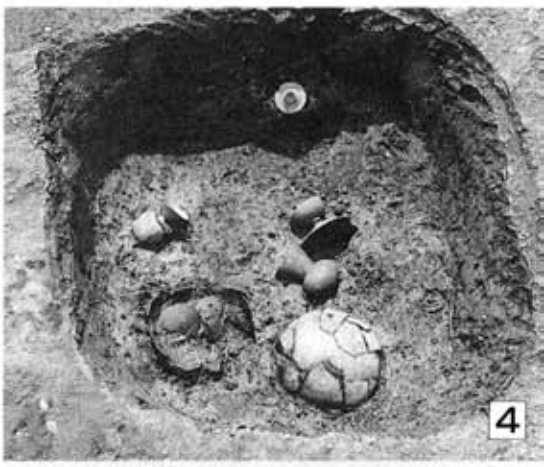
阿高遺跡は、佐賀市域東南部にあって、標高2.5ｍを測る水田下に所在する。

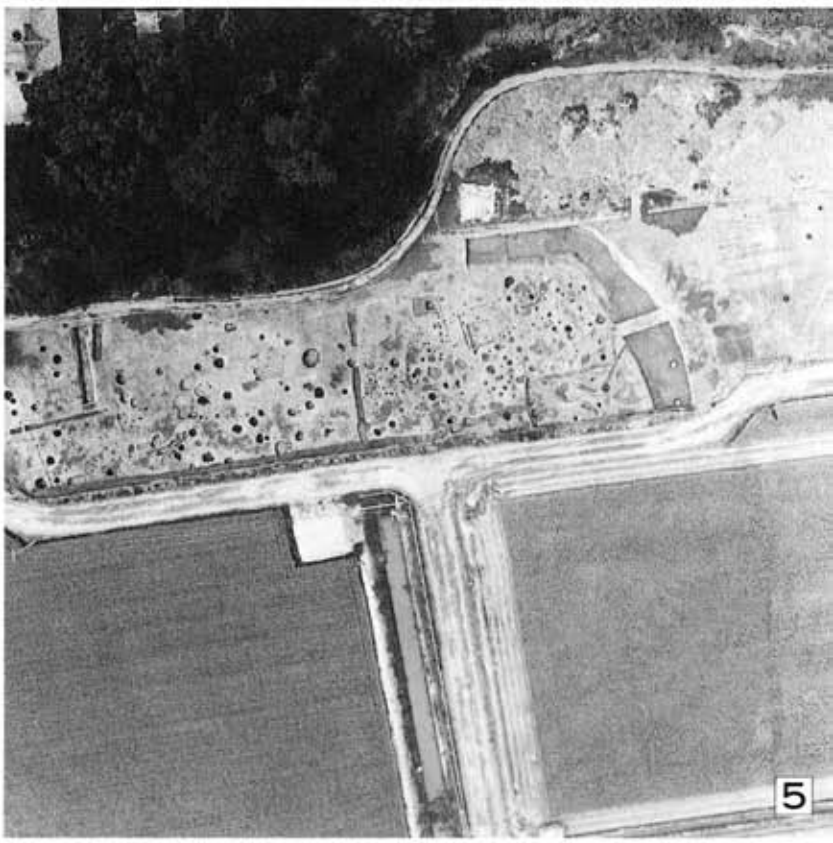
周辺の遺跡には、寺裏遺跡・梅屋敷遺跡（北川副町）・蓮池上天神遺跡（蓮池町）・徳富権現堂遺跡・村中角遺跡・唐人廟遺跡・上大津遺跡（佐賀郡諸富町）などがある。平成元年度から発掘調査を実施しているこの北川副地区は、佐賀県遺跡分布図を概観しても、遺跡密度が低い地区である。阿高遺跡が昭和63年度に、後述する寺裏遺跡・梅屋敷遺跡が平成元年度に新たに発見されたものである。

今回調査を実施した阿高遺跡では、古墳時代・中世の遺物・遺構を検出した。古墳時代の遺構として、土壙・井戸・溝・掘立柱建物がある。出土遺物には、土師器（甕・杯・高杯・壺・手捏）・須恵器（杯・高杯・鼠・提瓶）などがある。中世の遺構には、土壙・井戸・溝がある。出土遺物には、土師器（杯・皿）・瓦器（椀）・磁器（椀）などがある。

今回の調査で注目されるものに、古墳時代と考えられる３間×３間の総柱掘立柱建物と、井戸・土壙から出土した土師器がある。建物跡は、古墳時代の所産としては市域南部ではじめての検出であり、南部域の建物の変遷を研究する上で重要な資料となる。また、多数検出した土師器の中には山陰地方の特徴を有するものも含まれており、当時の土師器流入経路や社会状況を研究する上で重要な資料である。







(1) 阿高遺跡遺構検出状況
(2) SK059土壙
(3) SK088土壙
(4) SK098土壙
(5) 調査区全景

(24) 寺裏遺跡（略号：TUR）

遺跡の所在地

佐賀市北川副町大字光法字角町

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成２年９月～10月

調査面積

755㎡

遺跡の概要

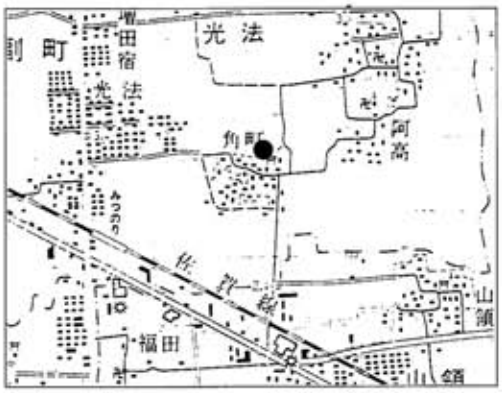
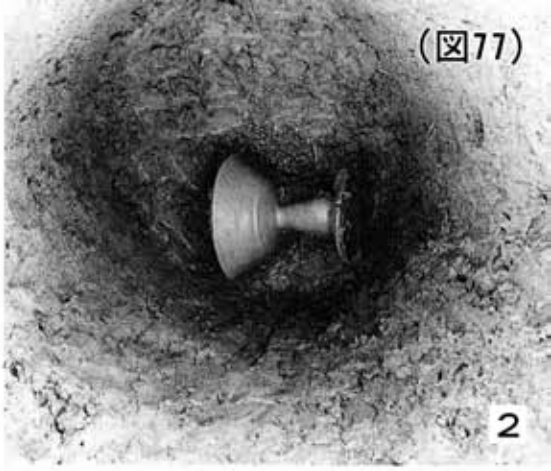


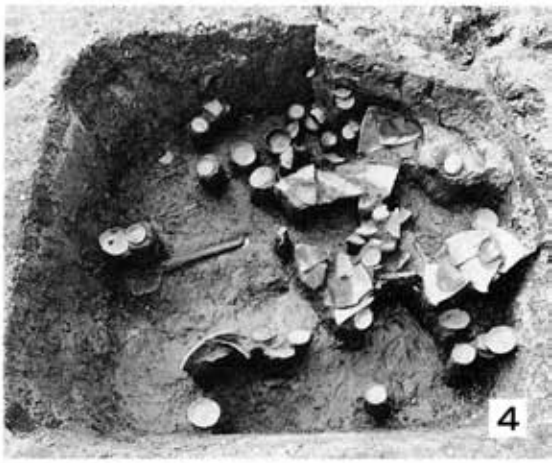
図76　寺裏遺跡周辺地形図（1：25,000）

寺裏遺跡は、前述の阿高遺跡と南北方向にのびるクリークをはさんで西側に位置し、平均標高は2.5ｍを測る。（周辺遺跡については阿高遺跡の項を参照のこと）

今回の発掘調査では、古墳時代・中世・近世の遺構遺物を検出した。古墳時代の遺構としては土壙・井戸がある。出土遺物には、土師器（杯・高杯・甕）がある。中世の遺構としては、土壙・井戸・溝がある。出土遺物には、土師器（杯・皿）・磁器（碗）がある。近世の遺構は墓のみであり、棺桶を使用した痕跡をもつものと、陶器の甕を使用しているものがある。出土遺物は甕の他に副葬品として銭・銅製品等がある。

この中で注目されるものは、中世の所産であるSK007土壙があげられる。これは、上面の平面形が長方形を呈し、東西1.98ｍ、南北2.2ｍ、中心部の深さ0.87ｍを測るものである。この種の遺構は、SK007の他に３基検出した。いずれも規画性をもって掘られた観がある。SK007土壙からは土師器（杯15、小皿18、壺２、鍋６）、磁器（碗６）、石製支脚１、陶器（皿１）、木製品１が出土した。特に土師器は残存状況が良好で、土器編年を行う上で好資料となる。このような遺構の検出例が市域では無く、性格・機能については確定し難い。今後の発掘調査による資料の増加をまち、併せてその機能・性格について検討したい。





(1) 寺裏遺跡遺構検出状況
(2) SK018土壙
(3) SK002土壙
(4) SK007土壙
(5) 調査区全景

(25) 梅屋敷(うめやしき)遺跡（略号：UYS)

遺跡の所在地

佐賀市北川副町大字光法増田宿

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成２年10月～11月

調査面積

1,662㎡

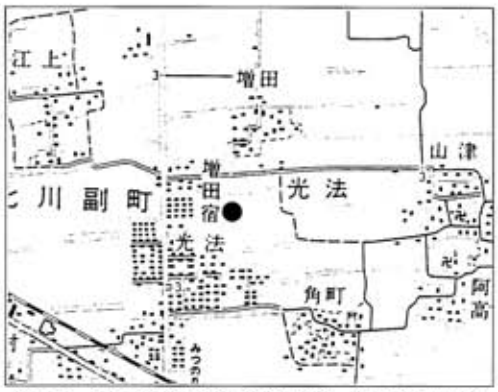


図78　梅屋敷遺跡周辺地形図（1：25,000）

遺跡の概要

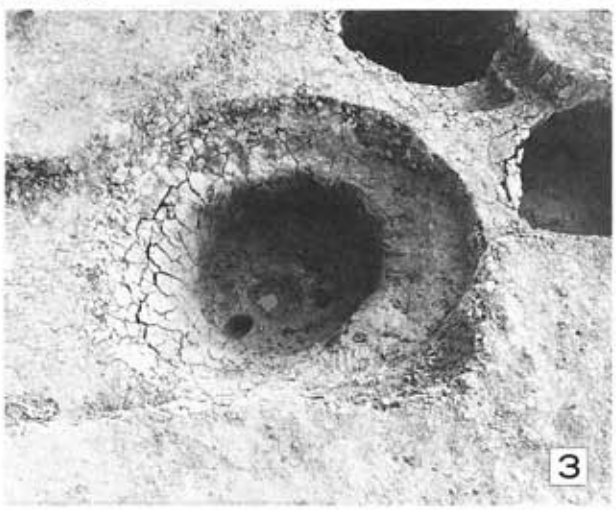
梅屋敷遺跡は、阿高遺跡・寺裏遺跡の北西約500ｍに位置し、平均標高2.7ｍの水田下に所在する。この遺跡は、環濠を有する中世の居館跡である。遺跡名は地元に残る伝承によるものである。（周辺遺跡については阿高遺跡の項を参照のこと）

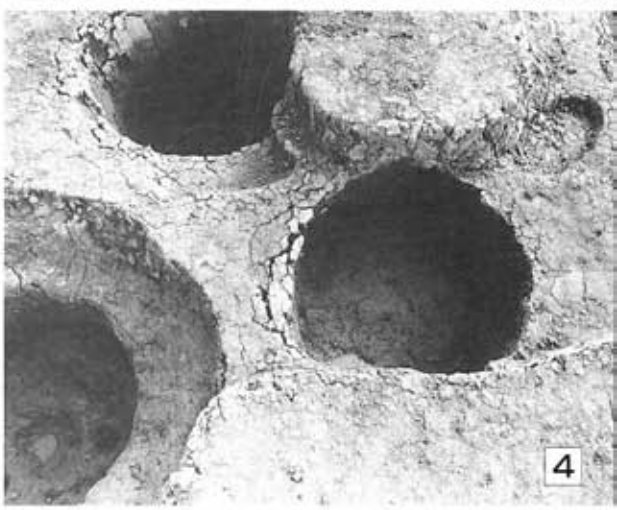
今回の発掘調査では、中世の掘立柱建物・土壙・井戸・溝、近世の井戸・土壙を検出した。出土遺物には、土師器（小皿・杯）・瓦器（椀）・磁器（皿・碗）などがある。掘立柱建物は、調査区東側に３間×３間のものを１棟（SB028)、西側に２間×３間のものを１棟（SB018）を検出している。両者ともほぼ同一方位を示しており同時期の所産と考える。SB028で梁行5.8ｍ・桁行6.0ｍでほぼ正方形の建物である。柱穴の配置はややいびつになっているが、基本的には一辺5.8ｍの正方形プランの建物であったものと考える。SB018は梁行3.8ｍ、桁行7.0ｍで東西方向に長軸を有するものである。

この調査地は、島状の現地形の北辺中央部が入江状になっている。この部分の南への延長ラインで南北にのびる幅５ｍ程度の溝を確認した。このことは、元来この居館が東西方向に分断されていた可能性をもつが、掘削予定の水路部分のみの調査であったため、それと断定できる積極的な資料はえられなかった。

この梅屋敷遺跡は、地元に残る口伝のとおり、中世から近世にかけての館跡であった。近年の農業基盤整備事業に伴う発掘調査で、この梅屋敷遺跡のように、口伝が実証される例が増加している。平成３年度の確認調査では、兵庫南部地区で忠兵衛屋敷遺跡、鍋島江頭地区では大西屋敷遺跡が新たに発見された。このことは、地元に残る地名の考察をさらに検討していくべきものであることを提示している。

(1) 梅屋敷調査区全景
(2) SB018掘立柱建物
(3) 土壙検出状況
(4) 土壙検出状況





(26) 瓦町遺跡（略号：KWR-1・2）

遺跡の所在地

佐賀市兵庫町大字瓦町字五本松

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成2年8月～平成3年1日

調査面積

4,844㎡

図80　瓦町遺跡周辺地形図（1：25,000）

遺跡の概要

瓦町遺跡は、佐賀市域東南部の標高3.5mを測る平野部に位置する。

周辺の遺跡には、牟田寄遺跡・牟田寄貝塚・貴別当神社遺跡（千代田町）などがあり、兵庫南部地区は、市南部域において比較的遺跡の密度が高い地域になっている。

発掘調査の結果、土壙・柱穴・大溝などを検出した。土壙からは多量の土器の他、漆塗りの木製高杯など生活・祭祀に関する木器も多数出土している。柱穴には径約25cmを測る大きな柱が残存しているものもあり、大規模な建物の存在が考えられる。大溝は、幅7.5m・深さ1.2mを測り、下層では多量の土器・木器とともにカキ貝殻がコンテナバット150箱ほど出土した。また棚路施設・杭列など人為的施設も検出した。

主な出土遺物には、弥生時代中期後半を中心とした壺・甕・高杯・鉢・器台などの土器、漆塗り木製高杯・漆塗り木製皿・鋤・鍬・槌・火鑽臼・槽・大匙・椀・紡錘車・竪杵・臼・梯・建築材などの木器、石包丁・石皿・石剣などの石器がある。

瓦町遺跡は、土壙群・大溝などの存在、出土遺物の量などを、最間的空間的に考え合わせるとかなりまとまった規模の集落部の一部であると考えられる。また、今回のように生活に関する木器がまとまって出土することは稀であり、弥生時代の生活を研究していく上で貴重な資料である。

(1) 瓦町遺跡貯蔵穴検出状況
(2) 木器検出状況
(3) 木製高杯検出状況
(4) II区全景
(5) I区全景

(27) 四反田(したんだ)遺跡（略号：SGO)

遺跡の所在地

多久市東多久町大字別府

調査主体者

多久市教育委員会

調査期間

平成２年６月～11月

調査面積

4,030㎡

遺跡の概要

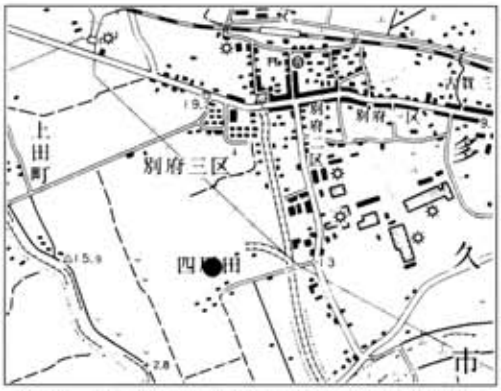
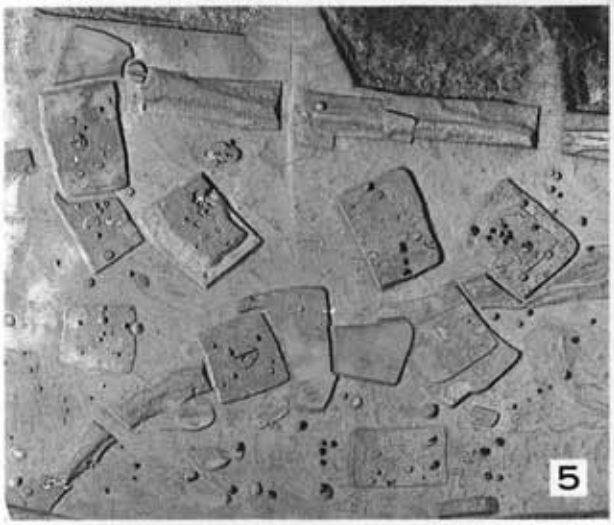


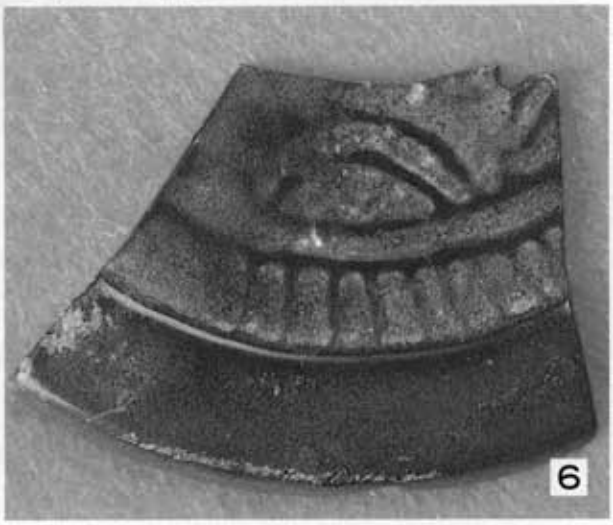
図82　四反田遺跡周辺地形図(1：25,000)

四反田遺跡は、多久市東部、今出川と西郷川に狭まれ牛津川に合流する標高12ｍの平地に営まれている。周辺には、遺跡の北部に、古墳時代の集落跡である木浦町遺跡、弥生時代終末期～奈良時代の上田町遺跡、縄文時代～弥生時代の大工田遺跡等が、北東部に、古墳時代・中世の集落跡の桜木遺跡が存在する。

調査は、「県営圃場整備事業多久東部地区」に伴い、面工事により削平を受ける部分A・B地区２ヶ所について、発掘調査を実施した。A区では、弥生時代終末期～古墳時代前期の竪穴住居跡４軒と、中世の掘立柱建物跡５軒、古墳時代・中世の土壙７基、方形溝状不明遺構２基、その他ピットを検出した。竪穴住居跡は、いずれも発掘区西側で検出し、平面プランは、１辺が５～６ｍほどである。掘立柱建物跡は、発掘区中央やや南に２間×２間と１軒、やや北寄りの西側に２間×５間を１軒、その東側に２間×２間が３軒ある。土壙のうち、発掘区西側で南北に並ぶ３基は古墳時代、東側中央の４基は中世のものである。一方、発掘区の南西に位置する方形溝状遺構については、墓壙となる主体遺構は検出できず、方形周溝墓とは考え難い。その規模は、形状が明確な南側で長辺10ｍである。遺物は溝内より弥生時代終末期の土器片が検出された。B区は、A区の東100ｍほどで、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡13軒、弥生時代後期～近世の溝状遺構４条、弥生時代後期～古墳時代前期土壙５基を検出した。竪穴住居跡は、発掘区中央北寄りに集中し、２条の溝を切って営まれる。平面プランは、まちまちで、不規則に散在する。また、屋内にピットをもつものもある。他の竪穴住居跡に囲まれた調査区北東部に位置する８号竪穴住居跡の床面直上より、小形内行花文仿製鏡片が出土した。平縁で鏡面は姿が映せるほど光沢をもつが、一部に鋳ツブレの状況が観察される。鏡破砕面は丁寧に研磨され、内区花文部に穿孔の痕跡が認められる。背面施文は、粗目の斜行櫛歯目帯、双線の弧を描く内行花文帯で、鈕の形状は不明である。溝状遺構は北から南へ流れ、竪穴住居跡に切られる２条は、初現が弥生時代後期、西側の大溝は弥生時代終末、その上部の小形の溝は近世である。

(1) 四反田遺跡遠景（西から）
(2) B区遠景（西から）
(3) A区遠景（西から）
(4) A区SB110竪穴住居跡
(5) B区竪穴住居跡
(6) B区SB008竪穴住居跡出土鏡





《佐賀南部地区の調査》

(28) 則重(のりしげ)遺跡（略号：NRS）
正願地(しょうがんち)遺跡（略号：SGT）

遺跡の所在地

鹿島市大字山浦字則重

大字納富分字正願地

調査主体者

鹿島市教育委員会

調査期間

平成２年６月～10月

調査面積

3,200㎡

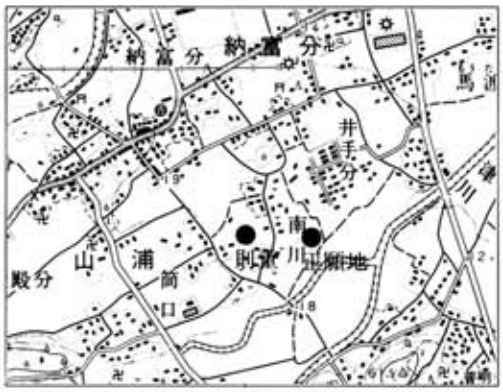


図84　則重遺跡　周辺地形図(1：25,000)
正願地遺跡

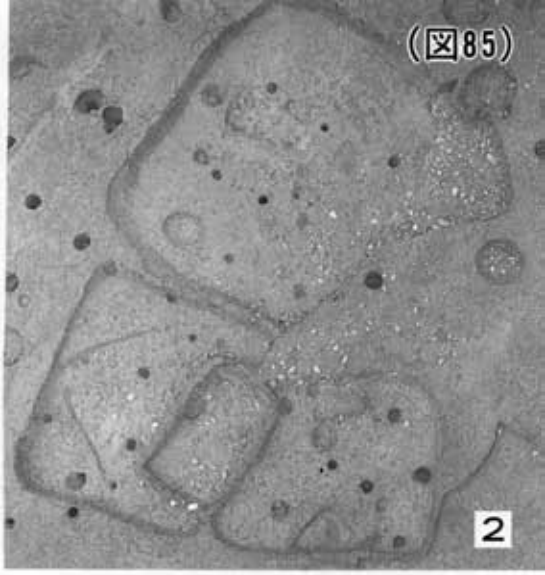
遺跡の概要

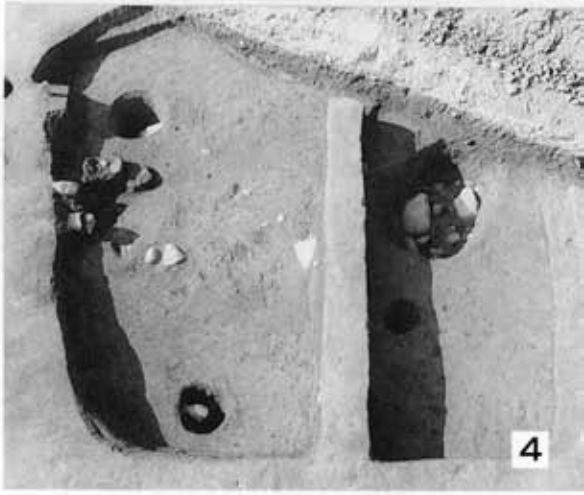
鹿島市は有明海の西岸に位置し、東西11.5km、南北16.4kmに広がる県南西部の中核都市である。北は塩田川を狭み有明町と西は塩田町・嬉野町と接し、東南部は多良岳から伸びる稜線の一つを境に太良町と接している。市内には多良岳に源を発していくつかの河川が有明海に注いでおり、中流域で扇状地の発達が見られる。

則重遺跡は鹿島市大字山浦字則重に存在する、弥生時代中期～古墳時代後期の集落跡である。遺跡は中川によって形成された扇状地の中流域にあり、標高17ｍの水田に位置する。調査は隣接してA地区及びB地区に分けて実施した。調査の結果、弥生時代中期末の住居跡２軒、弥生時代中期末～後期初頭の住居跡３軒、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の住居跡１軒、古墳時代後期の住居跡３軒、土壙21基、小穴多数を検出した。遺物はほとんどが住居跡のなかから出土しており、弥生土器、土師器、須恵器、石包丁、砥石等が出土した。

正願地遺跡は中世～近世の集落遺跡である。則重遺跡の東約100ｍにあり、標高13.8～14.8ｍの水田及び畑地に位置する。則重遺跡とほぼ同様の立地である。調査はA～D地区に分けて実施した。A地区では溝２条、土壙15基、小穴多数、B地区では溝１条、土壙２基、小穴多数、C地区では溝１条、土壙10基、小穴多数、D地区では 土壙１基、小穴数十個を検出した。遺物としては中世末～近世の陶磁器、土師器が出土したが、量的には少ない。

鹿島市内では弥生～古墳時代については、墓地の調査はいくつか調査例があるが集落遺跡の調査例はなく、則重遺跡が初めての例となった。また住居跡も初めての検出例であり、鹿島市の歴史を探るうえで貴重な資料となった。則重遺跡は調査区より西南方向に広がっていると考えられるが、どの程度広がるかは今後の課題である。また正願地遺跡は集落の周辺部と考えられ、比較的遺構は少なく、遺物も少ない。





(1) 則重遺跡調査区全景（北から）
(2) 則重遺跡SH01・SH02・SH03住居跡（北から）
(3) 則重遺跡SH05住居跡（東から）
(4) 則重遺跡SH203住居跡（南から）
(5) 正願地遺跡A・B・C調査区全景（北から）
(6) 正願地遺跡D調査区全景（東から）

(29) 船野(ふなの)遺跡（略号：FNN）

遺跡の所在地

杵島郡白石町大字船野字船野

調査主体者

白石町教育委員会

調査期間

平成２年６月～11月

調査面積

4,500㎡

図86　船野遺跡周辺地形図(1：25,000)

遺跡の概要

船野遺跡は、高城跡と杵島城跡に囲まれた水田地帯に広がる弥生時代中期を中心とする集落跡である。計約4,500㎡を発掘調査したが、特異な構造を持つ掘立柱建物１棟が検出された。

調査区北側の幅約３ｍの東西小水路予定地内から検出されたため、柱穴３基しか確認されていないが、最低１間×２間の規模になるものと推定される。径約1.0～1.5ｍ、深さ約70～90cmの柱穴に、長さ約50～70cm、幅約80～90cmの礎板が置かれている。最も大きいものは長さ約90cm、幅約60cmを測る。表面には径約20～30cmの柱を据えるための掘込みがあり、１基には経約30cmの柱根が残存している。手斧による加工の痕も生々しく、樹皮が付着したままの礎板もある。

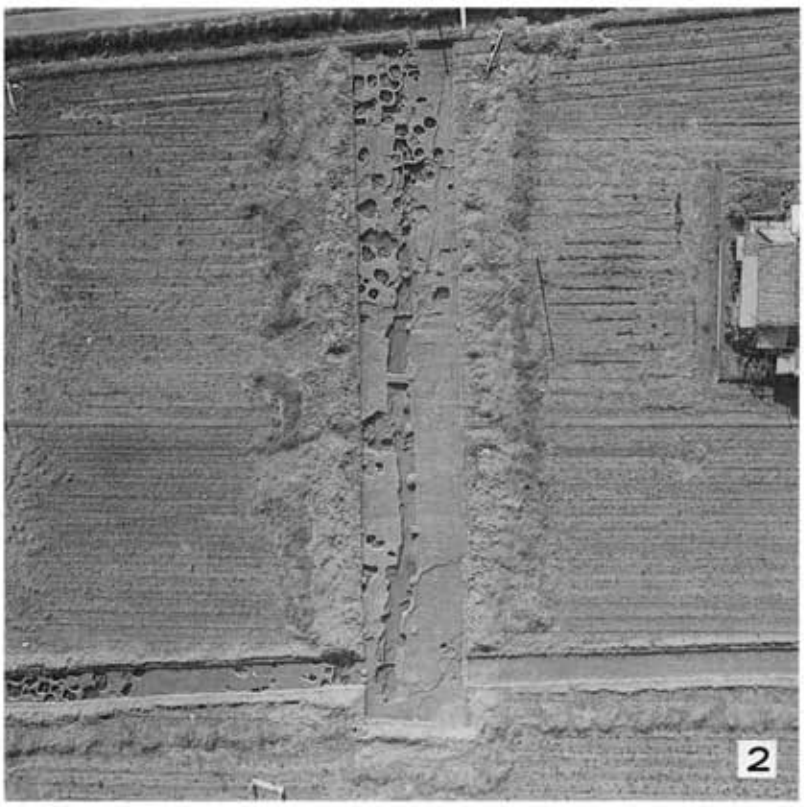
礎板の下位には、径約10cm、長さ約70～80cmの丸太を井桁状に組んでいる。つまり、柱穴の底部に井桁状に丸太を組み、更にその上に礎板を置くという二重構造になっている。

礎板自体は、三日月町の土生遺跡、神埼町の川寄吉原遺跡等において同時期のものが出土しているが、船野遺跡のように規模が大きく、しかも二重構造をもつ礎板は県下では初めてで、全国的にみても類例を聞かない。

船野遺跡全体で約250基の柱穴が確認されたが、このような構造のものは僅かに３基のみである。一般の住居や倉庫ではなく、集落の中でも何か特別の用途をもつ建物であったろうが、柱穴だけからでは上部構造の復元は困難である。

また、これ以外の大半の柱穴には「根がらみ工法」と呼ばれる構造が見られる。白石地方では、弥生時代後期の湯崎東遺跡においても同様の工法が確認されていた。

出土遺物としては、中期を中心とする土器や石鏃・磨製石剣片等の石器、黒曜石片、サヌカイト片のほかに鍬先・鋤・杓子・槽・石斧柄・容器等の木製品が多く出土した。



(1) 船野遺跡A地区高城内壕跡　　(2) C地区全景
(3) SD009出土杓子状木製品

(30) 多田遺跡（略号：TAD）

遺跡の所在地

杵島郡白石町大字廿治字一本杉

調査主体者

白石町教育委員会

調査期間

平成２年４月～５月

調査面積

1,100㎡

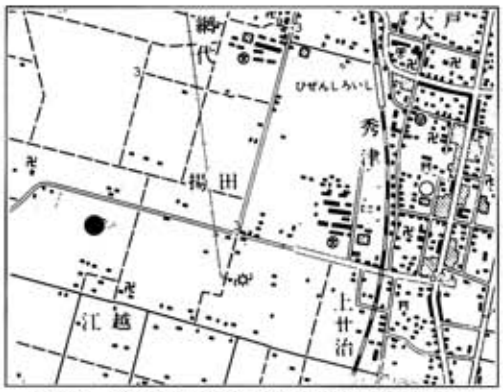


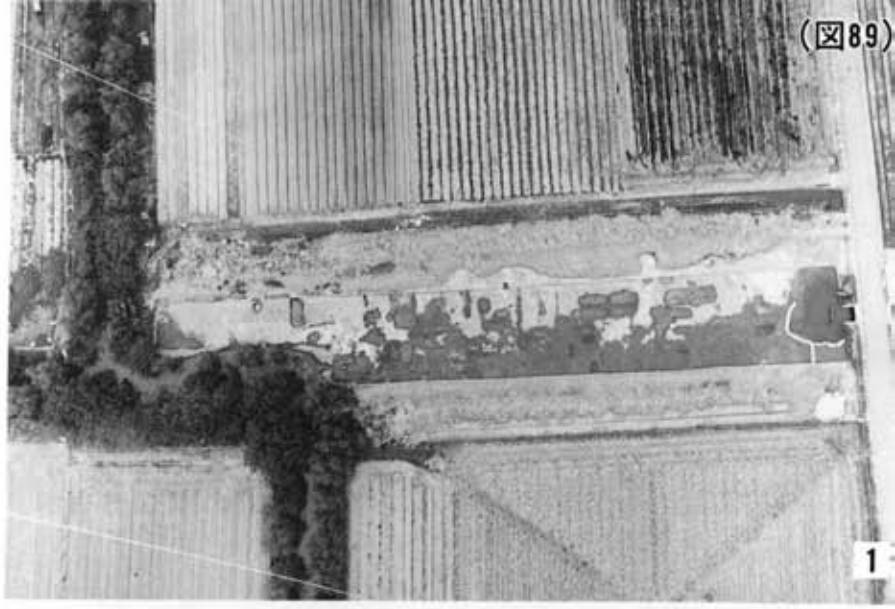
図88　多田遺跡周辺地形図(1：25,000)

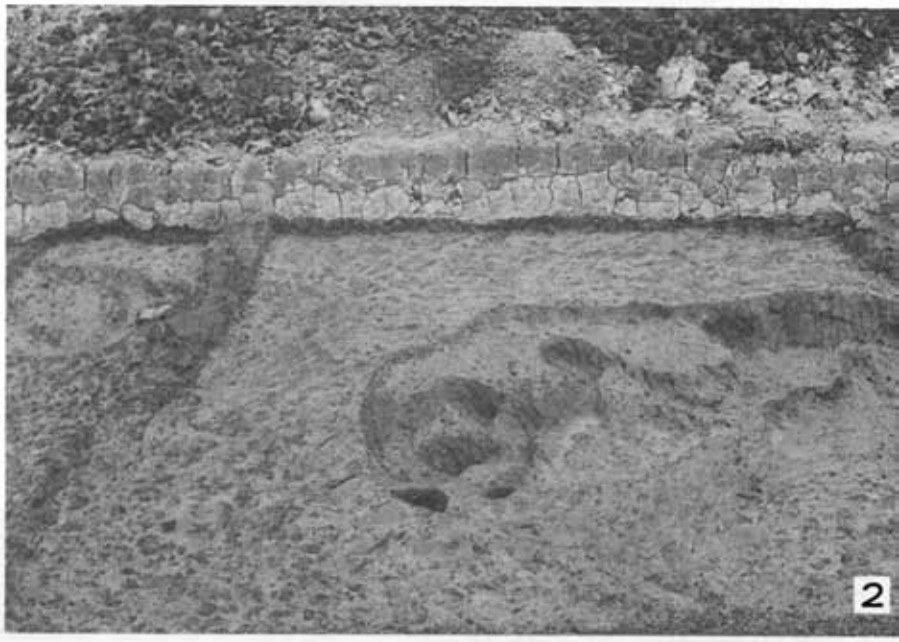
遺跡の概要

多田遺跡は白石平野北西部の標高約2.0～2.4ｍを測る水田地帯に位置しており、周辺からは古墳～奈良時代の土器片が多く採集され、早くからその存在が知られていた。本遺跡の所在する周辺は、『和名類聚抄』によれば奈良時代に「多駄郷」が平安時代には皇室領「太良田荘」が設置されるなど、白石平野では比較的早い時期から開発されたことが明らかな地域である。

平成２年度の調査は、多田遺跡のほぼ東限地域にあたる東西水路予定地を対象とした。古墳時代後期から奈良時代を中心とする土壙・溝等が検出されたが、遺物の出土は比較的少ない。集落の中心となる住居跡は検出されなかったが、遺構面が現地表下約20～30cmと浅いことから後世の削平の影響を受けた為と考えられる。遺物としては土師器・須恵器の出土があるが、「神」・「浄」・「达」（「達」の異体字）の墨書土器３点も確認された。

昭和62年度から平成２年度の４年間で計約10,000㎡を発掘調査した結果、多田遺跡の規模がほぼ把握でき、東西約600ｍ、南北約400ｍの範囲に位置する集落であることが判明した。残念ながら住居跡が検出されていないのは、上記の地理的条件によるものであろう。時代は古墳時代後期～奈良時代を中心とするが、遺跡の北西部では古墳時代前期の遺構も確認されている。遺物としては、「大」「貴」や「養入厨」（あるいは「養父厨」か）等、比較的多数の墨書土器の他に、木簡３本が検出されるなど、当地域における中心的な集落であったろうと推定されるのである。また、古文献に記される開発の状況を実際の遺物の面からも証明できた意義は大きい。





(1) 多田遺跡Ⅰ区全景
(2) SK275土壙
(3) SK274土器出土状況
(4) SK246土壙

(31) 鳥ノ巣(とりのす)遺跡（略号：TNS)

遺跡の所在地

杵島郡白石町大字大渡字三本松

調査主体者

白石町教育委員会

調査期間

平成２年12月～平成３年１月

調査面積

1,870㎡

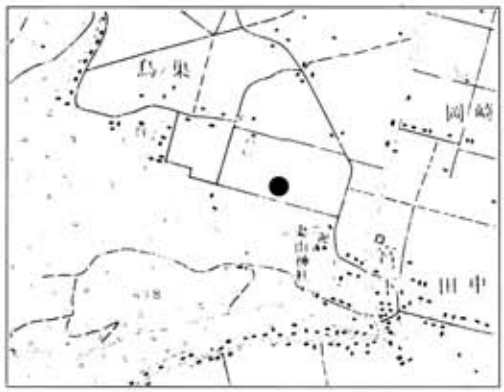


図90　島ノ巣遺跡周辺地形図(1：25,000)

遺跡の概要

鳥ノ巣遺跡は、杵島山から東へ派生する丘陵の北麓に広がる標高3.6ｍを測る水田地帯に位置する。

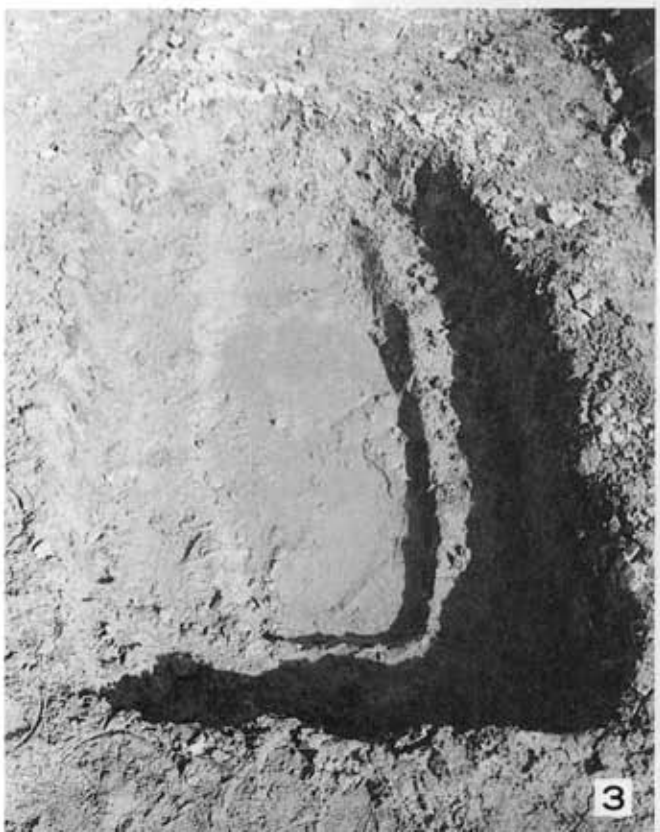
近接する小丘陵の尾根上には、箕具崎古墳群・箕具山古墳群・鳥ノ巣古墳群・妻山古墳群等の古墳時代後期の群集墳が築造されている。

圃場整備事業に伴い、南北水路予定地について発掘調査を実施したが、土壙32基、溝１本を検出したにとどまった。土壙については、大半が調査区南端付近に集中する傾向にあり、またいずれも浅く土師器・陶磁器小片を少数出土するのみである。

調査区中央部を南北に延びるSD001については、南端を確認し北側へ約90ｍを検出したが北端は更に調査区外へ続くものと推定される。その幅は1.7～3.2ｍと一定しておらず、北側で広がる傾向にある。底面は主軸とほぼ平行に壇上になる部分や、二段掘りを示す部分があり、溝としては機能し得たかどうか疑問が残る。埋土を見てみると、ほとんどが淡茶灰色土で地山と思われる明黄灰色土が混在しており、人為的に埋められた感を受ける。

本遺跡については、出土する遺物は小片かつ小量であるため性格の判断が困難であるが、近世期の集落の周辺部にあたるものかと推定される。

(1) 鳥ノ巣遺跡Ⅰ区全景
(2) SD001南端付近
(3) SK030土壙
(4) SK031土壙



(32) 糸岐川南遺跡（略号：ITK）

遺跡の所在地

藤津郡太良町大字糸岐字川南

調査主体者

太良町教育委員会

調査期間

平成２年10月～平成３年１月

調査面積

3,100㎡

図92　糸岐川南遺跡周辺地形図（1：25,000）

遺跡の概要

太良町は県の南西端に位置し西を長崎県と接する。町域の自然地形を大雑把に見ると西側は、経ヶ岳（標高1075ｍ）を最高峰に多良岳（標高982ｍ）・帆柱岳（標高741ｍ）の多良山系がそびえ、東には千潮時の干潟が日本一という有明海に面している。この山系から四方に小河川が有明海・大村湾に流出し、当町には主な河川として北から伊福川・多良川・糸岐川・休石川などがありすべて有明海に流入している。

糸岐川南遺跡は、この糸岐川の帆柱岳北東斜面に対する開析作用により形成された谷底平野（標高6～14ｍ）に立地し、現況は水田として利用されている。

周辺の遺跡としては遺跡対岸独立丘陵に八幡城、糸岐川中流域北側には城平城・蕉田城・大野城ななど中世の山城が所在する。

調査は工事との関係から１区～４区に分けて実施した。その結果１区から多数の柱穴と井戸跡、２区では多数の柱穴と土壙、３区は若干の柱穴、４区は多数の柱穴が検出された。この柱穴群は幾つかまとまるものと思われたが明確にできず、したがって建物の件数や配置等については明らかにすることができなかった。遺物は１区～３区が中世、４区は近世を中心とした遺物が出土した。いずれも小破片であるが中には、龍泉窯・同安窯系青磁など輸入陶磁器類など含まれている。さらに２区北東約100ｍの地に耕作時に出てきた石を集積した通称石塚から多量の遺物が検出された。遺物は土師器・瓦器・石鍋・輸入陶磁器類など中世が主であり、特に輸入陶磁器類はほぼ完形に近い物まで含まれていた。

以上今回の調査は遺跡の一部ではあったが、中世～近世にかけての集落跡であることが明らかとなった。しかしその建物の件数や配置等不明確で今後明らかにする必要がある。

なお遺物中に多くの龍泉窯・同安窯系青磁があり、遺跡は単なる農村集落ではないと推察され、今後遺跡周辺の中世山域とも含め検討を要する。

(1) 糸岐川南遺跡Ⅰ区全景（北から）
(2) Ⅱ区全景（西南から）
(3) Ⅳ区全景（西から）

《佐賀上場地区における調査》

(33) 竹木場前田遺跡（略号：TMA）

遺跡の所在地

唐津市竹木場字前田

調査主体者

唐津市教育委員会

調査期間

平成２年５月～同年８月

調査面積

1,130㎡

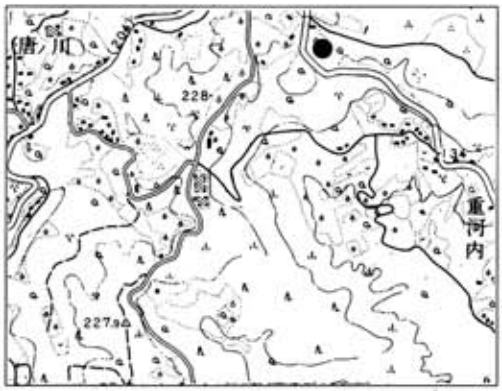


図94　竹木場前田遺跡周辺地形図(1:25,000)

遺跡の概要

国営上場土地改良事業における、新成渕幹線の水利事業に伴う埋蔵文化財の調査である。

佐賀県の北西部、玄海灘に突出した東松浦半島、所謂、上場台地と呼称される一帯は、第三紀花崗岩を基盤とし、数回の火山性噴出物によって生じた玄武岩質安山岩の溶岩大地となっている。竹木場前田遺跡はこの上場台地の南端にあたる丘陵上にあり、北側に湧水点のある狭小な谷が侵入し、現在は溜池となっている。南側は比高差90ｍ急激に落ち込む傾斜面となり、見晴らしのよい平坦面となっている。

周辺には、菅牟田黒龍遺跡、菅牟田荒谷遺跡、菅牟田西山遺跡等の先土器～縄文時代早期の遺跡が多い所でもある。

調査は、２×２ｍのグリッドに区画し、丘陵の尾根に平行に東～西へ１・２・３～、北から南へA・B・C～で表示した。層序は、表土下が明黄褐色軟質粘質土（２層）、赤褐色硬質粘質土（３層）を基本とし、この２層は遺物包含層となる。結果としては、大きく３期の遺構面が検出された。第１、腐葉土直下の道遺構で、幅１～1.5ｍでほぼ尾根筋に沿って延びるものである。２層上部には縄文時代早期の遺物群が多量に包含されていて、炉跡と考えられる被熱赤変状の礫や土壙が認められた。また、さらに下層の２層下部～３層上部にかけて先土器時代の遺物群の集中部分も認められた。

道遺構に伴う遺物として、陶磁器天保通宝・寛永通宝がある。縄文時代早期の押形文土器や石槍・石鏃・先土器時代のナイフ形石器・削器・三陵尖頭器や細石核も出土している。細石核の中には、所謂、船野型に類似するものがあり注目される。

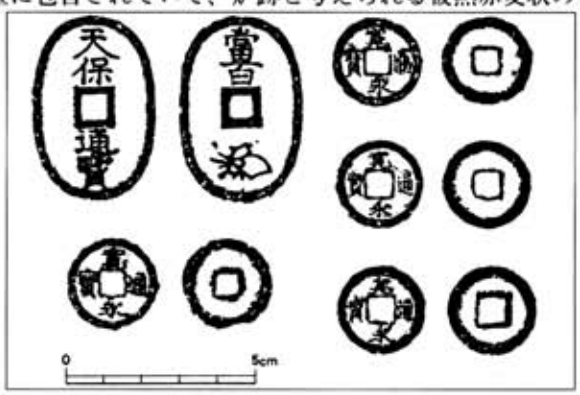


図95　道遺構関連遺物

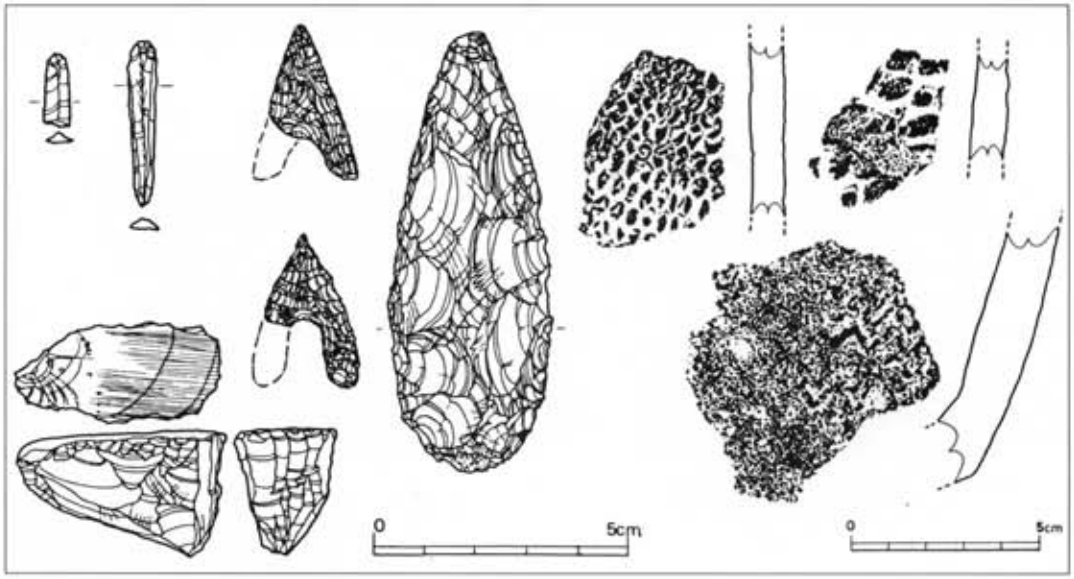


図96　出土遺物実測図

(図97)

(1) 竹木場前田遺跡遠景（北東から）
(2) 調査区全景（東から）
(3) 調査区全景（北西から）
(4) 遺物出土状況（ユニット）
(5) 遺構検出状況（炉跡）
(6) 遺物出土状況（石槍）

(34) 菅牟田西山遺跡（略号：SMN）

遺跡の所在地

唐津市菅牟田字西山

調査主体者

唐津市教育委員会

調査期間

平成２年10月末月～平成３年２月初

調査面積

1,790㎡

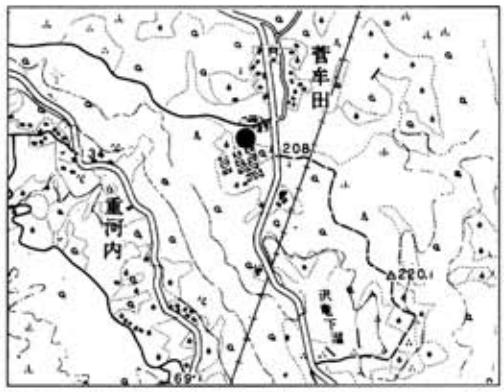


図98　菅牟田西山遺跡周辺地形図(1：25,000)

遺跡の概要

国営上場土地改良事業における、新成渕幹線の水利事業に伴う埋蔵文化財の調査である。

佐賀県の北西部、玄海灘に突出した東松浦半島、所謂、上場大地と呼称される一帯は、第三紀花崗岩を基盤とし、数回の火山性噴出物によって生じた玄武岩質安山岩の溶岩大地となっている。菅牟田西山遺跡はこの大地の南東部に占地する。

周辺には、菅牟田黒龍遺跡、菅牟田荒谷遺跡、竹木場前田遺跡等の先土器～縄文時代早期の遺跡が多く認められる所でもある。

調査区は、磁北に基軸をとり、４×４ｍを１単位とし北から南にA・B・C～、西から東に１・２・３～に設定した。土層は、北側の一帯は表土直下10㎝程で地山となり、かなり掘削を受けていたが中程から南側にかけては地山が傾斜し良好な遺物包含層も認められた。第４層の褐色粘質土層と代５層の暗褐色粘質土層からは石鏃・石匙・掻器・削器・磨石・剥片・砕片が出土する。加えて、一部からではあるが若干低くなる感じでナイフ形石器や剥片も認められた。また、中央、客土が厚く認められた中からは同安窯系の青磁を初めとして陶磁器片も多少認められた。

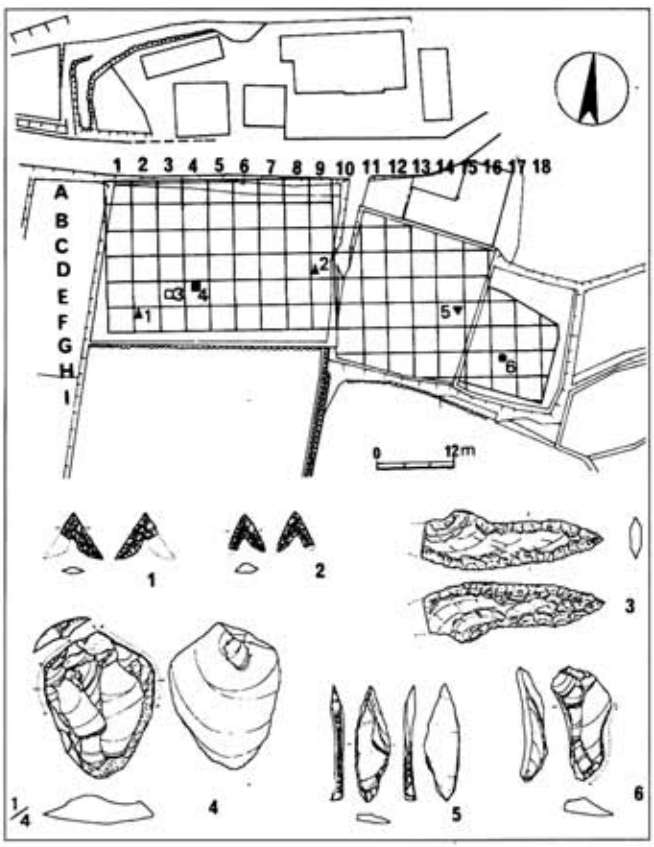


図99　出土遺物実測図

(1) 菅牟田西山遺跡遠景（南東から）
(2) 遺跡近景（南西から）
(3) 調査区状況（北西隅から）
(4) 調査状況（F-16区周辺）
(5) 土層状況（D-6区南壁）
(6) 遺物出土状況（G-18区周辺）
(7) 遺物出土状況（掻器4）

(35) 山田団六（やまだだんろく）Ⅰ・Ⅱ遺跡（略号：YDR）

遺跡の所在地

唐津市山田字団六

調査主体者

唐津市教育委員会

調査期間

平成３年１月～平成３年３月

調査面積

850㎡

図101 山田団六Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺地形図(1：25,000)

遺跡の概要

国営上場土地改良事業における、新成渕幹線の水利事業に伴う埋蔵文化財の調査である。

佐賀県の北西部、玄海灘に突出した東松浦半島、所謂、上場台地と呼称される一帯は、第三紀花崗岩を基盤とし、数回の火山性噴出物によって生じた玄武岩質安山岩の溶岩大地となっている。遺跡はこの上場台地の南東端にあたり、標高150～200ｍとなだらかな準平原状に続く大地が、比高差180ｍ急激に傾斜して落ちる地点で、南側から深く侵入する開折谷に向かう緩丘陵面に立地している。

周辺には、菅牟田黒龍遺跡、菅牟田荒谷遺跡、竹木場前田遺跡、菅牟田西山遺跡等の先土器～縄文時代早期の遺跡が多く、南側の低地帯とつなぐ交通の要路であった可能性が高い。

調査は、道路と茶畑の２地点を長軸に沿って２×２ｍを単位区画として実施した。両地点とも基本層序は、表土下が黄褐色軟質粘質土（２層）、赤褐色硬質粘質土（３層）となっていて部分的に基盤玄武岩の凸凹が礫面となって認められた。遺物の出土状況は、希薄に散布し、遺跡のありかたを示唆するまでには至らなかったが、ナイフ形石器・石鏃・石槍・スクレイパー等が出土している。Fig102に出土した石器の一部を図示した。1･2の石鏃は、縄文時代早期に特長的な鍬形鏃と三角鏃である。３は縦長剥片を素材にしたナイフ形石器で調整のプランティングは平坦な加工を示すものである。４は横広の剥片を素材にしたもので調整加工もやや粗い。

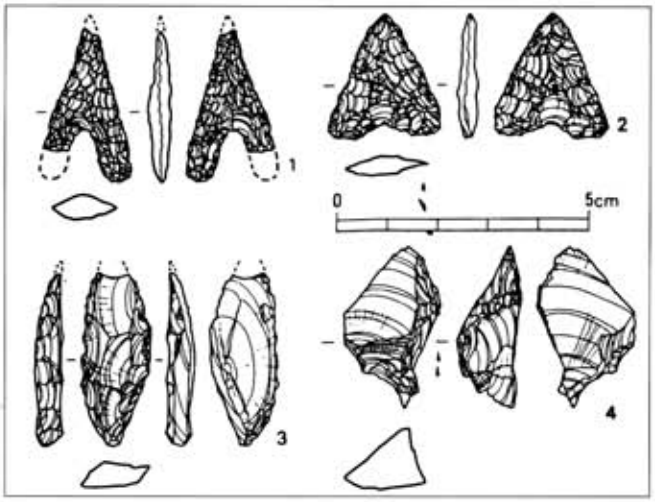


図102　出土遺物実測図

(1) 山田団六（Ⅰ）遺跡遠景（南東から）
(2) （Ⅱ）遺跡遠景（北西から）
(3) （Ⅰ）調査区A、B-37-48区（南から）
(4) （Ⅰ）調査区A、B-25-36区（南から）
(5) （Ⅰ）調査区A、B-13-24区（南から）
(6) （Ⅰ）調査区A、B-1-12区（南から）
(7) （Ⅱ）調査区全景遺物出土状況（北から）
(8) （Ⅱ）遺物出土状況（北西から）

(36) 湊松本遺跡（略号：MMM）

遺跡の所在

唐津市湊町字松本

調査主体者

唐津市教育委員会

調査期間

平成２年10月～３年１月

調査面積

2,200㎡

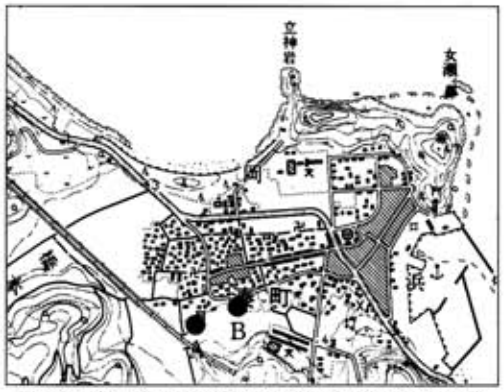


図104 湊松本A・B遺跡周辺地形図(1：25,000)

遺跡の概要

県営畑地帯土地改良事業の湊換地工事に伴う。

遺跡のある湊地区は唐津市西部の沿岸にあり、第三紀花崗岩を基盤とし、数度の噴出物の結果形成された東松浦溶岸大地（上場台地）の東側にあたる。南と西が上場台地の端の急傾斜面となり、北と東に玄海灘に面する海岸部となっている。この湊の対岸には古来より海上交通の要所として停泊地を提供してきた神集島が位置する。

周辺には、高地性集落と考えられる湊中野遺跡や神集島の古墳群等がある。

遺跡の現況が水田であり、かつ湧水の多い所であったため、当初は砂丘端部の位置の確認を主に考え、遺物包含層の広がりを重視した。ところが、予想より砂丘の形上面の変化が大きくかつ、かなりの凸凹をもって北に向かって延びていたことも確認された。そこで地点的には、各時代の遺構がよく遺存していた。時代別に検出された遺構をあげてみると、先ず、縄文時代後期の土壙墓と遺物包含層がある。土器から後期後半～終末と考えられる。その他、剝片鏃・つまみ形石器も出土する。遺構の主体である鎌倉～室町時代のものとして、大溝・井戸・池状遺構・掘立柱建物跡があり、土師質土器・須恵質土器・青磁・白磁や木製品として下駄・箸・桶・曲物等が出土した。Fig106の1・3・4は溝遺構、2・5・6は土壙、７は井戸の出土品である。1・2は杯、３～６は小皿、７は漆器椀である。７は黒漆の上から見込と外面に赤漆で草花文を描くもので、形態は削りだしの弱い凸状高台をもち大きく内湾して立上がるものである。その他、図示しなかったが、中国、朝鮮半島からの輸入陶磁器のほか、常滑のカメ、東播系の須恵質土器の国内陶磁器も認められる。13～14世紀のこの地方の海を媒体とする交流を示す重要な遺跡とされよう。

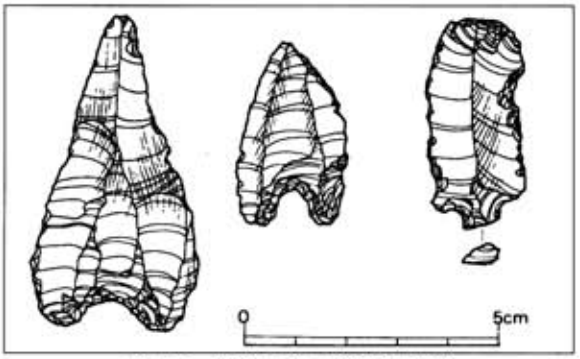


図105　縄文時代の遺物実測図

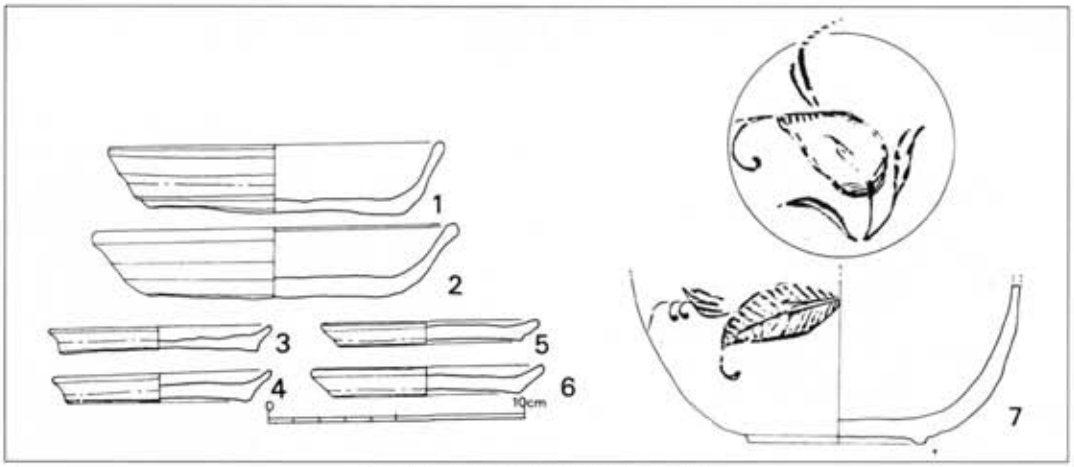


図106　中世の出土遺物実測図

(1) 湊松本遺跡（北西から）
(2) 土壙墓人骨出土状況（縄文後期）
(3) 調査区全景（北西から）
(4) 検出遺構（SE301井戸）
(5) 遺物出土状況（下駄）
(6) 遺物出土状況（漆器椀））

(37) 新木場東遺跡（略号：NKH）

遺跡の所在地

東松浦郡肥前町大字新木場字東

調査主体者

肥前町教育委員会

調査期間

平成２年９月～12月

調査面積

約1,200㎡

遺跡の概要

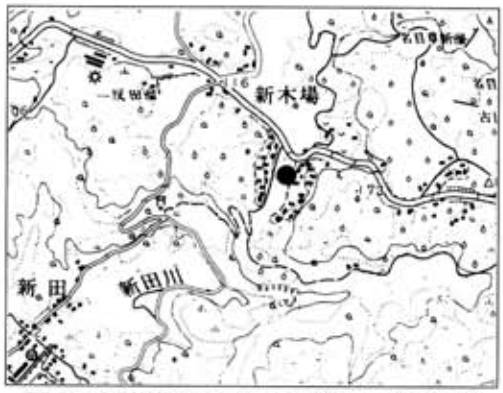


図108 新木場遺跡周辺地形図(1：25,000)

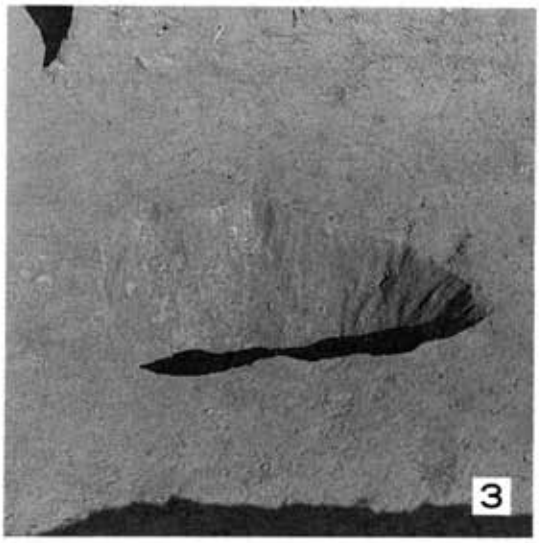
肥前町は佐賀県西北部東松浦半島に位置し、標高100～200ｍ内外の起伏の多い丘陵地帯で、海岸沿いに一部水成岩が含まれる他は、ほとんどが玄武岩の風化した土壌で覆われている。新木場東遺跡は標高約170ｍの丘陵上のほぼ平坦な場所に所在し、北側、西側、南側は谷に向かってかなり急に傾斜している。付近には川原田遺跡等、旧石器～縄文時代の遺跡が多数分布している。

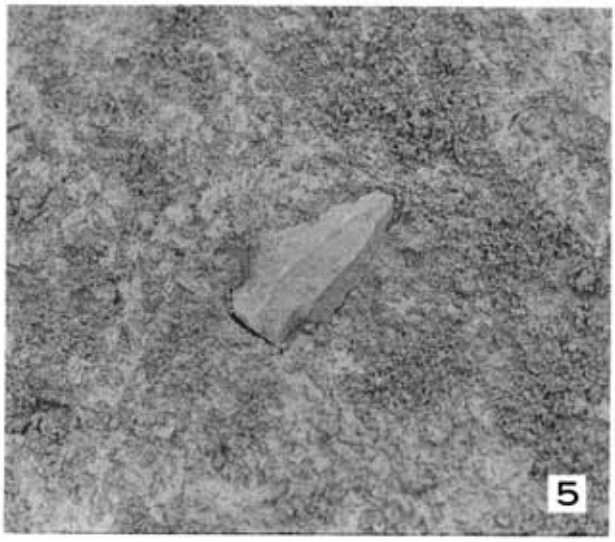
調査は２×２ｍの発掘区を基本とし、すべて手掘りで行い、出土遺物は各層ごとに出土地点を記録し取り上げた。土の堆積状況は、表土から地山までの厚さ0.6～0.9ｍで、Ⅰ層灰黒色の表土、Ⅱ層黄褐色土、Ⅲ層暗黄褐色粘質土、Ⅳ層地山からなる。Ⅱ層下面からⅢ層にかけては部分的に玄武岩礫が含まれている。

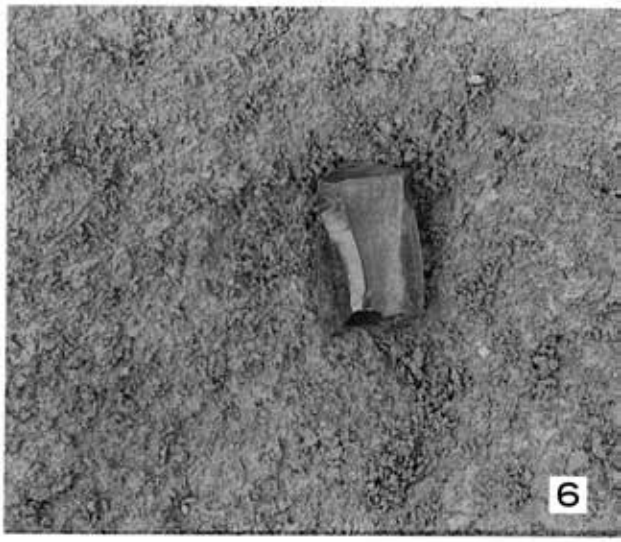
遺構は15基の土壙を検出した。SK014は楕円形に近い土壙で、最大長は、1.10ｍ、最大深は0.64ｍ、床面の最大長は0.35ｍである。その他は不整形の土壙で、遺構の深さは20～30㎝前後のもので、上面は削平されていると考えられる。

遺物は、509点が出土した。そのうち石器類は、422点で、ナイフ形石器、剥片尖頭器、削器、彫器、錐、細石刃、石鏃、磨製石斧等が出土した。石材別では、黒曜石315点と安山岩107点で、およそ３：１の割合であった。土器は縄文土器片、弥生土器片、土師器小皿、また、青磁碗が出土した。

今回の調査で新木場東遺跡は、旧石器時代のナイフ形石器、剥片尖頭器を主体とする文化と細石刃を主体とする文化が中心の遺跡であることがわかった。他の時期は、遺物の出土が少量のため、この時期の構造をとらえるのは困難である。また、肥前町での中世遺物の出土は希である。上場地区は、旧石器時代の遺跡集中地として注目されており、今後の調査・研究において重要な遺跡である。







(1) 新木場東遺跡遠景（北から）
(2) 遺跡全景（東から）
(3) SK014土壙（南から）
(4) 遺物出土状況（東から）
(5) 剥片尖頭器出土状況
(6) 彫器出土状況

《筑後川下流用水事業に係る調査》

大詫間幹線水路

(38) 原の町西遺跡(千代田原の町工区)

遺跡の所在地

神埼郡千代田町大字境原

調査期間

平成3年3月4日～3月8日

調査面積

31,5㎡

図110 原の町西遺跡周辺地形図(1：25,000)

遺跡の概要

原の町西遺跡は、城原川西岸約2㎞の地点、標高約3ｍの低平な水田部に位置しており、縦横に走行するクリークによって形成される小規模な環濠集落跡の一部に該当する。当該地の西方には、弥生期の集落跡である貴別当神社遺跡が、東方には弥生期と中世の遺物散布地とされる境原四本松遺跡、姉一本松遺跡等が、各々500ｍ前後の間隔をおいて分布している。

調査の結果、中世後期の所産と思われる3条の溝（方形に巡らされた溝の一部分か？）近世期の井戸、土壙等の遺構を検出した。遺物は、中世期の輸入陶磁器片、土師器小皿、近世期の生活雑器類（鉢、皿、燈明具等の陶磁器、瓦質土器)、瓦片等の他に、溝中より多量の鉄滓が出土している。

なお、対象地となっている環濠集落内の島状地には、寺院跡であったとの所伝を伴い、その歴代の住僧と供養碑とされる石塔が調査区の東脇に存在しており、この遺跡の性格を推定する上での重要な事象と見做される。

原の町遺跡Ⅰ区
(1) 遠景（西から）
(2) 調査風景
(3) 遺物出土状況
　　(国産磁器鉢)
(4) 調査区全景
(5) 井戸内遺物出土状況
(国産陶器、灯明皿)
(6) 溝跡（北から）

1

2

4

3

6

5

V．総　　括

平成２年度に実施した農業基盤整備事業に係る文化財調査の内、確認調査については佐賀東部地区で鳥栖市・中原町・上峰町・神埼町の１市３町の計９地区、佐賀西部地区では佐賀市・多久市・川副町の２市１町の計14地区、佐賀南部地区においては鹿島市・白石町・有明町・太良町の１市３町の計８地区、佐賀北部地区で伊万里市・西有田町・相知町・浜玉町の１市３町の計５地区、佐賀上場地区では唐津市・鎮西町・玄海町・肥前町の１市３町の計６地区において行い、筑後川下流用水事業に係る調査は上峰町・諸富町・千代田町の３地区で実施した。

また発掘調査に関しては佐賀東部地区17遺跡、佐賀西部地区７遺跡、佐賀南部地区５遺跡、佐賀上場地区５遺跡に対して行い、筑後川下流用水事業に係る調査では１遺跡について実施した。以下、確認調査については地区毎に概括し、発掘調査については時代毎に特徴的な遺跡に関して略述したい。

◎　文化財確認調査

（１）佐賀東部地区

鳥栖市：鳥栖北部地区（山浦地区、養父地区）、中原町：中原北部地区（綾部地区、高柳地区）、上峰町：上峰北部地区、神埼町：神埼工区（祇園原地区、城原地区）の６地区で遺跡が確認された。鳥栖北部地区の内、山浦地区では４～８・９世紀の竪穴住居跡、土壙、溝跡等の遺構及び遺物が検出され古墳時代から平安時代の集落跡として、養父地区では竪穴住居跡、土壙、溝跡、柱穴等及び弥生土器、土師器、須恵器が検出され弥生時代から奈良時代集落跡としてそれぞれ確認された。中原北部地区の内、綾部地区では土壙、溝跡、小穴等及び弥生土器、須恵器、土師器が検出され、弥生時代から古墳時代に至る複合遺跡として確認され、高柳地区では大塚古墳の墓道、周溝が確認された。上峰北部地区ではA、B、C３地点の内、A地点で竪穴住居跡、溝跡、小穴及び弥生土器、土師器、石器が検出され、縄文時代から古墳時代にかけての複合遺跡であることが確認された。神埼工区の内、祇園原地区では奈良時代の官道確認のため２箇所の試掘溝を設定したところ、大部分は中世の溝で破壊されたていたが、一部路底と考えられる土層の堆積が確認された。城原地区では大型の柱穴、溝跡、土壙及び14～15世紀の土師器小皿、鉢、墨書木札、人形が検出され、通称「元屋敷」と呼ばれているように勢福寺城関連の屋敷跡であることが確認された。

（２）佐賀西部地区

佐賀市：久保泉東部地区・久保泉西部地区・金立南部地区・兵庫南部地区、多久市：高木川

内地区、川副町：川副中部地区の６地区において遺跡の存在を確認した。

久保泉東部地区では竪穴住居跡、土壙、溝跡等及び弥生土器、須恵器、土師器が検出され弥生時代から古墳時代に至る複合遺跡であることが確認された。久保泉西部地区においては竪穴住居跡、土壙、溝跡及び弥生土器、土師器が検出され、弥生時代から古墳時代の集落跡であることが確認された。金立南部地区では土壙、小穴及び弥生土器が検出され弥生時代の集落跡であることが確認された。また兵庫南部地区においては土壙、溝跡及び弥生土器、土師器が検出され弥生時代から古墳時代の集落跡であることが確認された。更に多久市高木川内地区においては土壙、溝跡、小穴及び陶磁器が検出され中世から近世の集落跡であることが確認された結果、高木川内遺跡として周知化した。川副中部地区の早津江地区では中世から近世にかけての溝跡及び土師器が検出された結果、中世の集落跡であることが確認された。また鰐江地区では中世の土壙、小穴及び土師器、陶磁器が検出され、集落跡であることが確認された。

（３）佐賀南部地区

白石町：白石西第三地区・白石西第四地区、の２地区において遺跡の存在を確認した。

白石西第三地区では中世末から近世初頭と考えられる棺桶墓１基が検出され、その掘り方上部には折敷と考えられる板材があり、その上から２個の小皿が出土した。白石第四地区では、弥生時代から古墳時代の土壙及び遺物が検出され、集落跡の周辺部であることが確認された。

（４）佐賀北部地区

佐賀北部地区では、若干の遺物が出土したのみで遺跡は確認されなかった。

（５）佐賀上場地区

唐津市：上場II期地区（湊地区）において弥生時代から中世の包含層及び遺構を検出し、集落跡であることが確認された。

（６）筑後川下流用水事業

水路掘削予定の千代田町原の町地区内で、中世から近世にかけての集落跡を確認した。

◎文化財発掘調査

（１）旧石器時代～縄文時代

この時代については西田遺跡（鳥栖市）、高柳三本桜遺跡（中原町）、八藤遺跡・堤土塁（上峰町）、上石動遺跡（東脊振村）、貴別当神社遺跡（千代田町）、村徳永遺跡（佐賀市）、竹木場前田遺跡・菅牟田西山遺跡・湊松本遺跡（唐津市）、新木場東遺跡（肥前町）の11遺跡が調査さ

れている。

これらの内、西田遺跡は脊振山系から派生する丘陵部に立地しており、広範囲に縄文時代早期の集石遺構、土壙、中期の埋甕等が検出された。また、多量の土器、石器も出土した。八藤遺跡・堤土塁もまた脊振山系から派生する丘陵部に位置しており、縄文後期を中心とした土壙が検出された。また、フレイク、チップが多量に集中する部分があり石器製作の場として認識された。竹木場前田遺跡、菅牟田西山遺跡共に上場台地の丘陵部に位置し、旧石器時代のナイフ形石器、角錐状石器、細石核及び縄文時代の石鏃、石匙、掻器等が出土している。湊松本遺跡は上場台地から海岸に下った砂丘のうえに位置しており、縄文時代後期の土壙墓が検出された。また、遺物包含層からは後期の剝片鏃、つまみ形石器等が出土している。新木場東遺跡は上場台地の丘陵部に位置し、旧石器時代のナイフ形石器、剝片尖頭器、彫器、細石刃等が出土したほか、縄文時代の土壙及び土器、石器が検出された。その他、上石動遺跡、貴別当神社遺跡、村徳永遺跡から縄文晩期の土壙が検出され、遺物も出土した。高柳三本桜遺跡からは縄文前期の遺物包含層が検出された。

（2）弥生時代

この時代については鈴町遺跡（基山町）、養父遺跡（鳥栖市）、拾徳遺跡（中原町）、八藤遺跡・堤六本谷遺跡・堤土塁（上峰町）、井手遺跡・迎田遺跡Ⅰ・Ⅱ（神埼町）、貴別当神社遺跡（千代田町）、村徳永遺跡・瓦町遺跡・久富遺跡・原ノ町遺跡・南宿遺跡（佐賀市）、四反田遺跡（多久市）、船野遺跡（白石町）、則重遺跡（鹿島市）の17例の調査例がある。鈴町遺跡は扇状地に立地しており、中期の甕棺墓及び土壙が検出されている。養父遺跡は秋光川によって形成された扇状地に立地しており、後期後半の竪穴住居跡が検出され大規模な集落跡の存在が確認された。八藤遺跡、堤六本谷遺跡、堤土塁は脊振山系から派生した丘陵上に立地しており、竪穴住居跡、土壙等が散在して検出されている。迎田遺跡Ⅰ・Ⅱは町北西部の微高地上に位置しており、後期の竪穴住居跡（９棟）、土壙、甕棺（１基）、溝跡が検出されている。井手遺跡からは溝跡が検出されている。貴別当神社遺跡では中期を中心とした土壙、貯蔵穴、井戸跡等が検出された。遺物も弥生前期から後期の土器（甕、壺、高杯、器台等）、石器（砥石、凹石、磨石、石鏃等）、木製品（梯子）、土製品等多量が出土している。特に、中期の土壙から出土した梯子は使用状況がよくわかる好資料である。佐賀市の各遺跡は脊振山系南麓に広がる沖積平野に位置している。村徳永遺跡は後期を中心とした竪穴住居跡（40軒以上）、掘立柱建物跡、井戸跡、土壙、溝跡等が検出されており一大集落をなすことが確認された。瓦町遺跡は中期を中心とした土壙、柱穴、溝跡等が検出されている。大溝には棚路施設、杭列等人為的施設も付属している。遺物は大溝、土壙等からの多量の土器（壺、甕、鉢、高杯、器台等）、石器（石包丁、石皿、石剣等）、木製品（漆塗り木製高杯、漆塗り木製皿、竪杵、槌、鍬、鋤、槽、臼、梯子、匙等）が出土し

ている。その他、久富遺跡は中期初頭の竪穴住居跡、土壙、溝が、原ノ町遺跡は前期の貯蔵穴が、南宿遺跡は中期から後期の掘立柱建物遺跡、土壙、円形区溝状遺構、井戸跡が検出されている。四反田遺跡は後期から古墳時代初頭の竪穴住居跡、溝跡が検出された。遺物は土器、石器の他に竪穴住居跡の床面直上から小型内行花文仿製鏡片が出土した。船野遺跡は杵島山系の東側の水田地帯に立地している。掘立柱建物跡1棟が検出されており、丸太を井桁状に組んだ上に礎板を乗せ、その上に柱を据えるという二重構造をもつ。遺物は中期を中心とした土器、石器のほかに鋤、鍬、杓子、槽、石斧柄等の木製品が多量に出土した。則重遺跡は中川によって形成された扇状地上に位置し、中期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居跡（6棟）、土壙、等が検出された。

（3）古墳時代

この時代については養父遺跡・西田遺跡（鳥栖市）、上石動遺跡（東脊振村）、寺浦遺跡、久富遺跡・阿高遺跡・礫木遺跡・南宿遺跡（佐賀市）、則重遺跡（鹿島市）の9件が調査されている。

養父遺跡では、弥生時代終末から古墳時代初期の竪穴住居跡（8棟）、土壙等の遺構及び土師器等の遺物が検出され、この地域の集落の変遷を知るうえで重要な資料である。西田遺跡からは一辺が15m以上になる方墳の周溝の一部が検出された。上石動遺跡では横穴式石室を内部主体とする円墳2基が検出された。佐賀市の各遺跡は脊振山系の南に広がる沖積平野に位置している。中でも東高田遺跡では竪穴住居跡（51棟）、掘立柱建物跡（28棟）、土壙、柵跡、溝跡等の遺構が検出され、この地域の中心的な集落跡であることが解かった。その他、久富遺跡では掘立柱建物跡、大溝、井戸、土壙、阿高遺跡では掘立柱建物跡、井戸、土壙、溝跡、礫木遺跡では掘立柱建物跡、土壙、寺裏遺跡では土壙、井戸、南宿遺跡では井戸が検出されている。則重遺跡では弥生代終末から古墳時代初頭の竪穴住居跡（3棟）、土壙が検出されている。

（4）古代（奈良時代・平安時代）

この時期の遺跡としては養父遺跡（鳥栖市）、八藤遺跡・堤六本谷遺跡・堤土塁（上峰町）、拾徳遺跡・高柳三本桜遺跡（中原町）、迎田遺跡Ⅰ・Ⅱ区・迎田遺跡Ⅲ区・Ⅳ区（神埼町）、村徳永遺跡・原ノ原遺跡・東高田遺跡跡・礫木遺跡（佐賀市）、多田遺跡（白石町）の13例が調査されている。

養父遺跡では弥生時代等の遺構に混じって奈良時代の溝跡が検出されている。八藤遺跡、堤土塁は連続した遺跡で奈良時代の掘立柱建物跡、土壙、溝跡等が検出され、遺物も土師器、須恵器が出土している。これらの遺構は「堤土塁」の解明に好資料となると考えられる。堤六本谷遺跡でも、掘立柱建物跡、土壙等が検出され、八藤遺跡、堤土塁と一連の遺跡と考えられる。

迎田遺跡Ⅰ・Ⅱ区では平安時代の掘立柱建物跡、井戸跡が検出され、井戸跡から土師器椀、杯、甕等が出土した。迎田遺跡Ⅲ・Ⅳ区では古代官道を調査したところ、砂層の硬化面及び溝状遺構が検出されたが官道跡として確定は困難であった。村徳永遺跡では流水路が検出され、土師器、須恵器、黒色土器等が出土している。原ノ町遺跡では古墳時代から奈良時代にかけての竪穴住居跡、掘立柱建物跡、柵列、溝跡等が検出され、土師器、須恵器の杯、皿、甕、壺等の遺物が出土している。東高田遺跡では竪穴住居跡、掘立柱建物跡（12棟以上）、土壙、溝跡が検出されている。櫟木遺跡では平安時代の井戸跡、土壙が検出されている。多田遺跡は杵島山系の東側に広がる水田地帯に位置しており、平安時代初期に「多駄」と称される荘園が存在したことが文献上から窺える。調査の結果、土壙、溝跡等が検出され、「神」、「浄」、「达」達の異体字の墨書土器３点も出土している。

（５）中世（鎌倉時代・室町時代）

この時代については原古賀遺跡・本村遺跡（鳥栖市）、鈴町遺跡（基山町）、上石動遺跡（東脊振村）、井手遺跡（神埼町）、原の町西遺跡（千代田町）、村徳永遺跡・阿高遺跡・寺裏遺跡・梅屋敷遺跡・原ノ町遺跡・東高田遺跡・南宿遺跡・北宿遺跡（佐賀市）、四反田遺跡（多久市）、正願寺遺跡（鹿島市）、糸岐川南遺跡（太良町）、湊松本遺跡（唐渉市）の18遺跡の調査が実施されている。

原古賀遺跡は安良川の右岸、大楠集落の高台を下った所に位置し、祭祀に関係すると考えられる土壙、石組状遺構が検出され、遺物も銅銭等関連するものが出土している。本村遺跡は脊振山系から派生した丘陵先端部に位置し、寺院に関連すると考えられる池状遺構、土壙が検出されている。重復した土壙埋土からは擂鉢、土鍋、瓦器、青磁等の遺物が大量に出土した。上石動遺跡では掘立柱建物跡、土壙等が検出された。井手遺跡では掘立柱建物跡、溝跡、遺物包含層が検出され、溝跡、包含層からは14～15世紀の土師器、鉢、漆器椀、木製品が大量に出土した。原の町西遺跡はクリークに囲まれた平野部に位置し、溝跡が検出されているとともに土師器、瓦質土器、輸入陶器等大量の遺物が出土している。梅屋敷遺跡では掘立柱建物跡、土壙、井戸跡、溝跡が検出され、地元に伝承されているとおりに中世から近世にかけての館跡であることが解った。佐賀市の他の遺跡では土壙、井戸跡、溝跡等が検出されているが詳細は不明である。　四反田遺跡では掘立柱建物跡、土壙溝等が検出されている。正願地遺跡では土壙、溝跡が検出され、若干の土師器、陶磁器が出土した。糸岐川南遺跡は河川の開析作用によって形成された谷底平野に位置しており、掘立柱建物跡、土壙、溝跡等が検出され、土師器、輸入陶磁器が大量に出土している。湊松本遺跡では掘立柱建物跡、井戸跡、池状遺構等が検出され、遺物は土師器、須恵質土器、輸入陶磁器、及び下駄、箸、桶、曲物等の木製品が出土している。

（6）近世（安土・桃山時代以降）

この時期の遺跡については本村遺跡（鳥栖市）、堤六本谷遺跡（神埼町）、原の町西遺跡（千代田町）、篠木野遺跡・寺裏遺跡・梅屋敷遺跡・北宿遺跡（佐賀市）、鳥ノ巣遺跡（白石町）、正願地遺跡（鹿島市）、糸岐川南遺跡（太良町）の10件の調査が実施されている。

本村遺跡では掘立柱建物跡のほか素焼きの大甕が検出され、内部から擂鉢、小甕が出土した。堤六本谷遺跡、篠木野遺跡、梅屋敷遺跡、北宿遺跡、正願地遺跡では井戸跡、土壙等の遺構が検出された。寺裏遺跡では桶棺墓、甕棺墓が検出されている。鳥ノ巣遺跡では土壙、溝跡が検出された。土壙はいずれも浅く、遺物は土師質土器、陶磁器が若干出土した。糸岐川南遺跡では小穴群が検出され、陶磁器等の遺物が出土した。

以上、佐賀県内において平成２年度に実施された農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の確認調査、及び本調査に関する概要を付記したが、近年少数の市町村に基盤整備事業が集中する傾向が強まっており、文化財の保護と開発事業との調整が更に困難となっている。文化財の保護部局と開発部局との円滑な調整について、より一層の努力が求められるところである。

佐賀県文化財調査報告書第108集

佐賀県農業基盤整備事業に係る

文化財調査報告書10

発行／平成４年３月31日
佐賀県教育委員会
佐賀市城内1-1-59

印刷／福博印刷株式会社
佐賀市兵庫町修理田
TEL0952-24-2366